

市原市文化財センター年報

平成10年度

財団法人 市原市文化財センター

序

平成10年度は、公共・民間を合わせて、確認調査12、確認・本調査5、本調査8、整理5、整理・報告書刊行5の35事業について実施しました。

発掘調査では、旧石器時代から近世に至る多種多様な遺構や遺物を検出するなど、重要な成果をあげることができました。今年度も、昨年に引き続き、臨海部や低地における調査事例が多く、姉崎妙経寺遺跡からは、東京湾岸の砂丘上に形成された縄文時代の竪穴住居跡や前方後円墳をはじめとする古墳群が発見されました。

整理事業では、西広貝塚・山倉貝塚とならび、市原市を代表する貝塚である根田祇園原貝塚の報告書を刊行いたしました。根田祇園原貝塚は、馬蹄形貝塚のほぼ全域が調査された数少ない遺跡であり、集落・食生活・祭祀など、縄文人の生活を復原する上で貴重な成果が得られました。

また、平成11年3月に実施しました遺跡発表会では、5遺跡について調査成果を公表するとともに、奈良大学学長の水野正好先生に『今、考古学が楽しい』と題して御講演をいただきました。数ある考古学のテーマの中から、一般の方にもなじみやすい内容について、先生独特の話術で、楽しく、しかもわかりやすいお話しをしていただき、市内外から参加された多くの皆様からも好評を得ることができました。

当センターでは、今後も、発掘調査・整理事業を通じて得られた成果を公開できる機会を通じて、郷土の歴史を身近に接し、埋蔵文化財の保護と重要性をご理解いただきますよう、一層の努力していくつもりでおります。

最後となりましたが、日頃よりご指導・ご協力を賜りました千葉県教育委員会、市原市教育委員会ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成13年3月30日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 小 茶 文 夫

目 次

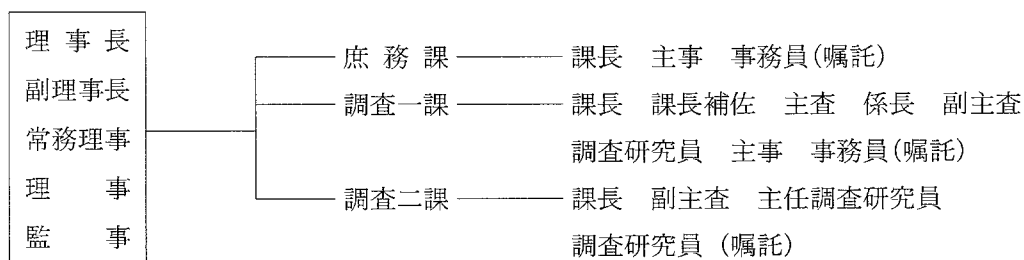
| | |
|----------------------|----|
| 序 | |
| I 機 構 | 1 |
| II 平成10年度の事業概要 | 2 |
| III 平成10年度の調査概要 | 6 |
| 1. 八幡御墓堂遺跡 | 8 |
| 2. 八幡御墓堂遺跡 | 9 |
| 3. 姉崎妙経寺遺跡（4次調査） | 10 |
| 4. 潤井戸中横峰遺跡（第3次） | 12 |
| 5. 椎津中台遺跡 | 14 |
| 6. 椎津堰谷遺跡（第1地点・第2地点） | 16 |
| 7. 姉崎山新遺跡（第1地点） | 18 |
| 8. 山田橋大塚台遺跡（2次） | 19 |
| 9. 潤井戸鎌之助遺跡 | 20 |
| 10. 潤井戸鎌之助遺跡（第2次） | 22 |
| 11. 野毛上境町遺跡 | 24 |
| 12. 郡本遺跡（第5次） | 25 |
| 13. 五所居下遺跡 | 26 |
| 14. 新堀小鳥向遺跡 | 27 |
| 15. 十五沢坊ヶ谷遺跡A地点（第2次） | 28 |
| 16. 十五沢坊ヶ谷遺跡B地点 | 31 |
| 17. 十五沢坊ヶ谷遺跡C地点 | 33 |
| 18. 宮原遺跡A・B地点 | 34 |
| 19. 西野遺跡A地点 | 37 |
| 20. 大作脇ノ坂台遺跡 | 38 |
| 21. 椎津茶ノ木遺跡（第2次） | 40 |
| 22. 市原条里制遺跡 | 42 |
| 23. 鶴舞遺跡 | 44 |
| 24. 鶴舞子来遺跡 | 45 |
| 25. 不入斗片又木遺跡 | 46 |
| 26. 北野原遺跡 | 47 |
| IV 遺跡管理システムについて | 48 |
| V 平成10年度受贈図書一覧 | 49 |
| 付編1. 野毛上境町遺跡発掘調査報告 | 78 |
| 付編2. 鶴舞遺跡発掘調査報告 | 80 |
| 付編3. 鶴舞子来遺跡発掘調査報告 | 84 |

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄付行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成10年度の職員は、事務職員4名（うち都市公社出向職員1名）、技術職員16名（うち事務従事職員15名）であり、その組織および氏名は以下のとおりである。

1. 組 織

役 員



2. 役 員

| 職 名 | 役 職 名 | 氏 名 |
|-------|-------------|-------|
| 理 事 長 | 生涯学習部副参事 | 小茶 文夫 |
| 副理事長 | 生涯学習部部長 | 杉田 昭 |
| 常務理事 | 専 任 | 山口 節 |
| 理 事 | 市原市教育委員会教育長 | 大野 皎 |
| 理 事 | 國學院大学教授 | 加藤 晋平 |
| 理 事 | 和洋女子大学名誉教授 | 寺村 光晴 |

| 職 名 | 役 職 名 | 氏 名 |
|-----|-------------|-------|
| 理 事 | 郷 土 史 家 | 木村千春 |
| 理 事 | 企 画 部 長 | 鶴澤 綱夫 |
| 理 事 | 総 務 部 長 | 河野 徳三 |
| 理 事 | 都 市 計 画 部 長 | 大町 裕之 |
| 監 事 | 出 納 室 長 | 高山 義則 |
| 監 事 | 教育総務部総務課長 | 武内 邦夫 |

3. 職 員

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|------|-----------|-------|
| 庶務課 | 課 長 | 宮崎 澄夫 |
| | 主 事 | 高浦 貞子 |
| | 主 事 | 阿部 茂之 |
| | 事務員(嘱託) | 常澄 智子 |
| 調査一課 | 課 長 | 栗田 則久 |
| | 課 長 補 佐 | 蜂屋 孝之 |
| | 主 査 | 田中 清美 |
| | 係 長 | 小出 紳夫 |
| | 副 主 査 | 近藤 敏 |
| | 副 主 査 | 高橋 康男 |
| 調査二課 | 課 長 | 宮本 敬一 |
| | 副 主 査 | 浅利 幸一 |
| | 主任調査研究員 | 忍澤 成視 |
| | 調査研究員(嘱託) | 半田 堅三 |

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|------|-----------|-------|
| 調査一課 | 調 査 研 究 員 | 小川 浩一 |
| | 調 査 研 究 員 | 北見 一弘 |
| | 調 査 研 究 員 | 鶴岡 英一 |
| | 調 査 研 究 員 | 小橋 健司 |
| | 調 査 研 究 員 | 牧野 光隆 |
| | 主 事 | 大鐘 光江 |
| | 事務員(嘱託) | 辻 葉子 |
| 調査二課 | 課 長 | 宮本 敬一 |
| | 副 主 査 | 浅利 幸一 |
| | 主任調査研究員 | 忍澤 成視 |
| | 調査研究員(嘱託) | 半田 堅三 |

II 平成10年度事業概要

1. 理事会の開催

第1回理事会 平成10年5月25日

議案第1号 平成9年度事業報告の承認について

議案第2号 平成9年度収入支出決算の承認について

議案第3号 役員報酬手当に関する要綱の一部を改正する要綱について

第2回理事会 平成10年6月24日（書面表決）

議案第1号 就業規則の一部を改正する規則について

第3回理事会 平成10年12月22日

議案第1号 職員給与規程の一部を改正する規程について

議案第2号 平成10事業年度事業計画の変更について

議案第3号 平成10事業年度補正予算（第1号）について

第4回理事会 平成11年3月26日

議案第1号 嘱託職員就業規則の一部を改正する規則について

議案第2号 補助員就業規則の一部を改正する規則について

議案第3号 常勤役員の報酬額の決定について

議案第4号 平成10事業年度事業計画の変更について

議案第5号 平成10事業年度補正予算（第2号）について

議案第6号 平成11事業年度事業計画について

議案第7号 平成11事業年度収入支出予算について

2. 会計監査

平成10事業年度の会計監査は、平成11年5月18日財団法人市原市文化財センター事務室において、武内邦夫監事により実施された。

3. 平成10年度受託事業

| 番号 | 事業名 | 委託者名 | 遺跡名 | 種別 | 事業内容 | 面積 | 契約年月日 | 受託金額(円) |
|----|-------------------------------|--------------------|------------------|--------|-------------|----------------|-------------|------------|
| 1 | 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市 (八幡都市改造事務所) | 八幡御墓堂遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 180㎡ | 平成10年4月10日 | 3,277,050 |
| 2 | 姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査委託 | 市原市 (姉崎都市改造事務所) | 姉崎妙経寺遺跡 | 古墳 | 本調査 | 1,800㎡ | 平成10年7月17日 | 15,918,000 |
| 3 | 押沼安須線(潤井戸)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 潤井戸中横峰遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 120㎡ | 平成10年5月14日 | 2,306,850 |
| 4 | 押沼安須線(潤井戸)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 潤井戸中横峰遺跡 | 溝跡・道路跡 | 本調査 | 490㎡ | 平成10年6月29日 | 3,068,100 |
| 5 | 八幡椎津線(椎津)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 椎津中台遺跡 椎津堰谷遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 600㎡ | 平成10年5月28日 | 4,387,950 |
| 6 | 八幡椎津線(椎津中台)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 椎津中台遺跡 | 集落跡 | 本調査 | 2,500㎡ | 平成10年7月28日 | 15,397,200 |
| 7 | 八幡椎津線(椎津堰谷)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 椎津堰谷遺跡 | 集落跡 | 確認調査 本調査 | 915㎡ 2,600㎡ | 平成10年7月28日 | 12,184,200 |
| 8 | 八幡椎津線(姉崎)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 姉崎山新遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 457㎡ | 平成10年10月22日 | 3,573,150 |
| 9 | 草刈西広線(山田橋)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (街路課) | 山田橋大塚台遺跡 | 集落跡 | 確認調査 本調査 | 2,000㎡ | 平成10年6月26日 | 12,999,000 |

| 番号 | 事業名 | 委託者名 | 遺跡名 | 種別 | 事業内容 | 面積 | 契約年月日 | 受託金額(円) |
|-----|-------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|-----------|-------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| 10 | 市道2120号線(金川原)埋蔵文化財調査委託 | 市原市 (道路建設課) | 野毛上境町遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 25㎡ | 平成10年5月29日 | 1,438,500 |
| 11 | (仮称)市津消防署建設に伴う埋蔵文化財調査委託 | 市原市 (消防局) | 潤井戸鎌之助遺跡 | 集落跡 | 確認調査 本調査 | 2,790㎡ | 平成10年10月7日 | 19,369,350 |
| 12 | 市津運動広場埋蔵文化財本調査委託 | 市原市 (スポーツ振興課) | 潤井戸鎌之助遺跡 | 集落跡 | 本調査 | 9,500㎡ | 平成10年4月1日 | 49,999,950 |
| 13 | 市内遺跡発掘調査事業 | 市原市 (ふるさと文化課) | 郡本遺跡 五所居下遺跡 新堀小鳥向遺跡 畑木小谷遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 本調査 整理 | 1,568㎡ | 平成10年7月1日 | 7,255,750 |
| 14 | ほ場整備事業(県営担い手)海上地区埋蔵文化財調査業務(委託番号第3号) | 千葉県 (市原土地改良事務所) | 十五沢坊ヶ谷遺跡 西野遺跡 宮原遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 612㎡ | 平成10年12月7日 | 17,884,446 |
| 15 | ほ場整備事業(県営担い手)海上地区埋蔵文化財調査業務(委託番号第4号) | 千葉県 (市原土地改良事務所) | 宮原遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 860㎡ | 平成10年12月7日 | 14,092,554 |
| 16 | 海上地区遺跡発掘調査事業 | 市原市 (ふるさと文化課) | 十五沢坊ヶ谷遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 160㎡ (国庫) 3,200㎡ (市庫) | 平成10年11月26日 | 5,643,000 |
| 17 | 都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査委託 | 市原市 (農業センター) | 浅井小向釜神遺跡 | 集落跡 | 整理 | | 平成10年10月23日 | 4,999,050 |
| 18 | 国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業(根田祇園原貝塚ほか) | 市原市 (ふるさと文化課) | 根田祇園原貝塚 坊作遺跡 | 貝塚 集落跡 | 整理 | | 平成10年4月1日 | 11,144,225 |
| 19 | 国分寺台地区文化財整理事業 | 市原市 (ふるさと文化課) | 西広貝塚 | 貝塚 | 整理 | | 平成10年4月1日 | 29,999,550 |
| 20 | 市津配水池築造工事埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (水道建設課) | 大作脇ノ坂台遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 394㎡ | 平成10年6月29日 | 2,581,950 |
| 21 | 市津配水池築造工事埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (水道建設課) | 大作脇ノ坂台遺跡 | 包蔵地 | 本調査 | 730㎡ | 平成10年8月5日 | 4,494,000 |
| 22 | 不特定遺跡発掘調査事業 | 市原市 (ふるさと文化課) | 椎津茶ノ木遺跡 | 包蔵地 | 本調査 | 300㎡ | 平成10年5月11日 | 3,999,000 |
| 23 | 若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託 | 市原市 (下水道建設第2課) | 市原条里制遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 本調査 | 860㎡ | 平成10年8月31日 | 6,499,500 |
| 24 | 一般県道鶴舞牛久線交差点改良に伴う埋蔵文化財調査 | 千葉県 (市原土木事務所) | 鶴舞遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 13.2㎡ | 平成10年5月11日 | 1,029,000 |
| 25 | 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市 (八幡都市改造事務所) | 八幡御墓堂遺跡 | 包蔵地 | 本調査 | 430㎡ | 平成10年10月16日 | 6,973,050 |
| 26 | 郡本地区集合住宅建設に伴う埋蔵文化財調査 | 岡本吉男 | 郡本遺跡 | 集落跡 | 整理 報告書刊行 | 380㎡ | 平成9年8月25日 (10年度まで) | 1,828,205 総事業費 5,313,000 |
| 27 | 市原地区土地造成に伴う埋蔵文化財調査 | (有)とりせん商事 | 市原城跡 | 城郭跡 | 整理 報告書刊行 | 887㎡ | 平成9年9月3日 (10年度まで) | 913,973 総事業費 2,998,300 |
| 28 | 老人保健施設建設に伴う埋蔵文化財調査 | 医療法人 社団高原会 | 中高根南名山遺跡 | 包蔵地 | 整理 報告書刊行 | 112㎡ | 平成9年11月4日 (10年度まで) | 1,668,894 総事業費 3,723,300 |
| 29 | 第1種電気通信設備の設置に伴う埋蔵文化財調査 | (株)協和エクシオ | 西国吉遺跡 | 包蔵地 | 整理 報告書刊行 | 300㎡ | 平成9年11月4日 (10年度まで) | 1,933,046 総事業費 5,384,400 |
| 30 | 宅地造成(大厩等)に伴う埋蔵文化財調査 | 大厩辰巳ヶ原遺跡 等調査会 | 大厩辰巳ヶ原遺跡 八幡御所跡推定地 | 集落跡 館跡 | 整理 報告書刊行 | 672㎡ 210㎡ | 平成9年11月25日 (10年度まで) | 4,587,062 総事業費 4,806,245 |
| 31 | 第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査 | (株)ツーカーセ ラー東京 | 鶴舞子来遺跡 | 包蔵地 | 確認調査 | 30㎡ | 平成10年5月1日 | 1,455,300 |
| 32 | 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 | (株)ライフ式拾 老世紀 | 椎津茶ノ木遺跡 | 集落跡 | 整理 | 470㎡ | 平成10年6月1日 | 570,150 |
| 33 | 第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査 | エヌ・ティー・ ティー 移動通信網株式 会社 | 不入斗遺跡群 (片又木遺跡) | 集落跡 | 確認調査 | 679.32㎡ | 平成10年11月30日 (11年度まで継続) | 705,600 総事業費 7,510,650 |
| 34 | 宅地開発に伴う埋蔵文化財調査 | 旭硝子株式 会社 | 北野原遺跡 | 集落跡 | 確認調査 | 1,183㎡ | 平成10年11月10日 | 6,104,700 |
| 35 | 宅地開発に伴う埋蔵文化財調査 | 旭硝子株式 会社 | 北野原遺跡 | 集落跡 | 本調査 整理 | 2,340㎡ | 平成11年1月13日 (11年度まで継続) | 7,698,600 総事業費 10,401,300 |
| 合 計 | | | | | | | | 287,980,005 |

4. 研究事業

調査事業、整理事業に係わる日常の研究活動、職員の資質向上を目指す研修を行っている。

(1) 外部主催研修会等

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

| | | |
|------------------|--------------|-----------|
| ア. 総 会 | 平成10年6月11日 | 京都府京都市 |
| イ. 研 修 会 | 平成10年10月8・9日 | 茨城県ひたちなか市 |
| ウ. 関東ブロック法人連絡協議会 | 平成10年6月4・5日 | 栃木県日光市 |
| | 平成10年11月5・6日 | 東京都江東区 |

エ. コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会

| | |
|----------------|---------|
| 平成10年6月2日 | 東京都豊島区 |
| 平成10年10月19・20日 | 神奈川県横浜市 |

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

| | | |
|----------|------------|----------------|
| ア. 総 会 | 平成10年6月29日 | 千葉市中央区 |
| イ. 役 員 会 | 平成11年3月11日 | 財団法人千葉県文化財センター |
| ウ. 部 会 | 事務部会 2回 | 技術部会 5回 |
| エ. 研 修 会 | 共同研修会 1回 | |

(2) 内部研修会

① 補助員研修会 平成10年12月4日 県立現代産業科学館

5. 普及事業

(1) 調査報告書『祇園原貝塚』の印刷

(2) 千葉県文化財法人連絡協議会

遺跡調査研究発表会

平成11年1月31日（日）於 千葉市文化センター

(3) 遺跡発表会

平成11年3月14日（日）於 サンプラザ市原

調査遺跡の成果報告

- ① 姉崎妙経寺遺跡
- ② 椎津中台遺跡
- ③ 潤井戸鎌之助遺跡
- ④ 山田橋大塚台遺跡
- ⑤ 根田祇園原貝塚

特別講演

「今、考古学が楽しい」 奈良大学 学長 水野正好

(4) 報告書等の頒布

6. 平成10年度決算報告

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差 異 | 備 考 |
|-------------|-------------|-------------|----------|-----|
| 基本財産運用収入 | 35,000 | 35,000 | 0 | |
| 事 業 収 入 | 288,017,000 | 288,031,285 | △ 14,285 | |
| 雑 収 入 | 268,000 | 268,447 | △ 447 | |
| 特定預金取崩収入 | 828,000 | 828,000 | 0 | |
| 当 期 収 入 合 計 | 289,148,000 | 289,162,732 | △ 14,732 | |
| 前期繰越収支差額 | 18,415,000 | 18,415,196 | △ 196 | |
| 収 入 合 計 | 307,563,000 | 307,577,928 | △ 14,928 | |

支出の部

(単位：円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差 異 | 備 考 |
|-------------|-------------|-------------|-----------|-----|
| 受 託 事 業 費 | 253,434,000 | 253,105,576 | 328,424 | |
| 研究普及事業費 | 7,611,000 | 7,593,916 | 17,084 | |
| 一 般 管 理 費 | 20,007,000 | 19,970,612 | 36,388 | |
| 消 費 税 支 出 | 6,891,000 | 6,814,300 | 76,700 | |
| 固定資産取得支出 | 2,663,000 | 2,662,044 | 956 | |
| 特 定 預 金 支 出 | 1,267,000 | 1,267,000 | 0 | |
| 当 期 支 出 合 計 | 291,873,000 | 291,413,448 | 459,552 | |
| 当 期 収 支 差 額 | △ 2,725,000 | △ 2,250,716 | △ 474,284 | |
| 次期繰越収支差額 | 15,690,000 | 16,164,480 | △ 474,480 | |

Ⅲ 平成10年度調査概要

平成10年度は、公共・民間を合わせて、確認調査12、確認・本調査5、本調査8、整理5、整理・報告書刊行5の35事業について実施した。事業における公共・民間の割合は、ほぼ7対3となっている。近年の調査の特徴としては、景気の動向を反映して、大規模本調査の減少と確認調査の増加があげられる。また、臨海部や低湿地での調査事例が増加しており、これまでの台地上の調査では得ることのできなかつた情報が蓄積されるようになってきている。以下、今年度実施した調査遺跡について、時代毎に概要を記す。

旧石器時代では、数カ所の遺跡で確認調査が行われたが、椎津堰谷遺跡から剥片や炭化物が検出されたのみである。第1地点はⅦ層、第2地点はⅣ～Ⅵ層とⅧ～Ⅸ層から出土している。

縄文時代では、大作脇ノ坂台遺跡と山田橋大塚台遺跡から早期後葉の条痕文系土器を伴う炉穴や土坑が検出されたほか、東京湾岸の砂堆上に立地する姉崎妙経寺遺跡からは中期初頭の竪穴住居跡が検出され、この時期に砂堆が安定した状態にあったことが明らかになった。また、潤井戸鎌之助遺跡や北野原遺跡からは後期前葉を主体とする集落跡と地点貝塚が検出され、鎌之助遺跡からは火災を受けた柄鏡形住居跡の床面に石棒が樹立した状態で廃棄されるなどの祭祀行為が認められた。

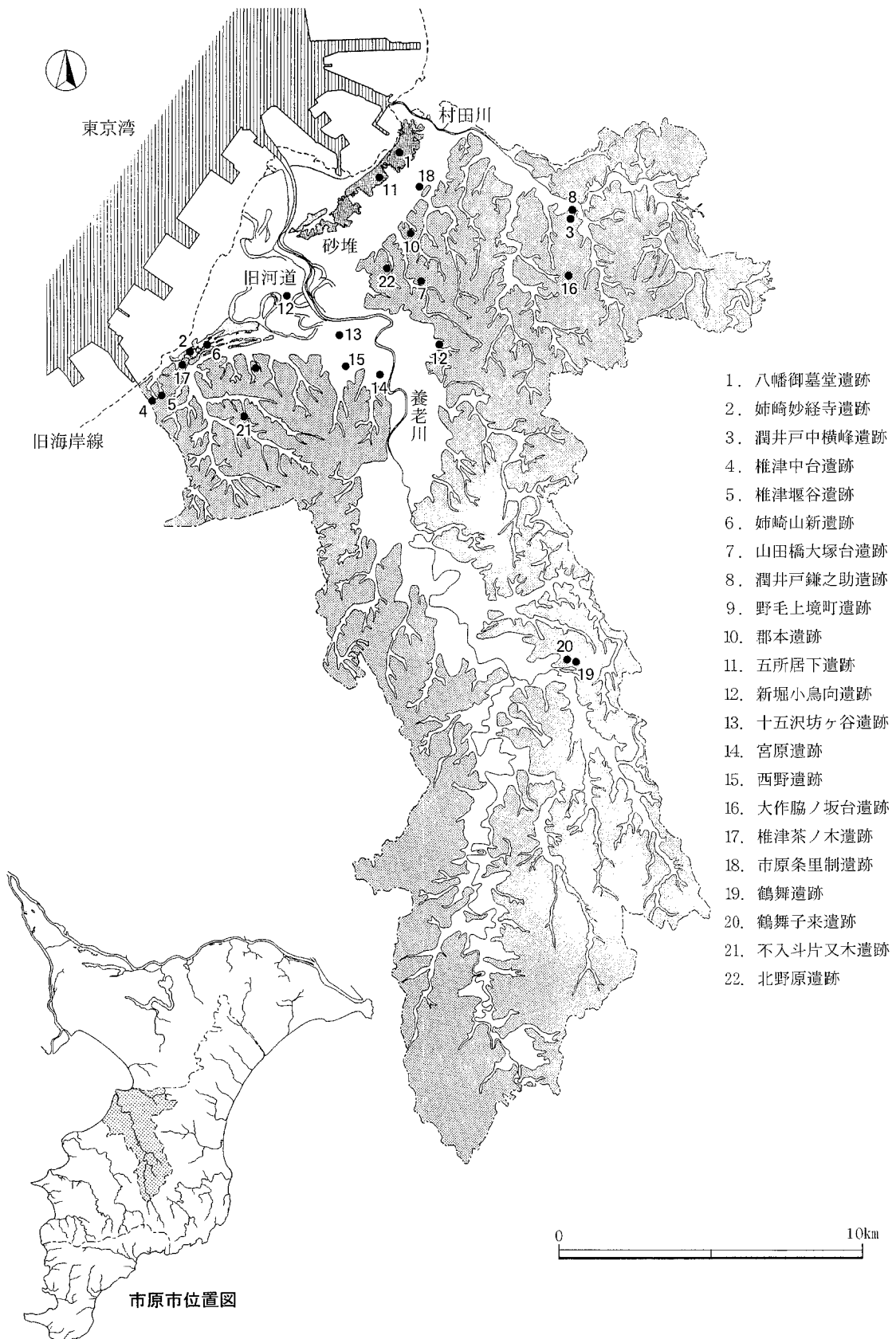
弥生時代では、潤井戸鎌之助遺跡から中期後半～後期の集落跡と方形周溝墓が検出されている。ここでは広範囲に調査を行ったため、集落跡と墓域の位置関係や範囲の限界が明らかとなった。また、山田橋大塚台遺跡は後期の大規模な集落を構成する山田橋遺跡群の西端部に位置し、同時期の竪穴住居跡が検出されている。

古墳時代では、不入斗片又木遺跡から前期、椎津茶ノ木遺跡から中期～後期にかけての集落跡が検出されている。東京湾を臨む台地先端部に立地する椎津茶ノ木遺跡は、土玉が多数出土することから、漁撈活動に深く関わった集落跡と考えられている。また、姉崎妙経寺遺跡からは予想以上に多くの古墳が検出され、市原市域の海岸線沿いに広く分布する砂堆上の調査では、今後さらに注意する必要がある。

奈良・平安時代では、北野原遺跡から埋葬施設を伴う方形周溝状遺構が検出された。埋葬施設は大規模な掘り込みを持ち、玄室内からは木質が付着した釘や門などが多数出土している。山田橋大塚台遺跡・郡本遺跡などからは集落跡が検出され、低湿地に位置する宮原遺跡・市原条里制遺跡からは田下駄などの木製品が出土している。十五沢坊ヶ谷遺跡などの所在する海上地区では、ほ場整備に伴い広範囲に及ぶ確認調査が実施されたが、周辺には海上郡衙推定地や今富廃寺跡が位置しており、今後の調査も含め、特に注目される事例となっている。

中世では、新堀小鳥向遺跡において鑄造関連遺物が出土し、周辺に遺構の存在する可能性が確認されたほか、八幡御墓堂遺跡・潤井戸中横峰遺跡・椎津堰谷遺跡・十五沢坊ヶ谷遺跡などから道路跡や溝跡が検出されている。

その他、中世以降の遺跡として、幕末から明治維新期に置かれた鶴舞城を含む鶴舞遺跡の調査が行われ、井戸跡が検出された。遺跡周辺はこれまで調査事例がほとんど無く、未だ不明な点の多い鶴舞城の構造を知る上でも今後の調査に期待される。



1. 八幡御墓堂遺跡
2. 姉崎妙経寺遺跡
3. 潤井戸中横峰遺跡
4. 椎津中台遺跡
5. 椎津堰谷遺跡
6. 姉崎山新遺跡
7. 山田橋大塚台遺跡
8. 潤井戸鎌之助遺跡
9. 野毛上境町遺跡
10. 郡本遺跡
11. 五所居下遺跡
12. 新堀小鳥向遺跡
13. 十五沢坊ヶ谷遺跡
14. 宮原遺跡
15. 西野遺跡
16. 大作脇ノ坂台遺跡
17. 椎津茶ノ木遺跡
18. 市原条里制遺跡
19. 鶴舞遺跡
20. 鶴舞子来遺跡
21. 不入斗片又木遺跡
22. 北野原遺跡

平成10年度調査遺跡位置図

1. 八幡御墓堂遺跡

事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）

所在地 市原市八幡901-1

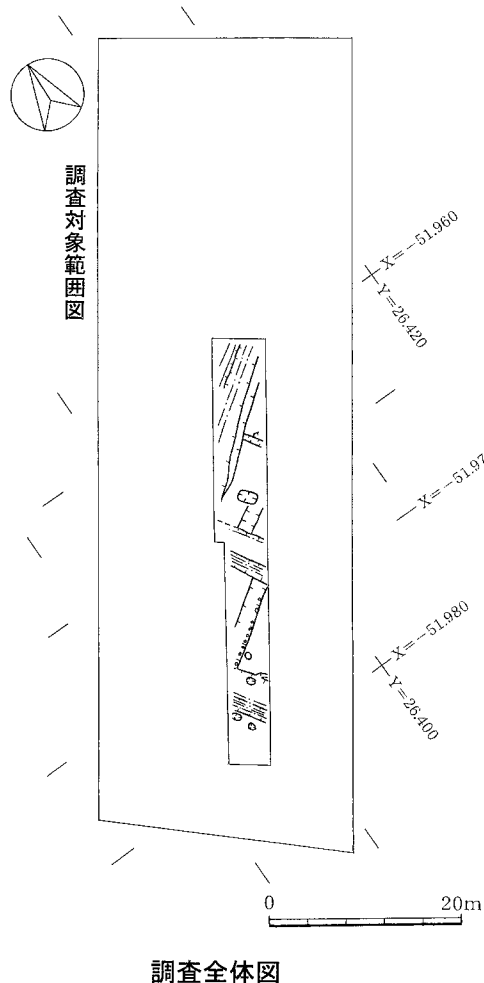
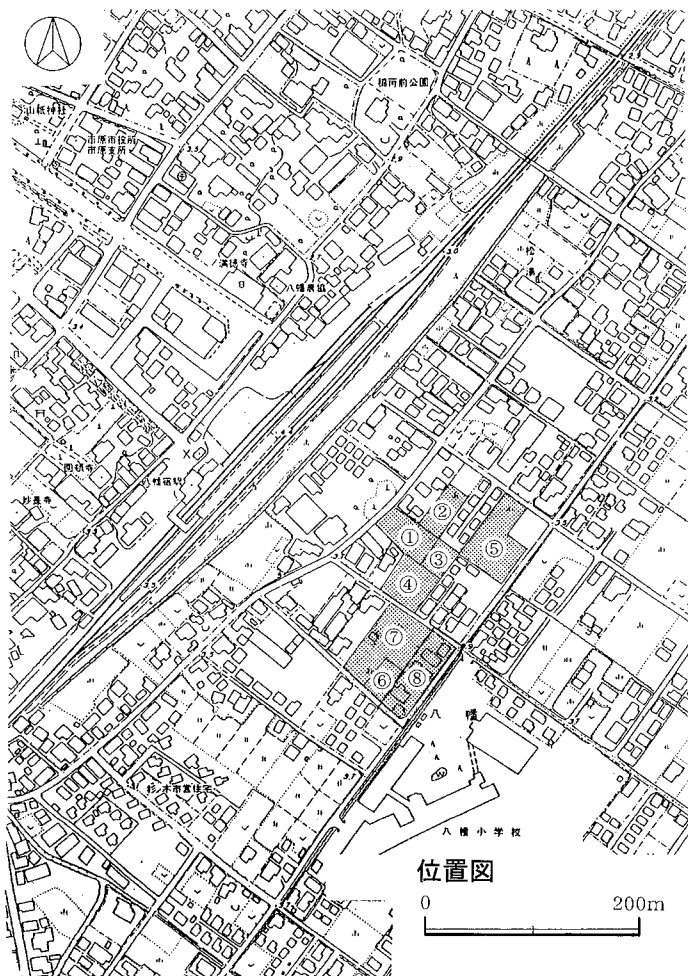
調査期間 平成10年4月13日～平成10年4月30日

調査面積 1,772.88㎡のうち180㎡（確認・本調査）

調査概要 当遺跡は、東京湾岸の砂堆上に立地し、平成7年度から調査を実施している（別図位置図①⑥＝平成7年度、②～⑤、⑦＝平成8年度、⑧＝平成10年度、すべて確認調査）。

今回の調査は、遺跡の南東隅にあたり、対象面積は1,772.88㎡である。当初は対象面積の5%で南東側にトレンチを設定したが、検出した遺構等の時期を確定出来ず、拡張部を含め合わせて180㎡の確認調査を実施した。トレンチは、表土から遺構検出面までの深さが1.50mも測り、更に地下水が多く湧出するため、崩落に注意して、排水を行いながら安全に留意して調査を進めた。

調査の結果、時期不明の溝状遺構10条、土坑6基などを検出した。溝状遺構からは、古墳時代の土師器片、須恵器片、中世の陶器片、土錘、古銭が出土しているが、いずれも小片で摩耗した状態のため、周囲からの流れ込みの状況と捉えられ、遺構の時期を確定できる資料は得られなかった。しかし、これらの溝状遺構には方向性があり、N-55°-E前後の軸方向を示し、それに直行する例も存在する。これらは、既存の調査より検出している溝状遺構と方向性などが類似している。（田中清美）



2. 八幡御墓堂遺跡

事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（本調査）

所在地 市原市八幡字御墓堂前819-1

調査期間 平成10年10月26日～12月3日

調査面積 430㎡（本調査）

調査概要 八幡御墓堂遺跡は、八幡宿駅東口の大規模な土地区画整理に伴い、継続的に調査が行われている中世戦国期の遺跡である。今回は、平成8年度に確認調査を行った地点の本調査であり、北西隣接地はやはり平成8年度に本調査を行っている（文献1）。北西隣接地の本調査では、中世戦国期から使われた道路跡とそれに沿う溝を検出している。遺物は瀬戸や常滑産の生活雑器が中心だが、建物跡などは見つかっていない。歴史的背景および遺構の性格などは文献1および2に詳しいので、そちらを参照されたい。

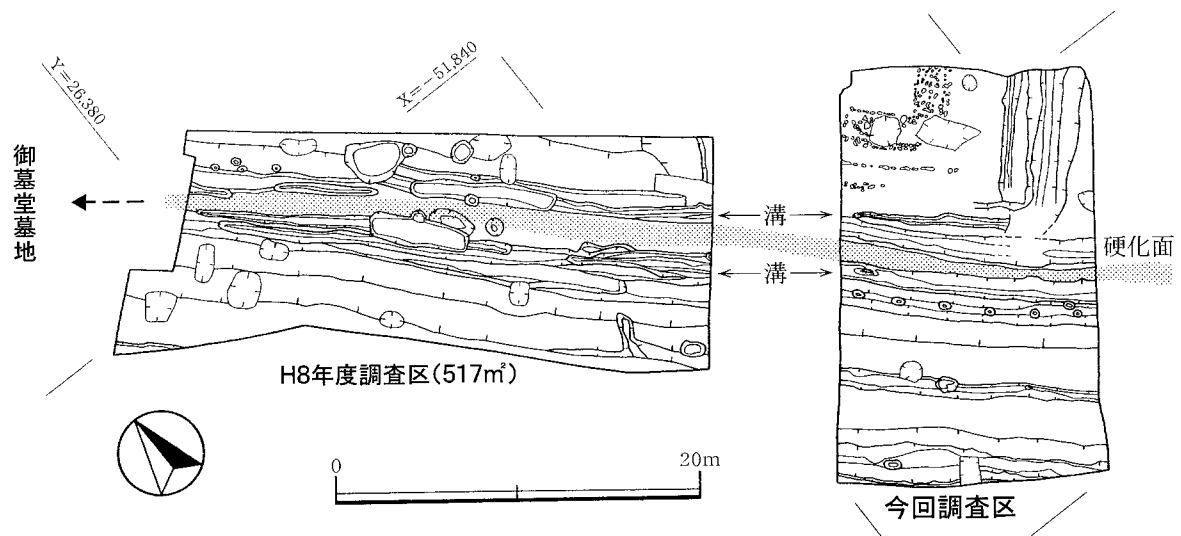
今回の調査では、路面および溝の続き部分を検出した。路面は砂を敷いてあり、硬く踏みしめられていた。硬化面幅は最大でも1mと小規模である。隣接地調査と異なる点は、路面南側の溝に沿って、ピット列が検出されたことである。柵列の可能性が考えられるが、ピットの覆土や堀方にそのような痕跡はなかった。路面に沿った大溝に直交する溝もみつき、排水とともに区画の役割も担っていた可能性が高いと考えられる。

出土遺物の種類は前回調査と大差ないが、溝の底面付近より漆塗りの椀の破片が出土している。低湿地の調査ではあるが、木製品の出土はほとんどみられないのが、この遺跡の特徴であろうか。検出遺構の種類および数は、中世の溝5条・道路跡1条・ピット13基・土坑1基と、時期不明の溝2条・ピット3基・ピット群1ヶ所である。

（牧野光隆）

文献1 櫻井敦史「3.八幡御墓堂遺跡」市原市文化財センター年報 平成8年度 2000

文献2 牧野光隆「4.八幡御墓堂遺跡」第15回市原市文化財センター遺跡発表会要旨 1999



あねさきみょうきょうじ

3. 姉崎妙経寺遺跡（4次調査）

事業名 姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（本調査）委託

所在地 市原市姉崎453ほか

調査期間 平成10年8月18日～平成10年11月10日

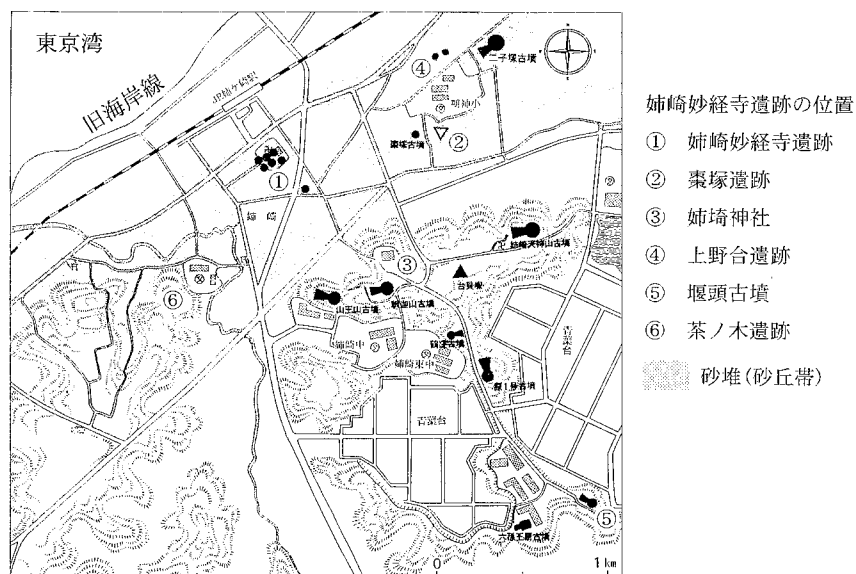
調査面積 1,800㎡（本調査）

調査概要 遺跡はJR姉ヶ崎駅の南東約300mに所在する妙経寺境内地に位置している。この一帯は東京湾の海流によって作られた砂堆（砂丘）で、周囲の町並みより3～4mほど高く標高7m前後の丘状の地形が海岸線に沿って延びている。

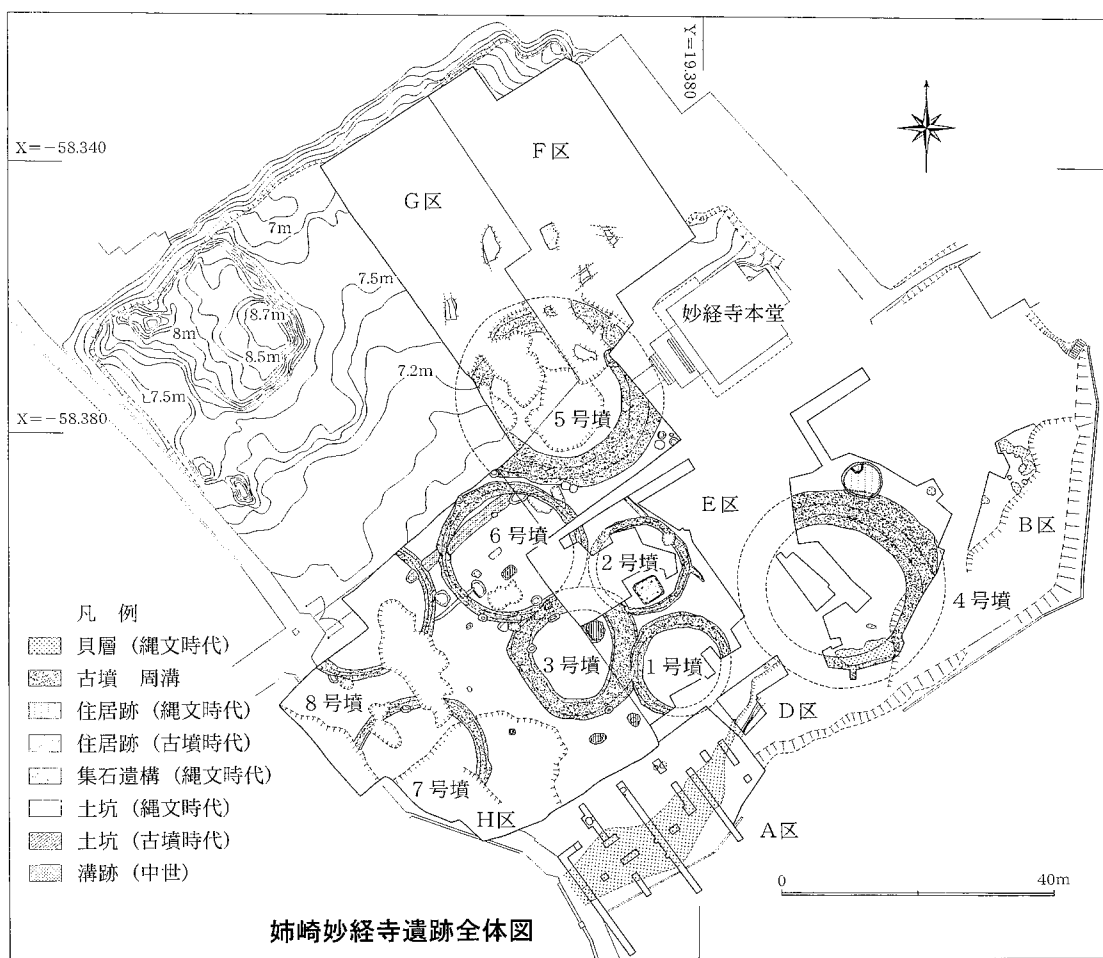
調査は、継続して行なわれている市原市の「姉崎駅前土地区画整理事業」による妙経寺墓地の改葬・移転に伴うもので、平成7年度を初年度として本年度で4ヶ年目の調査となった。今回は参道入り口部分の西側で1,800㎡の発掘を行ない、発掘面積は合わせて約6,300㎡となった。

調査の結果、前方後円墳1基を含む方墳1、円墳3の合計5基の古墳群、縄文時代中期の竪穴住居跡1基、古墳時代前期の竪穴住居跡1基を発見した。このうち古墳については、平成8、9年の発掘時点で円墳として考えていた5号墳が、今回の調査によって前方部の小さい帆立貝形の前前方後円墳であることがわかった。全長は周構内側での計測で26m、前方部幅10m、後円部径20mである。方墳である11号墳は、調査時点では約1.2mの小山状の高まりが認められ、古墳の盛土の残存と考えられていた。調査の結果、これは後世の盛土や自然地形とわかり、その下から推定で一辺38mのやや丸みを持った方墳が発見された。このほか6号墳、9号墳は、平成9年度に検出した部分の北西部分で円墳であることがわかった。埋葬施設は、砂堆という地形であることから盛土がほとんど消滅しているため確認できなかった。遺物については土師器杯、甕、須恵器杯などが周構内から出土している。

古墳の造られた時期については、6号墳が最も古いと考えられ5世紀前半頃、その後1号墳（5世紀後半）、5号墳（5世紀末から6世紀初め）、9号墳（6世紀前半）、8号墳（6世紀中頃）、7号墳（6世紀代）、3号墳（7世紀前半頃）、4号墳（7世紀中頃）、11号墳（7世紀代）と推定している。



これまでの調査で、予想した以上にこの砂堆上に古墳が多く造られ、墓域として5世紀から7世紀までのおよそ200年もの間、継続して造られていたことが判明した。従来、海岸地域は臨海部で砂地という地質から、飲料水などの生活要件で人々が住むには適していないと漠然と考えられていたが、今までの調査から、臨海部の遺跡のあり方が、台地部分のそれと比較してもあまり変わらないことがわかった。市原地域では、さらに五井から八幡宿に至るまでの海岸線沿いに同様の砂堆が見られることから、同じような遺跡が検出される可能性が高まった。(小出紳夫)



うるいど なかよこみね

4. 潤井戸中横峰遺跡（第3次）

事業名 押沼安須線（潤井戸）建設工事に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）業務委託

所在地 市原市潤井戸263番地ほか

調査期間 平成10年6月15日～平成10年6月18日（確認調査）

平成10年7月1日～平成10年7月17日（本調査）

調査面積 1,200㎡（確認調査120㎡・本調査490㎡）

調査概要 遺跡は、村田川中流域左岸の標高20mほどの低位段丘面上に位置する。調査は、市道建設に先立って断続的に実施されている。

第1次調査は平成7年度に実施され、標高22m～26mほどの、段丘面最上部を含む、段丘面から台地への変換点における、対象面積2,500㎡のうち、250㎡の確認調査が実施された。このうち900㎡を対象にして本調査が実施され、縄文時代陥し穴1基、古墳～平安時代溝跡1条、中近世道路跡2条、溝跡1条、中近世以前道路跡1条、時期不明土坑5基、近世塚2基が検出された。

第2次調査は平成8年度に、標高15m～20mほどの舌状に北に伸びる段丘面の東側を中心とした15,000㎡を対象に、1,500㎡が確認調査、このうちの3,210㎡について本調査が実施され、縄文時代陥し穴22基、小竪穴8基、縄文時代後期竪穴住居跡5軒、弥生時代竪穴住居跡2軒、方形周溝墓7基、木棺墓2基、土坑墓1基、弥生時代後期竪穴住居跡3軒、方形周溝墓1基、古墳時代竪穴住居跡3軒、奈良時代竪穴住居跡4軒が検出されている。

第2次調査区西側に隣接した、舌状に張り出した標高20mほどの段丘面を、ほぼ網羅する区域について、平成9年～翌年にかけて潤井戸鎌之助遺跡として調査が実施されている。本調査総面積は20,390㎡であり、縄文時代中期～晩期、弥生時代中期～後期、古墳時代前期～後期、奈良時代に及ぶ遺構が検出されている。

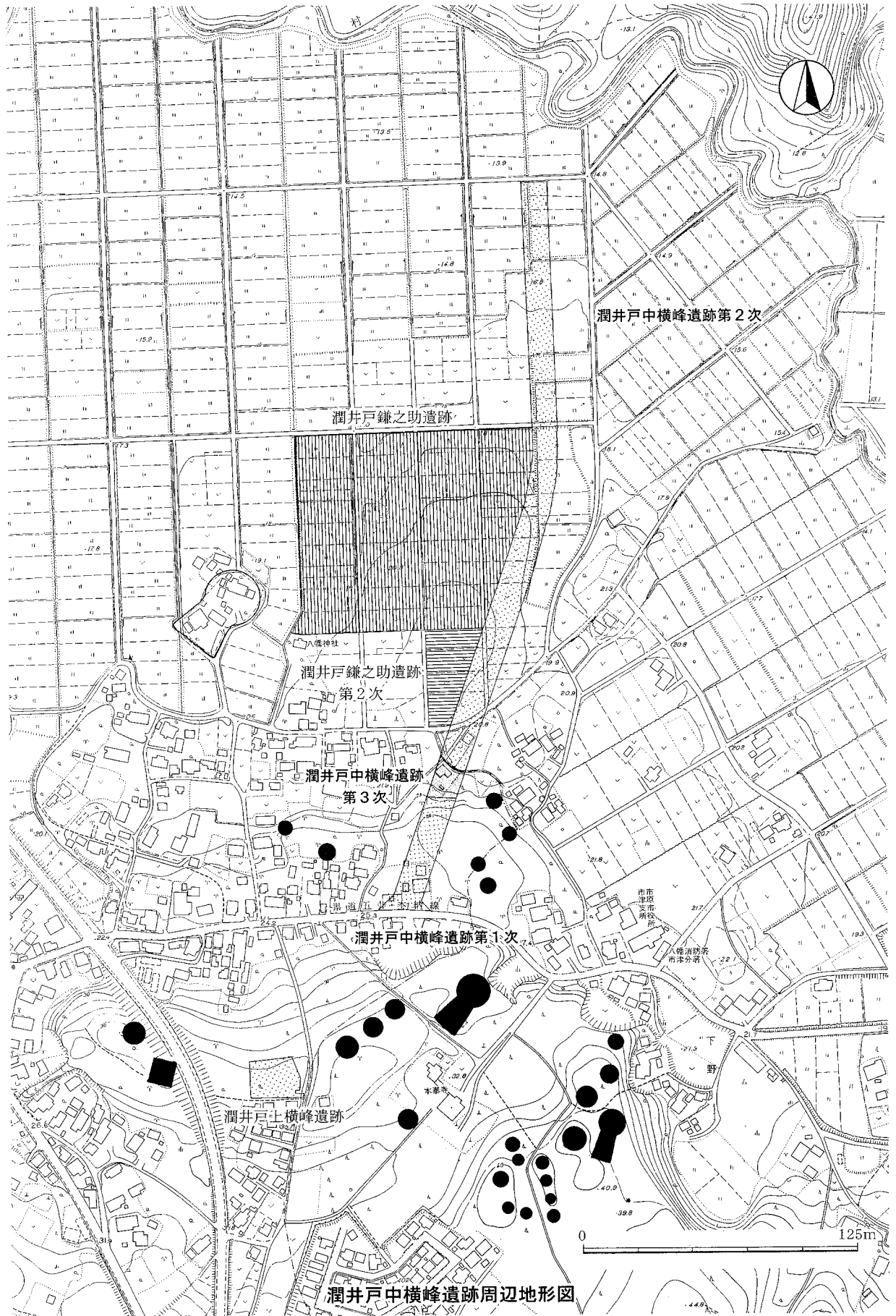
今回の調査区は、第1次と第2次の間を埋める標高21m～23mの位置にあたる。調査の結果、縄文時代陥し穴1基、溝状遺構6条（中世3、時期不明3）、時期不明土坑6基、時期不明のピット群が検出された。これらの内容を見ると、当該調査区を含む南側と、調査区より北側の段丘上における遺構群との間に、遺構の内容、密度に歴然とした差違が認められる。このことが、段丘上に認められる集落の広がりを考える上で、南側における限界を示すものか、整理報告と共に、今後の、遺跡周辺における調査の成果を待ちたい。

（北見一弘）

「潤井戸中横峰遺跡」『第12回 市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1997 市原市文化財センター

「潤井戸鎌之助遺跡」『第14回 市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1999 市原市文化財センター

「潤井戸鎌之助遺跡」『平成9年度 市原市文化財センター年報』2000.3 市原市文化財センター



潤井戸中横峰遺跡周辺地形図

5. 椎津中台遺跡^{しいづ なかだい}

事業名 八幡椎津線（椎津中台）建設工事に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）業務委託

所在地 市原市椎津1409-2ほか

調査期間 平成10年6月10日～平成10年6月30日（確認調査）

平成10年8月3日～平成10年12月14日（本調査）

調査面積 2,900㎡のうち290㎡（確認調査）、2,500㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、東京湾に面した小支谷の南側に広がる、標高約30mの台地上にあり、遺跡の南西を通る道路を挟んで、袖ヶ浦市と接しており、市原市の西端に位置すると言える。古代律令制下の行政区分では、海上郡と望陀郡の接点とも言える場所である。

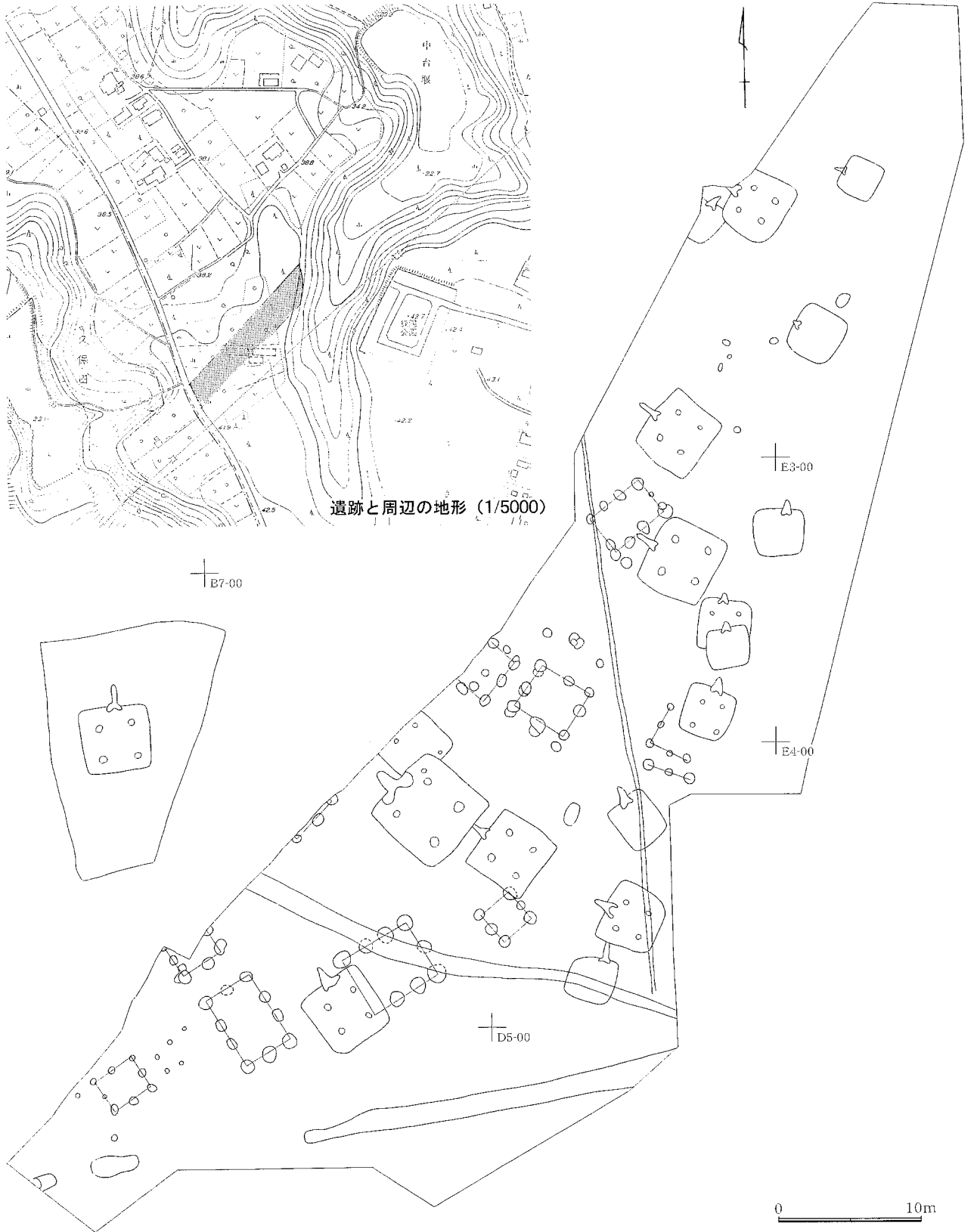
平成10年6月に実施した確認調査では、縄文時代早期の包含層および奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡の存在が確認された。その結果を受けて、同じく8月から12月にかけて本調査を実施した。調査の結果、包含層からは少量の土器とともに大量の礫が出土した。また、奈良・平安時代の竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡10棟、溝1条等を検出した。

包含層の調査対象は、1,700㎡で、表土下約20cmを全面的に掘り下げた。2m×2mの小グリッドをさらに4分割して、この細分グリッド単位で遺物を取りあげた。多いところでは、この細分グリッドから2～3kgの礫が出土した。全体では1tを超えるのではないかと見られる。これに対し、土器は全体でも撚り糸文系土器が極少量出土したにとどまっている。礫の詳細については、将来の整理作業をまたねばならないが、少なくとも、近隣で採取されたとは考え難く、何らかの意図をもって持ちこまれたと考えられる。この点については、使用痕の有無、被熱の有無で検証可能かもしれない。一方、その産地についても、当時の物的交流を知る上で解明されるべき課題であろう。そのためには、岩石種の同定が不可欠であることは言うまでもない。しかし、人により同定が異なることが見受けられる現状では産地の同定はままならないであろう。異なった岩石名をつけることは、想定される産地も誤る結果となるからである。自然科学とのより密接な連携が必要である。

奈良・平安時代の遺構は、住居跡1軒を除いて、ほぼ調査区全体にわたって検出された。住居跡はいずれもカマドを備えているが、その向きは台地の中央（北西）を向くものと、谷のほう（北）を向くものがある。住居の規模は平均して、一辺約4mであるが、大きいもので約6m、小さいもので約3mと、ばらつきが認められる。比較的小規模な住居跡では、柱穴が検出されないものが目立った。また、調査区の東辺にこれら比較的小規模な住居跡が偏っているようにも見える。建物跡は調査区の中央に集中する傾向がある。柱穴の大きさは、1mに近いものから40cm位のものまでである。これら建物の配置には明瞭な規則性は見出し難い。柱穴から出土した土器や住居跡から出土した土器から、これら遺構は奈良時代後半から平安時代前半の比較的短期間の所産と考えられる。

出土した遺物は、土師器が圧倒的に多く、以下須恵器、灰釉陶器と続く。土器以外では、帯金具、紡錘車、鉄鏃、砥石などがある。概して、日常の生産用具が多い。また、調査区の北端に近い部分の小土坑から大型の碗型滓が出土している。近隣で製鉄が行われたことを示唆している。遺跡は北西方向に展開していると考えられるが、当時の郡境における集落の様相を知る上で貴重な成果を得ることができたと言えよう。

（高橋康男）



椎津中台遺跡全体図 (1/400)

6. 椎津堰谷遺跡（第1地点・第2地点）

事業名 八幡椎津線（椎津・堰谷）建設工事に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）業務委託

所在地 第1地点 市原市椎津1,614-3ほか

第2地点 市原市椎津1,613-3ほか

調査期間 第1地点 確認調査 平成10年6月10日～平成10年6月30日

本調査 平成10年8月3日～平成10年10月29日

第2地点 確認調査 平成10年9月2日～平成10年9月10日

本調査 平成10年9月11日～平成10年10月29日

調査面積 第1地点 確認調査 3,100㎡のうち上層310㎡・下層31㎡

本調査 上層2600㎡・下層81㎡

第2地点 確認調査 915㎡のうち上層91㎡・下層9㎡

本調査 上層440㎡・下層160㎡

調査概要 確認調査において、第1地点では旧石器時代遺物出土地点・平安時代竪穴建物・中世道路が、第2地点では古墳時代円墳が、それぞれ検出された。

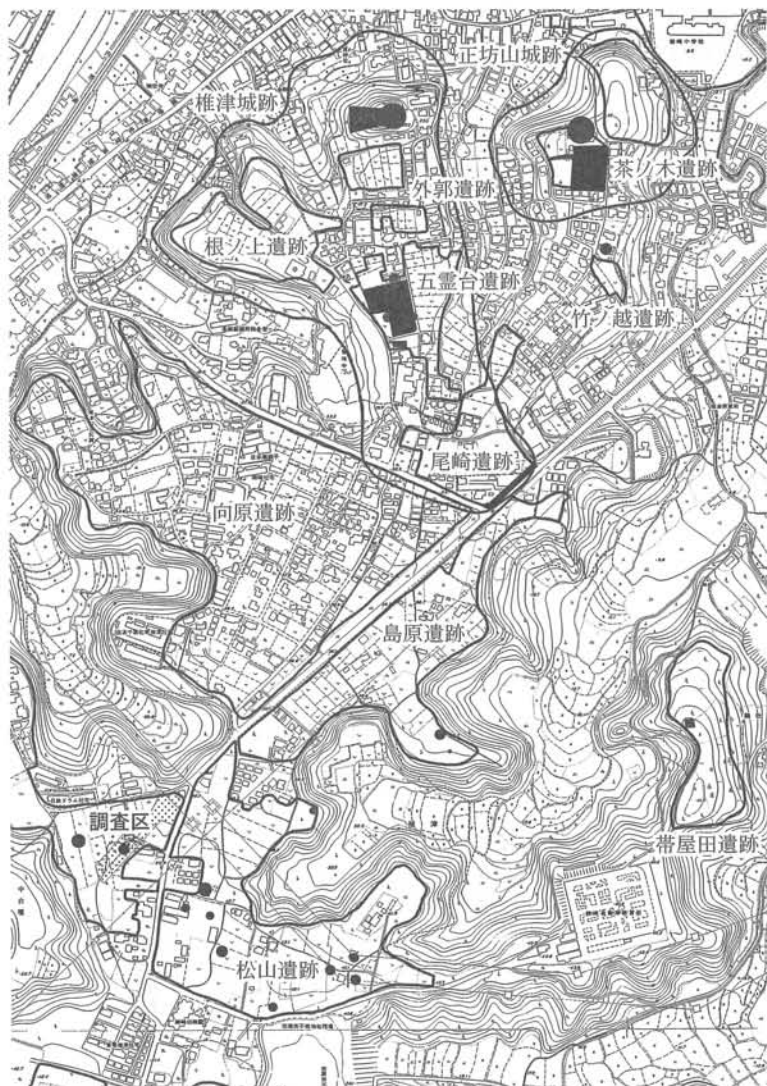
旧石器時代の遺物は、剥片・炭化物粒が、第1地点はⅦ層、第2地点はⅣ～Ⅵ層とⅧ～Ⅸ層に確認できた。

第2地点で検出された円墳は、周溝から出土した土師器杯から古墳時代後期（6世紀末）のものと考えられる。墳丘の盛り土は残っておらず、埋葬施設は周溝内にも検出されなかった。また、周溝内側の肩部には、細く浅い溝が、途切れながらも周溝に沿って巡っているが、これは墳丘築造・周溝掘削の目印とされた設計用の溝だった可能性も考えられる。

第1地点で検出された平安時代の竪穴建物（西側）は、二つの異なる掘方と、何組かの柱穴のセットを持っていた。また、根元が未焼成で粘土のままである、折れたカマド内支脚も出土した。数度の建て替えを経た竪穴建物が、最後はカマドの中の支脚が焼き固まる期間を持たずに廃絶したものと考えられる。他に、同時期と考えられる、方形竪穴建物・掘立柱建物も検出された。

調査区を縦断する道路は、宝永テフラが硬化面より15～20cm上とやや離れて確認されたため、どれぐらい遡るかは明らかでないが、中世以来のものと考えた。最上層の硬化面には、調査区北東端から2/3ほどのところまで、波板状に変成した硬化土が見られ、その表面は梯子・櫛歯のような縞模様であった。帰属時期が判然としないため、断定はできないが、北東延長線上に椎津城が位置することを重視すると、両者になんらかの関係があった可能性も考えられる。なお、反対方向へは、南西に谷を降りるルートをとるようである。

（小橋健司）

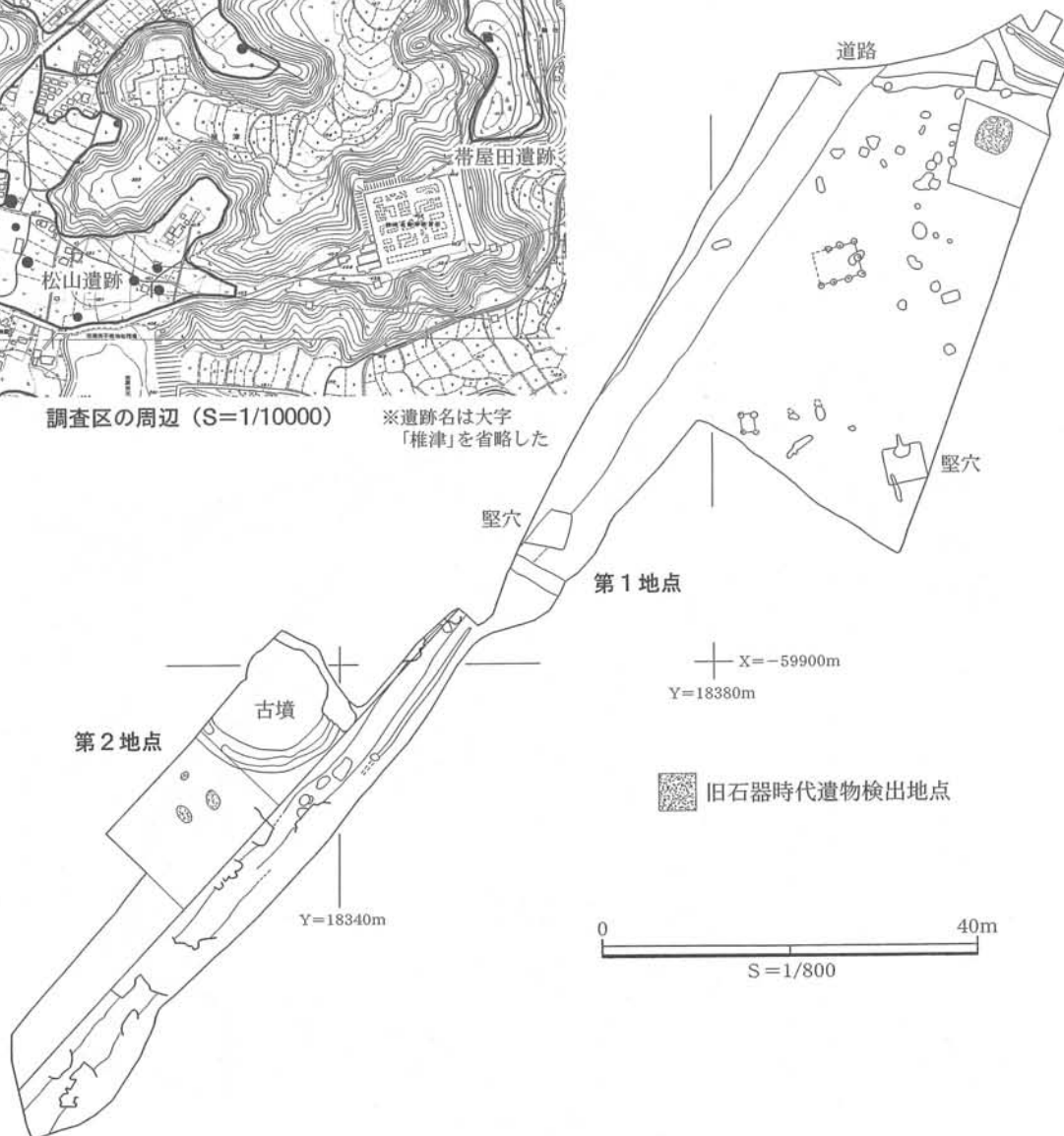
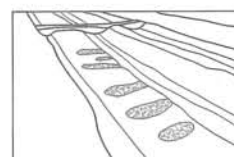


調査区の周辺 (S=1/10000)

※遺跡名は大字「椎津」を省略した



道路跡検出状況
左図の網かけ部分が
硬化・変色したところ



あねさきさんしん

7. 姉崎山新遺跡 (第1地点)

事業名 八幡椎津線(姉崎)建設工事に伴う埋蔵文化財調査(確認調査)業務委託

所在地 市原市姉崎1,272-1

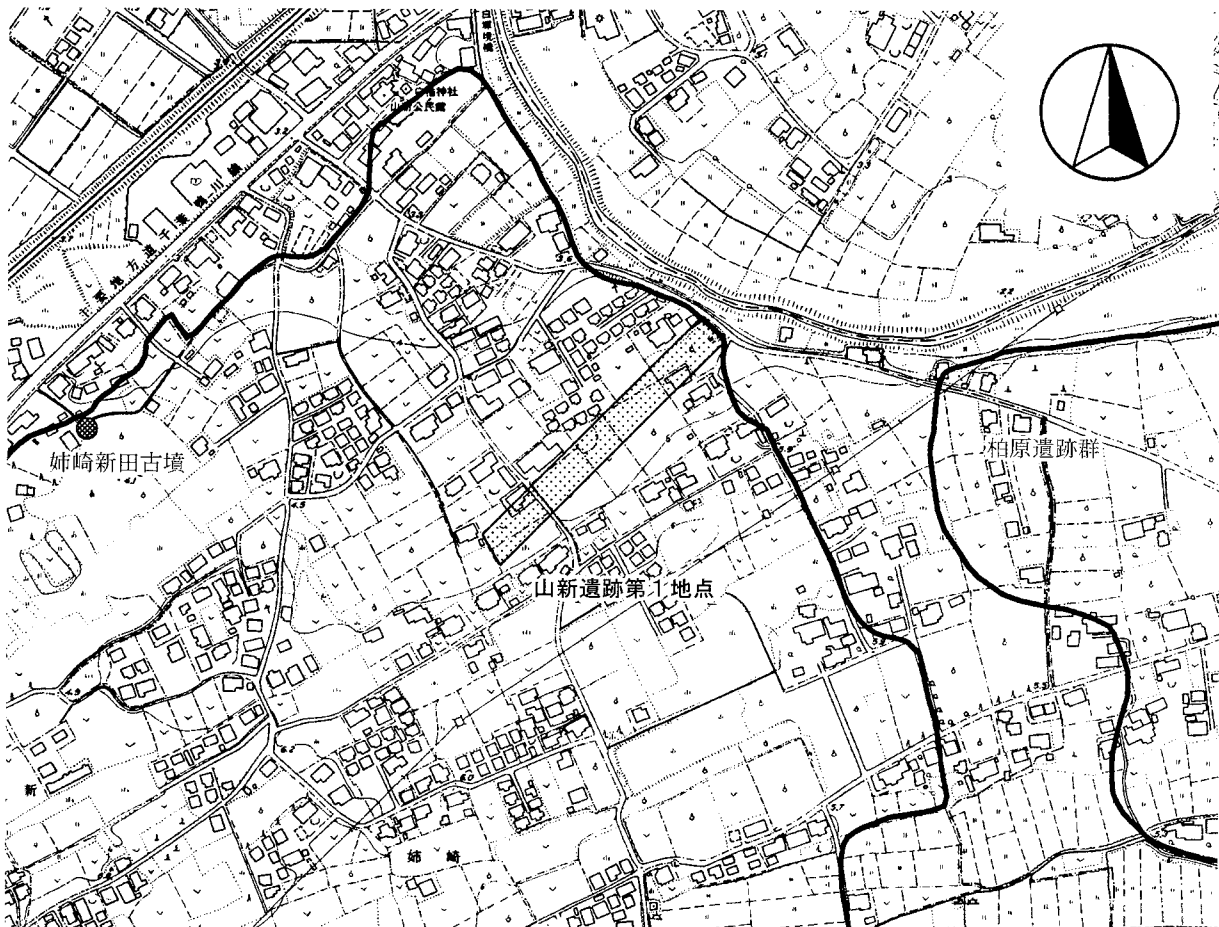
調査期間 平成10年11月11日～平成10年11月20日

調査面積 4,150㎡のうち415㎡(確認調査)

調査概要 本調査区は、地形図を見ると低地の中でも高まりのあるところに位置することから、調査前には集落跡が広がることも予想された。しかし、トレンチを設定し、掘り下げてみると、遺構の分布は希薄で、遺物も少ないことが分かった。地元の話では調査区内に塚があったということだが、それも見当たらなかった。別に国鉄と陸橋の造成に付近の土がかなり使われたという話もあり、その影響があるのかもしれない。

9ヶ所のトレンチを精査したが、遺構は検出されたものの、検出面で遺物はほとんど見られなかった。そのため、時期の判断が難しかったので、溝状遺構などを掘り調査を進めた。弥生土器・土師器・埴輪・施釉陶器等の遺物が出土したが、帰属時期はそれでも判然としなかった。

遺構検出面としていた層が、近年形成されたものである可能性も考えて、調査区の北・中・南部で1ヶ所ずつ重機による深掘りを行った。しかし、2mほど下に自然貝層・混貝砂層が存在することがわかり、検出面より下に遺構・遺物包含層のないことが確認できた。(小橋健司)



周辺地形図 (1/5000)

やま だ ば し お お つ か だ い
8. 山田橋大塚台遺跡 (2次)

事業名 草刈西広線 (山田橋) 建設工事に伴う埋蔵文化財調査 (確認・本調査)

所在地 市原市山田橋383番地地先

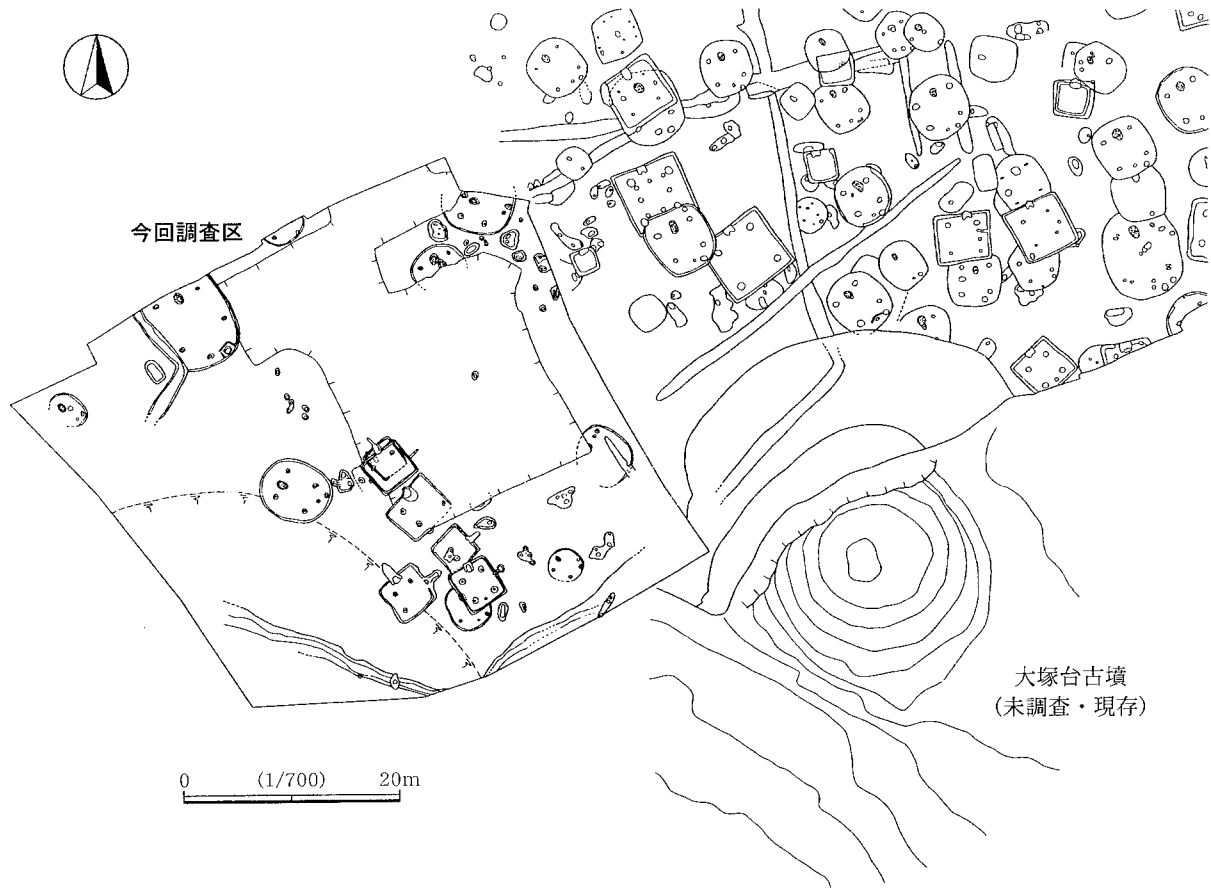
調査期間 平成10年7月9日～8月4日 (確認調査)

平成10年8月5日～10月12日 (本調査)

調査面積 2,000m² (確認・本調査)

調査概要 遺跡は、市原台地の一角にある枝状の台地の西側先端部分にあり、標高は33m前後である。斜面に近いため、遺構も遺物も流されかかっていた上に、調査区の中央部は現代の土採りによって削平されていた。隣接地には大塚台古墳があり、大山台遺跡や表通遺跡などが展開する。これらは、東千草山遺跡や亥の海道遺跡も含めて、弥生時代後期を中心とした山田橋遺跡群といわれる生活範囲のひろがりであり、今回の調査はその一番西端を発掘したことになる。

調査の結果、縄文時代早期後葉の炉穴15基、住居跡は、弥生時代後期9軒・古墳時代後期1軒・奈良時代3軒・平安時代2軒で計15軒、そして、弥生時代後期の溝1条と近世の土坑1基・道跡1条を検出した。
(牧野光隆)



山田橋大塚台遺跡全体図

うるいど かまのすけ 9. 潤井戸鎌之助遺跡

事業名 市津運動広場埋蔵文化財本調査委託

所在地 市原市潤井戸11-2ほか

調査期間 平成10年4月1日～平成11年3月31日

調査面積 17,600㎡のうち9,500㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、東京湾岸の八幡浦より村田川を8kmほど上流に遡った地点に立地している。この地域の標高は、16m前後であり、村田川との比高差は6m前後に過ぎない。調査は、市津運動広場建設に先行して実施したものであり、本事業にかかる調査としては、最終年度の調査であった。

確認調査以来の成果からみると、鎌之助遺跡には先土器時代の文化層は発見されていない。

集落の成立時期は縄文時代中期以降のことであろう。遺跡の広がりの中でも、比較的南に寄った地域に、中期末葉頃までには安定した集落の成立をみることができる。このあたりは、東側隣接地南北に延びる谷が入っていて、ちょうど谷頭の位置にあっている。かつて、東隣を調査した際には、鎌之助の北側にあたる標高16m前後の平坦面で、いくつもの陥し穴が発見された。今回の調査でも、谷に面した部分で2基の陥し穴が発見されている。水場にやってくる獣を対象として狩りを行ったためであろうか。集落内から発見された土坑の一つには、貝殻や壊れた土器とともに、多量な獣の骨が捨てられていた。集落は、後期まで継続している。後期の遺構中に、海水生の貝（ハマグリやキサゴなど）が充満しているものが認められた。村田川を下って採取してきたのであろうか。川や海を伝わっての交易的な様子も伺える。この時期の出土遺物の中には、緑泥片岩製の石棒や、黒曜石の石鏃。それに鏃を加工した跡が目につく。緑泥片岩は、埼玉県の長瀨から寄居にかけての地域が原産地であり、黒曜石も在来では採取されない石材である。隣接地の調査（鎌之助遺跡第2次調査区）からは石核も発見されており、加工跡と併せて考えると、母岩が持ち込まれ、ここで鏃を作ったのであろう。

弥生時代の遺構は、中期以降に入ってみられる。集落跡と墓域が遺跡内に営まれている。集落の広がりには、去年度発見された建物を中心とする一群と、調査区の北側で一段下がった平場から北に向けて広がる一群との、二ヶ所にわけてみることができる。去年度の調査で発見された南側の方形周溝墓群は、おそらく南の集落に関連するものであろう。一方、北側の一群については、遺跡北端の中横峰遺跡で発見された方形周溝墓が関連するであろう。整理報告を待って、具体像を明らかにしたい。

古墳時代の集落は、古い時期のものが南側の平地に集中し、中頃以降のものは微高地中ほどの、緩やかな斜面から北へ展開していたものと思われる。しかし、古墳時代の集落の終焉をいつにみるかは、明らかにすることができなかつた。整理作業の中で時期的な変遷を明らかにする必要がある。

古墳時代終末期（飛鳥時代）から奈良時代初頭については、昨年度以来、軒を並べるような掘立柱建物跡を中心とする施設が置かれていたことを明らかにしてきたが、今年度の調査でも東側の一部を調査し、その広がりをはぼ確定することができた。この時期の掘立柱建物跡と竪穴式建物跡による組み合わせは、三群認められている。建物の規模や配置などを考えると、これらの中心をなすものは、昨年度調査した一群であったとみることができよう。

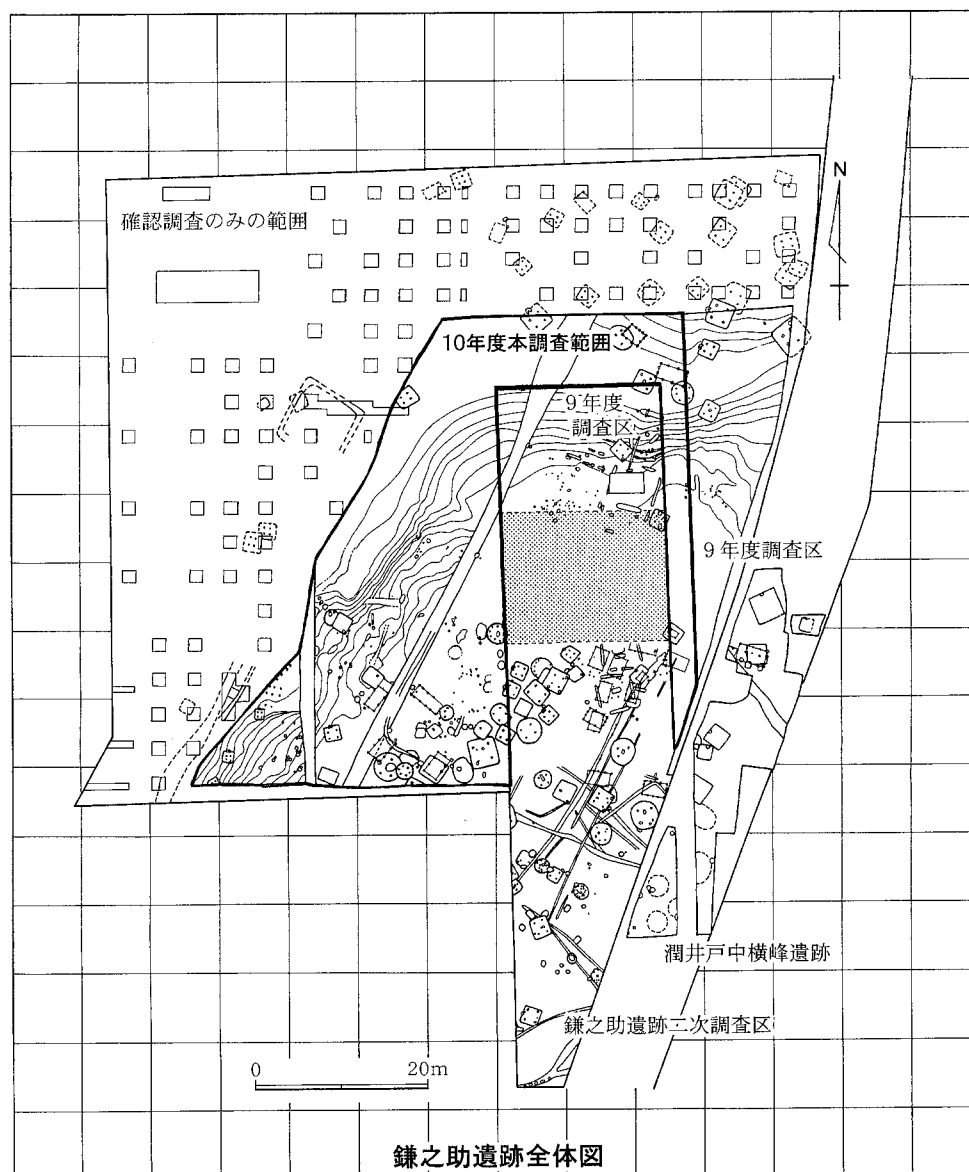
奈良時代前半から平安時代前半にかけての遺構は、結果的に発見されなかつた。この間、先に挙げた施設は消滅あるいは移転し、一見すると空白の時期を迎える。但し、昨年度までの調査では確認す

ることのできなかった平安時代の竪穴式建物跡3軒を、今年度調査区の南西隅で発見している。

中世には、地下式の墓室（地下式土墳）が作られている。出土遺物などがみられず、時期をはっきりとさせることができないので、具体的な様子を伺うことが難しい。鎌之助遺跡は、その後長い空白期間をおいて、近世からの足跡を地表面に刻む。この中には、地元で伝承として残る寺院に関するものも含まれているはずである。整理報告作業の中で明らかとなろう。（田所 真）

今年度の調査結果は、おもに次のとおりであった。

| | | |
|-----------|--------|---------------------------|
| 縄文時代 | 中期～後晩期 | 竪穴式建物跡5軒・陥し穴2基・墓穴2基・土坑25基 |
| 弥生時代 | 後期 | 竪穴式建物跡10軒 |
| 古墳時代 | 前期 | 竪穴式建物跡11軒 |
| 飛鳥時代～奈良時代 | 初頭 | 竪穴式建物跡5軒・掘立柱建物跡6棟 |
| 平安時代 | 前期 | 竪穴式建物跡3軒 |
| 中世 | | 地下式土墳3基 |



10. 潤井戸鎌之助遺跡（第2次）

事業名 (仮称) 市津消防署建設に伴う埋蔵文化財調査委託

所在地 市原市潤井戸35-1ほか

調査期間 平成10年10月13日～平成11年3月5日

調査面積 上層2,790㎡(確認・本調査)・下層2,790㎡のうち28㎡(確認調査)

調査概要 遺跡は市原市の北東部に位置し、村田川中流域の左岸、標高20m程度を測る低位段丘上に立地する。周辺は近年調査例の多い地域となっており、北側隣接地が市津運動広場整備、西側隣接地が都市計画道路建設に伴って調査が行われているほか、村田川を挟んだ台地上では住宅・都市整備公団(当時)による大規模開発に伴う調査が行われてきた。

今回の調査は、対象区域2,790㎡の全域について重機による表土除去を行い、遺構の性格と広がりを確認したのち、引き続き本調査に移行した。なお、下層(旧石器)の確認調査については、上層遺構調査終了後に実施したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

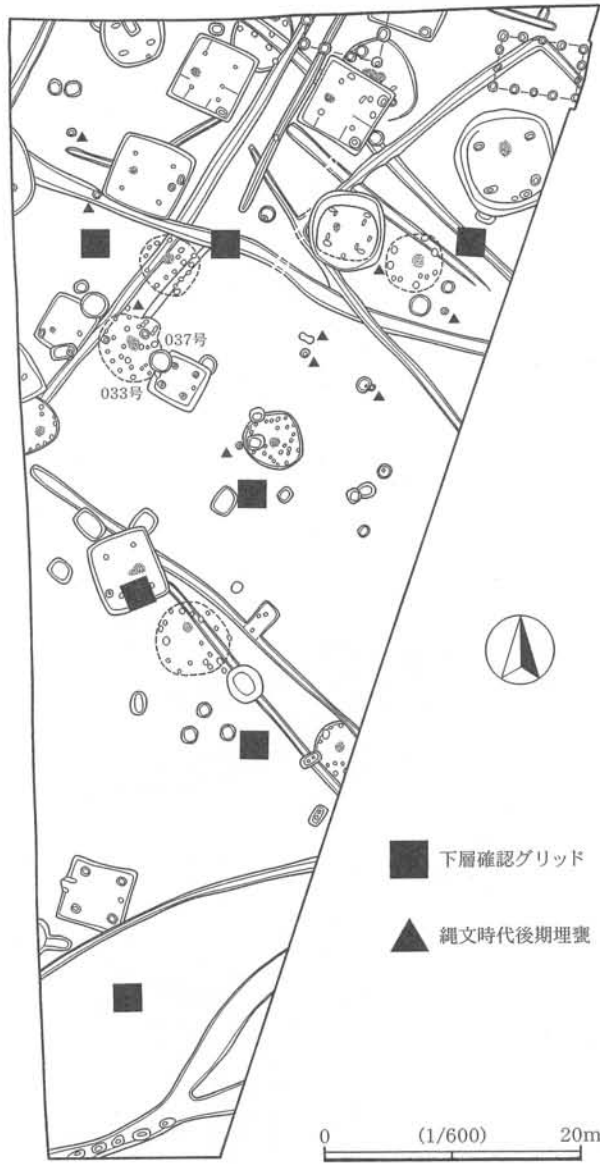
調査の結果、主な遺構として縄文時代中期後半から古墳時代終末期までの竪穴住居跡22軒、古墳時代終末期の掘立柱建物跡2棟、縄文時代を主体とする土坑35基などが検出された。以下、調査区内における時期ごとの様相を簡単に見ていくことにしたい。

縄文時代は、中期後半以降に集落が形成されはじめる。後期に入ると集落の中心を北側隣接地に移し、これまでの住居跡や土坑に貝殻が投棄され、地点貝塚が形成される。この貝の分布は調査区西側の畑地表面にも認められ、同時期の遺構の展開が予想される。一方、調査区内には、後期の土坑墓や多数の屋外埋甕が検出されることから、この区域が次第に墓域となっていくことが考えられる。縄文時代の特筆される遺構・遺物には、中期末葉から後期初頭の柄鏡形を呈すると思われる住居跡と、石棒(緑泥片岩)・埋甕のセットがあげられる。特に石棒は、床面に樹立した状態で遺棄されており、この住居跡が火災を受けていたことも合わせ、祭祀行為の最終段階を示すものとして注目される。また、後期前葉の土坑墓からは、風化の著しい2体の屈葬人骨に伴って注口土器が出土しており、注口土器の使用事例のひとつを示すと同時に、死者の埋葬儀式のようなものを想像させる。

弥生時代は、これまでの北側隣接地において見られた方形周溝墓は検出されず、中期後半の住居跡のみである。また、遺構は調査区の北側にのみ見られ、今回の調査により集落範囲の南限が明らかとなった。

古墳時代は、前～中期にかけては継続して集落が形成されるが、その後一旦断絶し、終末期に入ると再び散漫な展開を示す住居跡と直線的に配置される2棟の掘立柱建物跡が検出される。特にこの掘立柱建物跡は北側隣接地において確認されている掘立柱建物跡群と一連の施設として規則的に配置されることが明らかとなった。

今回の調査においては、多数の遺構と遺物を検出することができたが、これまでに周辺隣接地で行われてきた調査の成果と併せて、潤井戸鎌之助遺跡としての大きな遺構の広がりや変遷の様子を明らかにすることができたことは非常に大きな成果と言える。(鶴岡英一)



遺構配置図



潤井戸鎌之助遺跡と周辺遺跡 (1/50,000)



潤井戸鎌之助遺跡周辺地形図 (1/5,000)



033号 遺物出土状況



037号 注口土器出土状況

のげかみさかいまち
11. 野毛上境町遺跡

事業名 市道2120号線（金川原）埋蔵文化財調査委託（確認調査）

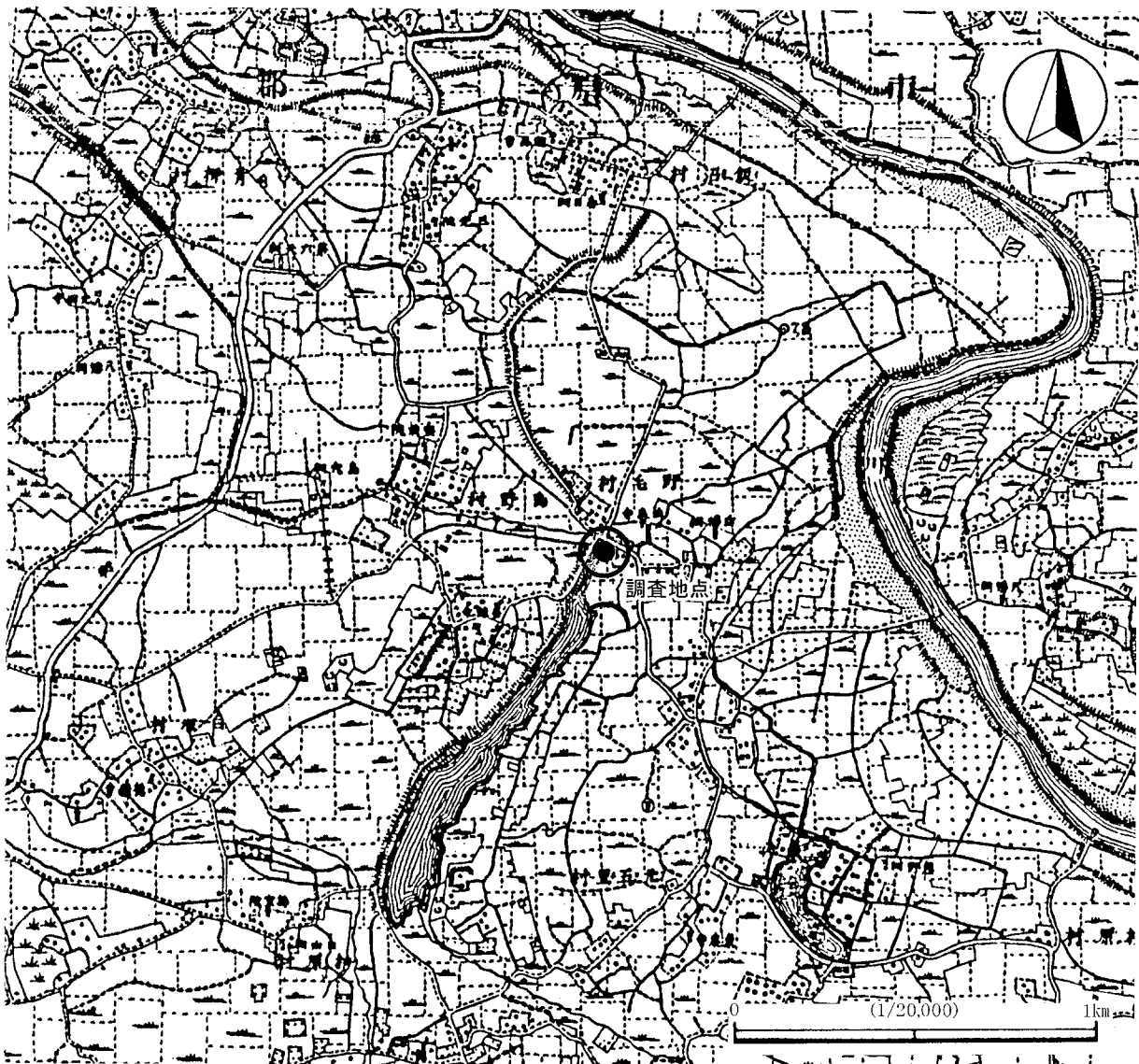
所在地 市原市島野568-1, 568-3

調査期間 平成10年6月11日～平成10年6月15日

調査面積 250㎡のうち25㎡（確認調査）

調査概要 野毛上境町遺跡は、養老川下流域左岸の標高4～5mを測る微高地上に立地する。養老川下流域には旧河道の痕跡が数多く認められる。遺跡南側には小川である上前川が流れており、今回の調査区は、この上前川の隣接地にあたる。

今回の調査は、市道2120号線建設に伴うもので、調査範囲250㎡の10%にあたる25㎡について確認調査を実施することとなった。調査の結果、旧上前川の右岸にあたりと考えられる2条の杭列と2時期にわたる水田跡の床土層が検出された。なお、詳細については付編を参照されたい。（小川浩一）



※迅速測図 五井村より

野毛上境町遺跡周辺地形図

12. 郡本遺跡 (第5次)

事業名 市内遺跡発掘調査事業

所在地 市原市郡本1丁目153他

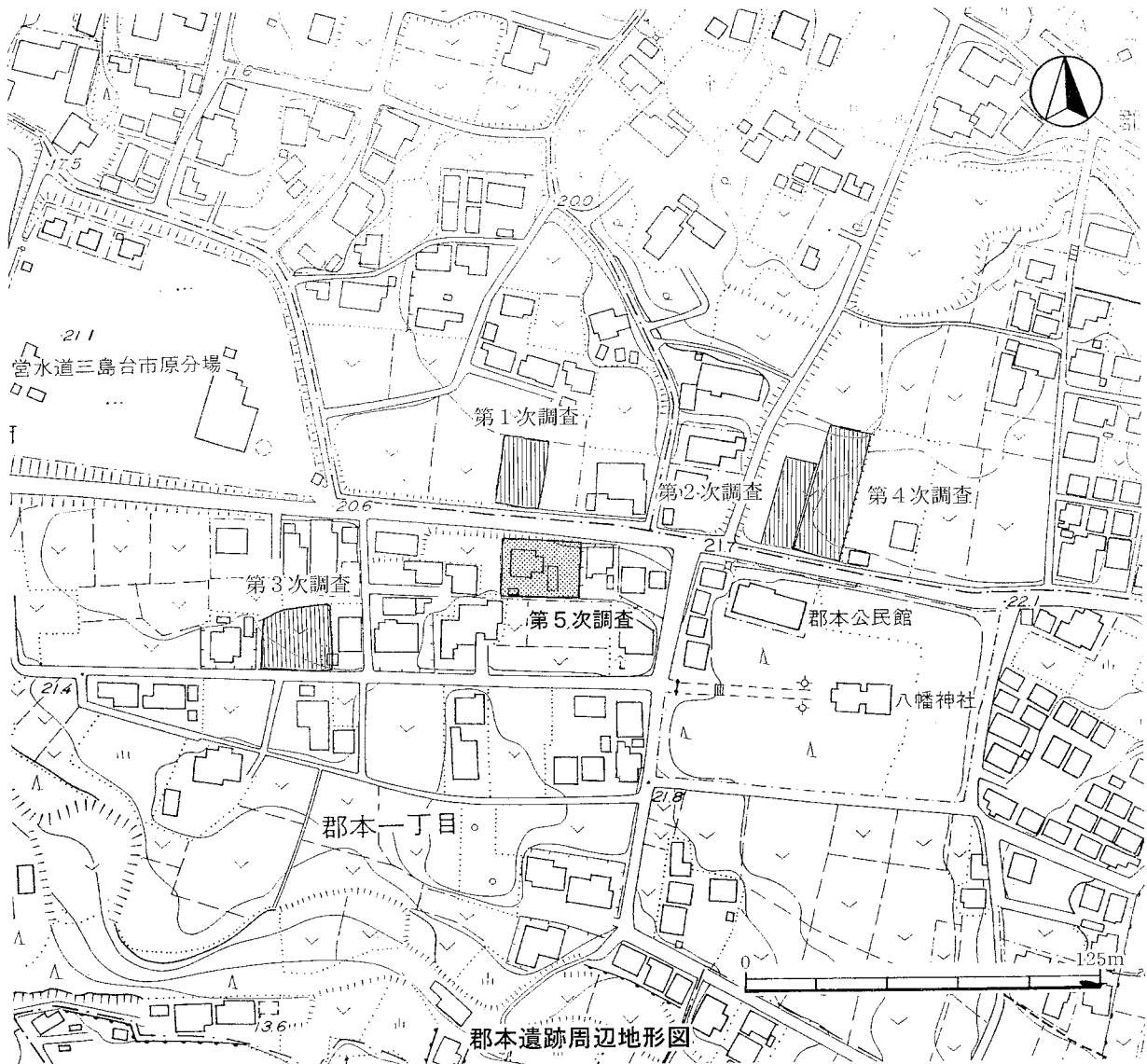
調査期間 平成10年7月13日～平成10年7月31日

調査面積 240㎡ (本調査)

調査概要 調査区は昭和62年度に調査が実施された第1次調査区の県道を挟んだ南側に位置する。調査の結果、弥生時代中期竪穴住居跡1軒、弥生時代後期竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、東西方向に伸びる溝状遺構1条、時期不明溝状遺構、土坑、ピット等が検出され、特殊な遺物としては墨書土器、灰釉陶器が出土している。詳細については下記報告書を参照されたい。

(北見一弘)

「郡本遺跡 (第5次)」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告書』1999 市原市教育委員会



13. ^{ごしょいした}五所居下遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査事業

所在地 市原市五所字居下1,539-1他

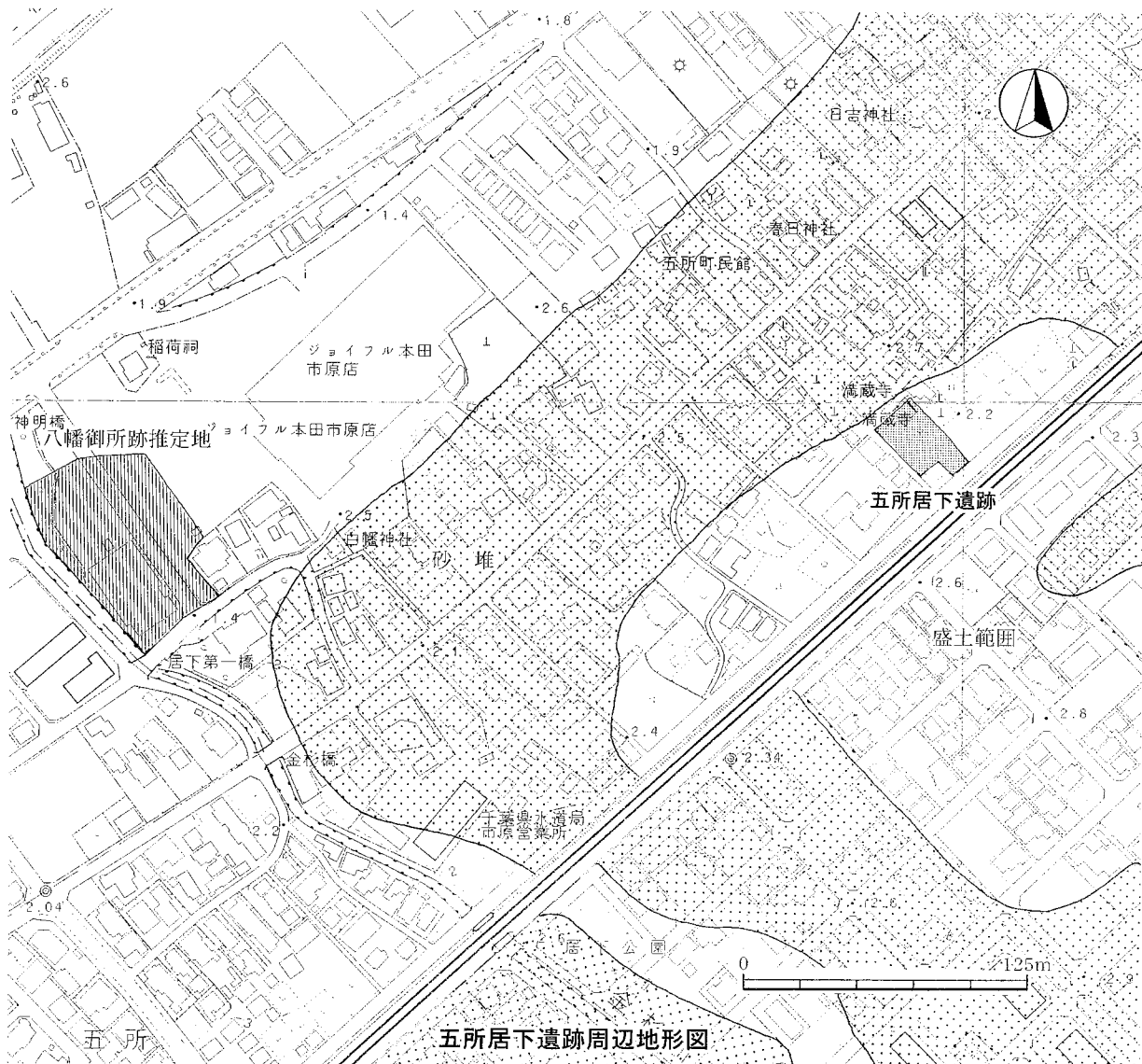
調査期間 平成10年8月3日～平成10年8月7日

調査面積 649㎡のうち65㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は養老川と村田川に挟まれた標高2mほどの最も東京湾寄りの海岸砂丘上に位置する。調査の結果、古墳時代の土坑1基、時期不明溝状遺構1条を検出した。出土遺物中に、古墳時代、奈良平安時代の土師器、須恵器片が認められ、当該調査区内での遺構の密度は低いが、このことが、周辺砂堆上の遺構の存在を否定するものではない。詳細については下記報告書を参照されたい。

（北見一弘）

「五所居下遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告書』1999 市原市教育委員会



昭和46年 国土地理院発行 土地条件図 姉崎より

にいほりことりむかい
14. 新堀小鳥向遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査事業

所在地 市原市新堀字馬場947-3

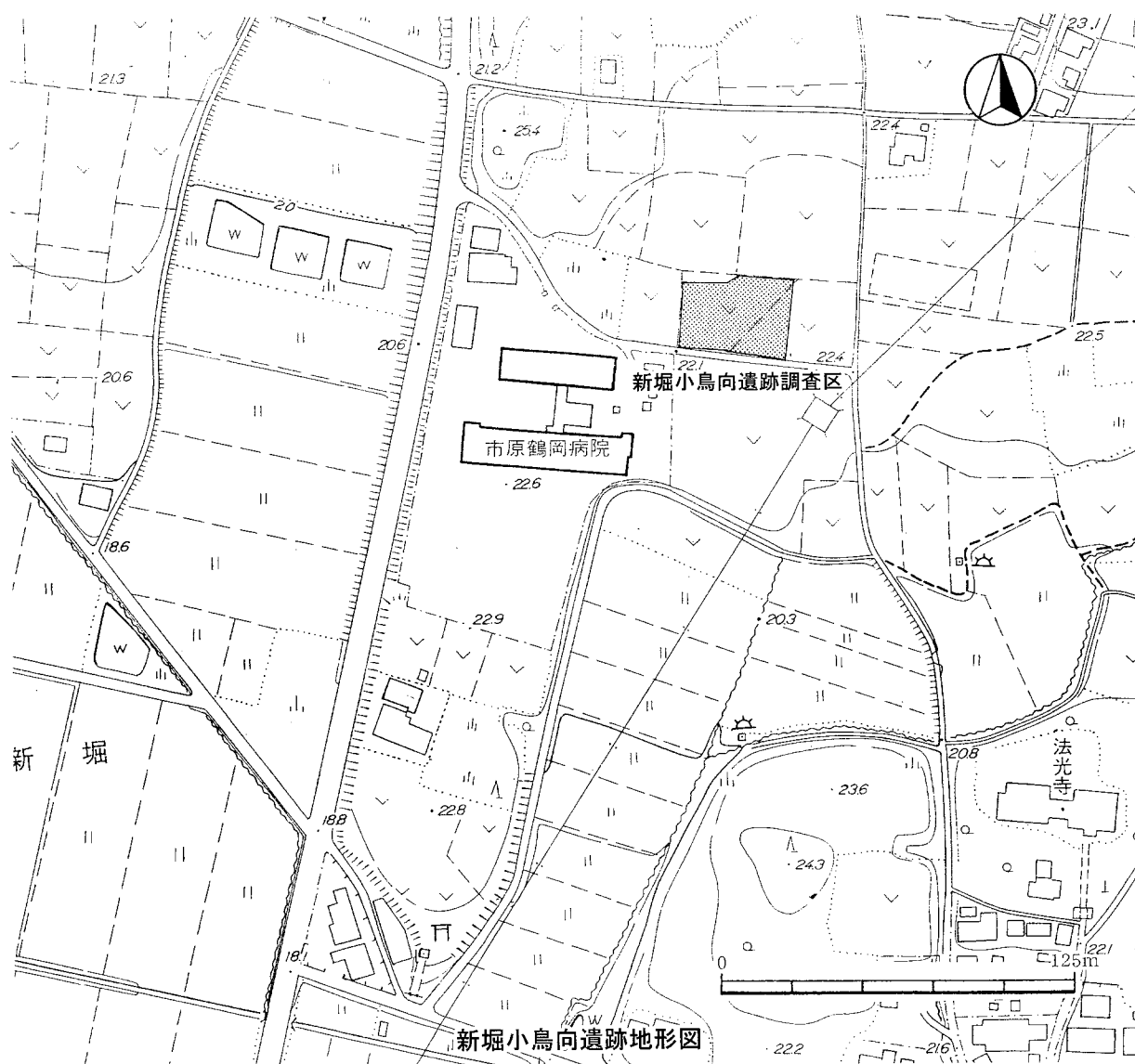
調査期間 平成10年11月16日～平成10年11月20日

調査面積 1,024㎡のうち102㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は養老川中流域右岸の標高20mほどの河岸段丘上に位置する。調査の結果、古墳時代前期方形周溝墓3基、古墳時代後期竪穴住居跡1軒、平安時代竪穴住居跡1軒、時期不明粘土採掘坑2基が検出された。これを受け、平成11年度に調査区の一部を対象に本調査、整理報告が実施された。結果、鑄造滓などの鑄造関連遺物が出土し、関連する明確な遺構の検出は認められないが、中世段階に、銅、鉄製品の鑄造が行われた可能性が指摘されている。このことから、本調査対象外となった区域より検出された粘土採掘坑は、鑄造に伴う遺構として捉えることが可能である。（北見一弘）

「新堀小鳥向遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告』1999 市原市教育委員会

『小鳥向遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第69集 2000財 団法人市原市文化財センター



15. ^{じゅうごさわぼうがやつ}十五沢坊ヶ谷遺跡A地点（第2次）

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第3号）

所在地 市原市十五沢字居屋敷259-2ほか

調査期間 平成10年12月8日～平成11年2月19日

調査面積 12,900㎡のうち645㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は養老川左岸の沖積低地内水田が広がる中の、一段高い自然堤防上の畑地及び水田にある。標高は約6～7mを超える微高地になっており、遺跡北側の字川田と呼ばれている旧河川道と考えられる水田との比高差は約2mある。調査は平成9年度に一部調査した坊ヶ谷遺跡をA地点として、残りの部分を2次調査とした。海上地区は図1に示すように、養老川左岸地域の養老川が台地からデルタを形成する地域であり、古代の時期から遺跡が形成される。また小折・西野地区は海上郡衙推定地として、千葉県教育委員会よって官衙関連遺跡確認調査を2次に渡り調査しており（図2 西野官衙関連遺跡白抜き1次・黒潰し2次トレンチ）、古代遺跡として重要な位置を占めている。

今回調査した十五沢坊ヶ谷遺跡は、上述の西野官衙関連遺跡と今富廃寺跡遺跡とのほぼ中間に位置し、調査地点をA～Dに分けて平成11年度まで調査を継続している。A地点は中世以前まで河道であった北辺と、河岸段丘状に段崖を形成したであろう崖線部の東西にはしる道路が、調査対象地区の南辺となっている。従ってA地点対象地の基盤層は同時期形成されたと考えられる。遺構確認面である基盤層は、黄褐色砂質粘土層でありその上層に茶褐（チョコレート）色の粘質土があり、古代の遺物包含層となっている。その上には暗褐色の土壌があり、中世の遺物を含む遺構覆土となっている。これらは現状では微高地の畑地部分のみ標準土層としてみられる(1)。これらの基盤土層は大坪永隅遺跡(2)でも確認されており、養老川右岸河岸段丘沖積面の共通する成因が考えられる。しかし北部は砂の含有率が高く、河道部では全層砂である。また遺構は南に片寄りがあり、古代中世遺構は南側にある。

遺構について北側は、上部に富士宝永火山灰を含む溝状遺構が検出された。これらの溝は旧耕作時の地割りとはほぼ合致するため、江戸初期に確定された所有区画溝と推定される。また北辺部には耕作者の聞き取りから「近世の墓地」があったとされ、近世には安定した土地であったと考えられる。

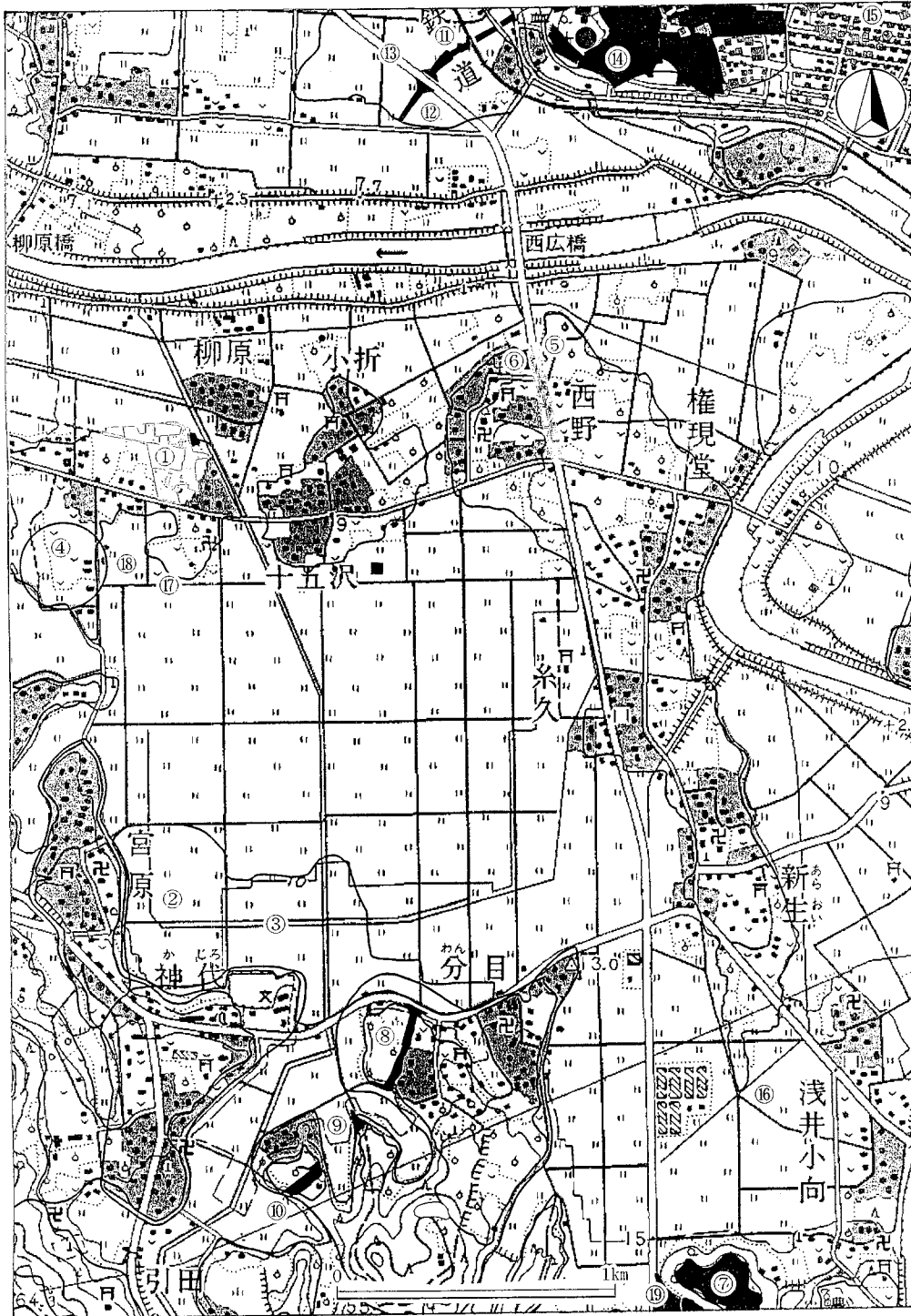
南部は布目瓦や土師器、緑釉段皿片、須恵器等が出土する包含層と溝状遺構があり、溝状遺構は微高地をめぐって低地部まで掘削されている。規則性は不明であり、中世の溝状遺構が古代の溝状遺構を横断したり、沿ったりしており、土地利用に同様な状況が見られる。中世陶器の常滑片等が検出された土坑もあり生活域になっていた可能性がある。近世の遺物が出土する広い落ち込みがあり、字の「居屋敷」から近世の一時期には屋敷地になっていたと考えられる。

遺構確認面が本格化する調査前に検証され、十五沢坊ヶ谷遺跡全体の調査の指針になった。基盤層下には粘土と砂の互層があり、その下に黒色の泥層がある。さらにその下は砂層となる。遺跡の形成の問題は自然地理学的方法を兼ね備えて進める必要がある。調査後工事が着手され調査対象地は新しく農地となった。

（近藤 敏）

1. 渡邊高弘 「調査の概要」 『市原市西野遺跡第2次調査報告書』 1998.4 千葉県文化財センター

2. 田中清美 「大坪永隅遺跡」 『市原市文化財センター年報 昭和63年度』 1994.3 市原市文化財センター



- 遺跡地点 凡例
- ①十五沢坊ヶ谷遺跡 A地区(第2次)(1)
 - ②宮原遺跡A地区
 - ③宮原遺跡B地区
 - ④今富廃寺 (2)
 - ⑤西野遺跡 (海上郡衙関連)(3)
 - ⑥西野下田遺跡 (4)
 - ⑦釜神遺跡 (5)
 - ⑧分目要害遺跡 (6)
 - ⑨宮原堂谷遺跡 (7)
 - ⑩宮原布谷台貝塚遺跡 (8)
 - ⑪村上川堀遺跡 (9)
 - ⑫村上白山遺跡 (10)
 - ⑬村上白山遺跡 (11)
 - ⑭諏訪台遺跡 (12)
 - ⑮東間部多遺跡 (13)
 - ⑯西野(浅井小向) A地点
 - ⑰十五沢坊ヶ谷遺跡 B地区-1-2
 - ⑱十五沢坊ヶ谷遺跡 C地区
 - ⑲浅井小向後谷遺跡 (14) (15)

図1 十五沢坊ヶ谷遺跡A地区(第2次), 宮原遺跡A地区・B地区周辺地形図(S=1/16,000)

引用参考文献

1. 蜂屋孝之「十五沢坊ヶ谷遺跡」『市原市文化財センター年報 平成9年度』2000.3 財団法人 市原市文化財センター
2. 福岡元「まとめ」『今富地区遺跡発掘調査報告書』1982.3 市原市今富地区遺跡調査会
3. 今泉 潔ほか「海上郡衙関連遺構」『市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書』1989.3 財団法人 千葉県文化財センター
4. 田所 真「村編西野下田遺跡」『市原市文化財センター 平成9年度』2000.3 財団法人 市原市文化財センター
5. 大村 直「釜神遺跡」『市原市文化財センター年報 平成4年度・平成5年度』1996.3・1997.1 財団法人 市原市文化財センター
6. 櫻井敦史「分目要害遺跡」『市原市文化財センター年報 平成5年度』1997.1 財団法人 市原市文化財センター
7. 米田耕之助「宮原堂谷遺跡」『市原市文化財センター年報 平成4年度』1996.3 財団法人 市原市文化財センター
8. 米田耕之助「宮原布谷台貝塚」『市原市文化財センター年報 平成4年度』1996.3 財団法人 市原市文化財センター
9. 小川浩一「市原市村上川堀遺跡」2000.3 財団法人 市原市文化財センター
10. 小川浩一「村上白山遺跡」『市原市文化財センター年報 平成4年度』1996.3 財団法人 市原市文化財センター
11. 3と同じ「白山遺跡の調査」
12. 浅利幸一「諏訪台遺跡」『市原市文化財センター年報 昭和63年度』1994.3 財団法人 市原市文化財センター
13. 上総国分寺台遺跡調査団編『東間部多古墳群』1974.10 早稲田大学出版部
14. 小出純夫「浅井小向後谷遺跡」『市原市文化財センター年報 平成6年度』1996.3 財団法人 市原市文化財センター
15. 小川浩一「浅井小向後谷遺跡(2次)」『市原市文化財センター年報 平成7年度』1998.3 財団法人 市原市文化財センター

じゅうごさわぼうがやつ

16. 十五沢坊ヶ谷遺跡B地点

事業名 海上地区遺跡発掘調査事業

所在地 市原市西野字前田331他（国庫補助分）、西野字前田324他（市単独費分）

調査期間 平成11年1月6日～平成11年1月18日（国庫補助分）

平成11年1月19日～平成11年2月5日（市単独費分）

調査面積 3,200㎡のうち160㎡（国庫補助分）、6,400㎡のうち3,200㎡（市単独費分）

調査概要 平成9年度から着手した、海上地区ほ場整備事業に係る発掘調査事業の2ヵ年目調査対象地のうち、国庫補助事業及び市単独事業として実施したのが、ここで報告する部分である。事業としては、国庫補助対象地部分3,200㎡、市単独事業分6,400㎡にわけて調査を実施したものであるが、ここでは、一括して概要を述べることにする。

遺跡は、養老川左岸の標高7～8mの自然堤防上に立地する。今回の調査部分は、周辺より一段高い畑地部分及びその周りの水田部分を含む。調査着手前の観察では、西寄りの畑地部分で粒状の土器片が散布しているのが認められた。なお、調査対象地の中央北寄りの塚は、調査対象外である。

調査は、3m×3mを基本とするグリッドを設定して行った。一部のグリッドについては、確認した遺構の性格を把握するため拡張した。遺構の確認面の地質は一様ではなかったが、結果的には、標高7.2m前後で遺構が確認された部分が多い。ただし、調査まえから相対的に高位の部分では、確認面も比較的高位であった。

調査の結果、井戸跡、溝、土坑などからなる、奈良時代から平安時代にかけての遺構の広がりが見られた。これらは調査対象地の西方に偏る傾向がある。井戸跡は3基確認し、部分的に掘り下げるに留めたが、平安時代の遺物が多く検出された。溝については不明な点が多いが、奈良・平安時代の遺物を出土している。方向的には、南北よりやや東に振れるものが多い印象を受ける。土坑のうちいくつかは掘立柱建物跡の柱穴になる可能性はあるが、今回の調査では掘みきれなかった。遺物は土師器が多数を占めるが、須恵器、灰釉陶器、瓦なども認められる。瓦については、遺跡西方約300mに所在する今富廃寺との関連を窺わせるが、今後の検討課題である。

今回の調査では、住居跡は確認されなかったが、井戸跡の存在や日常雑器類の占める割合が高いと思われることから、居住域としての性格をもつ部分であると考えられる。

西野を中心とする、養老川左岸の沖積地の様相については、次第に明らかになりつつある。「小折」地区はその地名から海上郡衙推定地となっている。国道297号線のバイパス建設工事に先行する調査以後、数度にわたり調査が実施されているが、現在までのところ、郡衙跡と確定するには至っていない。今後予定される周辺一帯の調査によって、その実態がより鮮明になることが期待される。

なお、これまでの周辺の調査例については、下記文献を参照されたい。 （高橋康男）

<関連文献>今泉 潔 1989『市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書』県文セ

高梨俊夫 1996『市原市西野遺跡第1次発掘調査報告書』県文セ

渡辺高弘 1997『市原市西野遺跡第2次発掘調査報告書』県文セ

田所 真 2000「西野下田遺跡調査報告」『市原市文化財センター年報 平成9年度』

高橋康男 2001「十五沢坊ヶ谷遺跡」『第15回 千葉県遺跡調査研究発表会要旨』



遺跡の分布と立地環境 (1/25,000)

(「姉崎地域の地質」(徳橋・遠藤1984)と遺跡分布地図を基に作成)



十五沢坊ヶ谷遺跡B～D地点全体略図 (1/2,000)

(奈良・平安時代の遺構のみ図示した)

(「千葉県遺跡調査研究会発表会要旨」に一部加筆)

17. 十五沢坊ヶ谷遺跡C地点

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第3号）

所在地 市原市宮原字老田881-1他

調査期間 平成10年12月8日～平成11年2月19日

調査対象面積 11,100m²（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川左岸の標高約7.4m前後の自然堤防上に位置する。調査対象地のほとんどの部分が水田で、畑地部分はわずかであった。西方約70mの地点には今富廃寺がある。本年報所収の坊ヶ谷遺跡B地点とは水田一枚隔てるのみである。

今富廃寺については、瓦が採集されることで、古くからその存在が知られているが、実態は不明である。かつて、ほ場整備に先行して確認調査が実施されたが、周縁部分のみの調査であったため、良好な遺構の検出には至っていない。その後今日に至るまで不明な部分を多く残している。また、瓦の散布もほとんど認められなくなっている。

現在の今富地区は、台地部分も含めかなりの面積を占めるが、大型の前期の前方後円墳である今富塚山古墳や今富廃寺に象徴されるように、古くから拠点的な地域であったことが窺える。おそらくその歴史の延長線上に、平安時代末から中世にかけて今富保の成立があったと考えられる。今富保は、官務家小槻氏の隆職の手による開発とされる便補保であるが、類縁にあたる小槻師経が上総介の補任を経ている点も興味深い。その規模等不明な部分が多いが、比較的安定的な可耕地が存在したことを窺わせる。今回のほ場整備の中心となる水田域の景観がいつから現在のようになったかは、現段階では不明であるが、その中心に近い部分には「沼」という小字を残すところから、排水の悪い状態が続いていたようである。おそらく、自然堤防や段丘に沿った部分から順次開田していったのであろう。残念ながらその諸階梯は明らかではない。養老川左岸では、姉崎古墳群に代表される姉崎地区が上海上国造の本拠地として著名であるが、今富塚山古墳、今富廃寺、海上郡衙推定地、今富保と、断続的ながらこの付近一帯には、中央との結びつきの強さを示唆するものが多い点を指摘できよう。養老川左岸におけるもうひとつの核と位置付けることも可能であろう。

今回の調査対象地は、南北に約300m、東西約50mの範囲である。調査対象地の1%を調査予定面積としたが、最終的には約3%の調査となった。調査はトレンチとグリッドを併用して行った。調査対象地は、東西方向に延びる農道を境にして大きく南北に分けることができるが、調査の結果、北側部分では全面的に遺構の広がりが見えられたのに対し、南側部分では良好な遺構の検出には至らなかった。

確認した遺構は、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、溝および中世の土坑、溝である。建物の規模や時期、溝の性格等はつかみきれていない部分も多い。ただし、建物の柱筋は南北に揃っている印象を与える。遺物は、土師器、須恵器、瓦等が出土した。瓦には、上総国分寺所用瓦と同様の均整唐草文軒平瓦を含んでいる。坊ヶ谷遺跡B地点に比べて瓦の出土量が多いことを一つの特徴としてあげることができる。なお、瓦塔の一部が調査対象地内で採集されている。これら成果から、今回確認した遺跡は今富廃寺の一部であると考えておきたい。

（高橋康男）

18. 宮原遺跡A・B地点

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第3号・第4号）

所在地 A地区 市原市宮原字兼田40-1ほか B地区 市原市宮原字二又2ほか

調査期間 A地区 平成10年2月1日～平成11年3月9日

B地区 平成11年1月25日～平成11年3月9日

調査面積 A地区 86,000㎡のうち860㎡（確認調査） B地区 61,200㎡のうち612㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は養老川左岸の沖積低地内の、南から北に延びる台地上宮原地区集落の東側に広がる水田にある（十五沢坊ヶ谷遺跡A地点図1の②③参照）。発掘調査時は事務作業上A・B地点に分割したが、同一遺跡であるためここではあわせて報告する。遺跡は姉崎台地の北東端標高20～11mの台地縁辺下にあり、南から北に傾斜する標高10～8mの低湿地に位置する。大正年間から耕地整理を施行しており、現地形は当時に改変されている。そのため空中写真や古地図等が無く、旧地形を知る手掛かりが少ない。今後明治年間の改租図等の地籍図を探して、旧地形に即した字切り図を作成しなければならない。海上郡衙推定地の南側に広がる水田地帯なので条里制研究の基礎資料としたい。

中世において宮原地区は図1の円形内に示す現薬王寺明照院地内に、宮原御所という館跡が存在する(1)。また図1右下の縄張り図は分目要害遺跡(2)であり、15～16世紀の時期宮原遺跡周辺地域は、大きな歴史的な意義を持った場所であった。遺跡南側台地上には国史現在社の神代神社がある。A地点は調査区分割線の西側、B地点は東側となる。両地点とも崖線寄りの南側は湧水が激しく、黒色・灰色粘質土下は砂層であり、不整合はあるが遺構等人工の遺物や人為的土層の確認はできなかった。

南側崖際以外の標準土層は、現水田耕作土の灰褐色土、黄褐色ローム状粒と小砂礫を含む灰色粘質土（上下2～3層に分離され上層には富士宝永火山灰が含まれ、下層は中世の14～15世紀の遺物が包含されている）があり、これらは酸化鉄の沈着が層毎に認められ乾田化されていると考えられる。

中世包含層下には、黒色土層があり有機質が土壌化されたものと考えられる。しかし湧水のため粘質化しており下層部は有機物が分解せず残り、草本泥炭層が地下2m以上にわたり認められる。この層は常に帯水しており、木器等の有機遺物が所々に包含されている。B8トレンチ（現水田面標高8.4m）では暗灰褐色泥炭層中（標高7.2m付近）から木材が列状に集中して検出され、その中には曲げ物の底板を再利用した田下駄や棒状具等が混じっていた。D13トレンチ（現水田面標高9.2m）では、暗灰色粘質土層中（標高8.0m）に一方を尖らし、一方を丸く整形したイヌガヤ材と思われる棒状木器が出土しており、10世紀頃の内黒処理ロクロ整形土師器が同層位に出土している。

旧地形では小河川が調査区を南東方向から北西方向に流れていた。この地区が乾田化した後勸農権を掌握した在地領主がおり、分目要害城下に水利を確保するための用水水門を設備してあったものと思われる(3)。対象の僅か1%の発掘ではあったが、宮原遺跡の内容を垣間見た調査であった。

（近藤 敏）

1. 須田 勉「宮原御所」『日本城郭大系第6巻千葉・神奈川』1980.2 新人物往来社
2. 櫻井敦史「分目要害遺跡」『千葉県の歴史資料編 中世1 考古資料』1998.3 千葉県
3. 西脇 康「村と村殿関係」『市原市史資料集（近世資料編）』1998.3 市原市

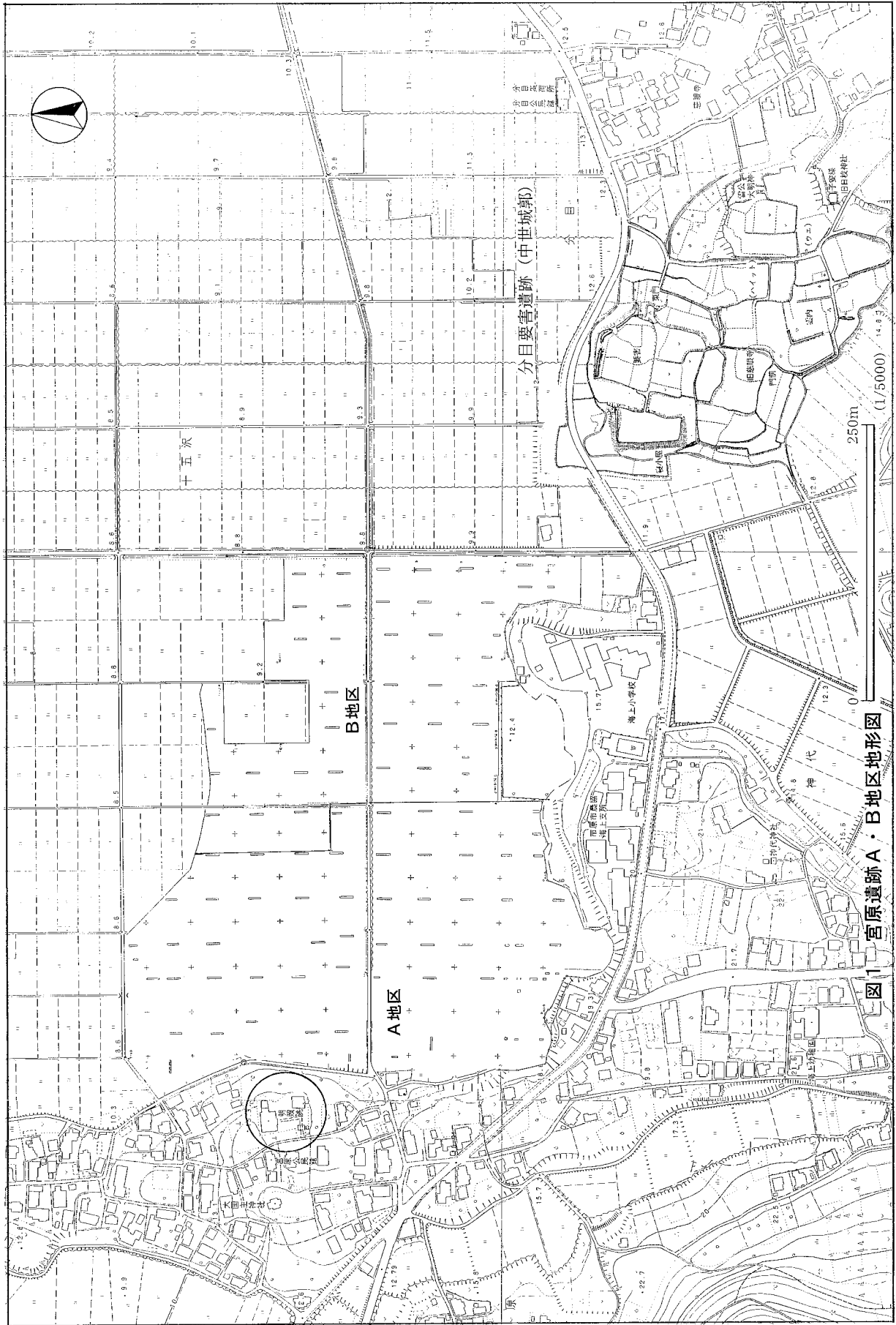
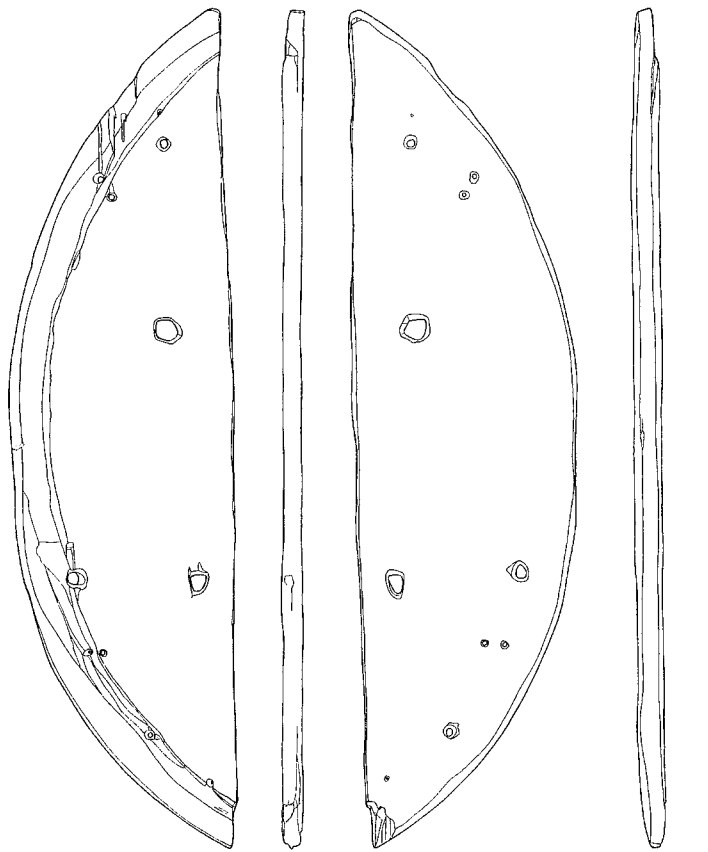


図1 百原遺跡A・B地区地形図



曲物底板再生品 田下駄(1/4) 宮原遺跡B地区 B8トレンチ出土

0 10cm



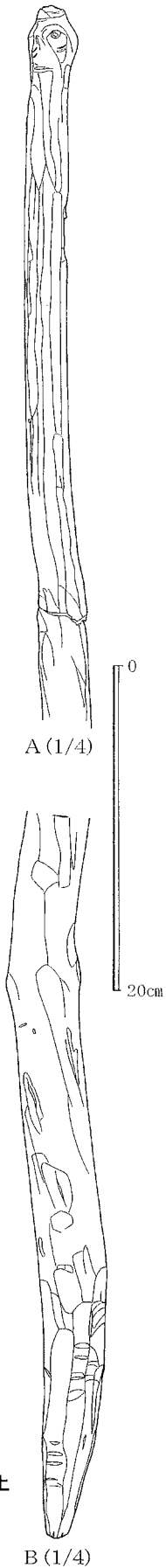
組手棒状製品(1/4)
宮原遺跡B地区B8トレンチ出土

0
10cm



棒状木器(1/8)
宮原遺跡B地区D13トレンチ出土

0
40cm



0
20cm

19. にしの西野遺跡A地点

事業名 ほ場整備事業（原営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第3号）

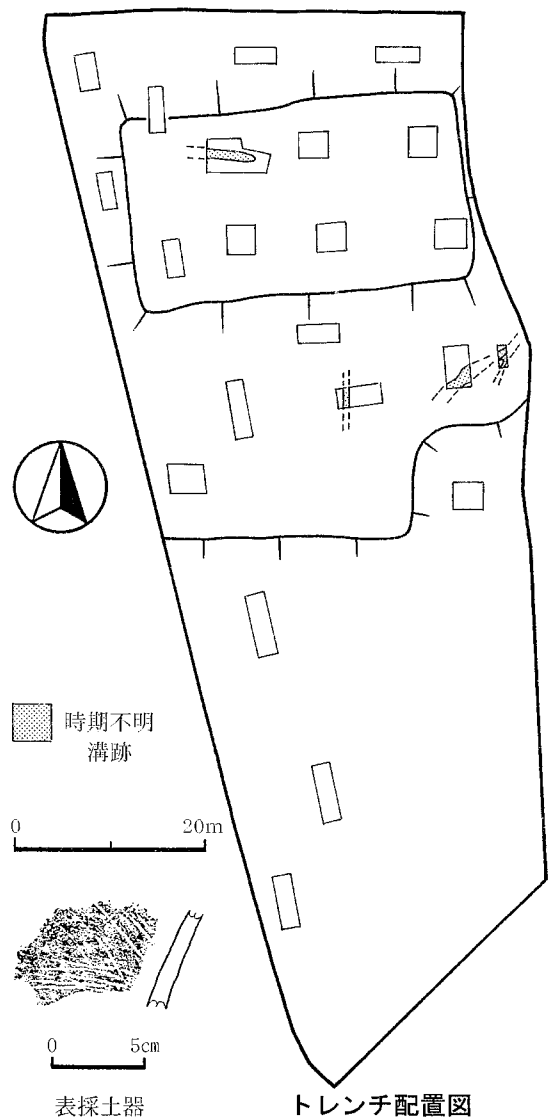
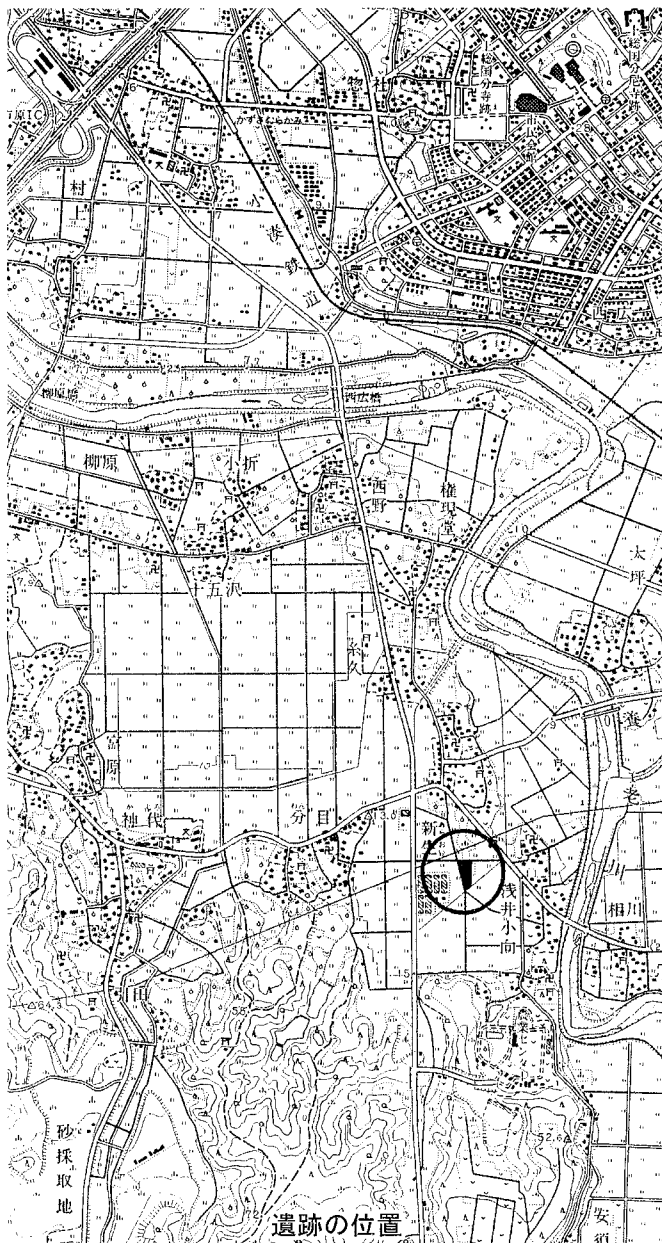
所在地 市原市浅井小向240-1ほか

調査期間 平成11年1月6日～平成11年1月19日

調査面積 4,000㎡のうち200㎡（確認調査）

調査概要 調査区は養老川左岸の微高地上に位置し、標高は11m前後である。調査区の現況は、中央付近で1段落ちており、高い部分が畑地および荒蕪地で、低い部分は水田であった。調査は対象面積の5%である200㎡のトレンチを設定して行った。

調査の結果、溝が3条検出されたが、近世もしくは近代のものである可能性が高い。各トレンチからは少ないが近世磁器や瓦が出土しているものの、明確に溝の時期を決められる遺物はなかった。調査区内では縄文土器らしき破片も1点のみ表採されているが、遺構はみつからなかった。（牧野光隆）



20. 大作脇ノ坂台遺跡

事業名 市津配水池築造工事に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）

所在地 市原市大作字脇ノ坂台99-25ほか

調査期間 平成10年7月6日～7月14日（確認調査）

平成10年8月6日～9月1日（本調査）

調査面積 3,938㎡のうち上層394㎡・下層40㎡（確認調査）、730㎡（本調査）

調査概要 遺跡は標高84m前後の台地上北側縁部にある。市の分布地図上では、古墳時代から奈良・平安時代にかけての包蔵地として登録されており、調査区付近の表面採取によって碧玉製の管玉がみついている。そのため古墳などの存在も予想されたが、土師器の時代は一切確認できなかった。

取り付け道路部分も含む、工事範囲全域を確認調査した結果（図3参照）、縄文時代早期条痕文期の炉穴や土坑、および包含層1カ所を検出した。そのため遺構の検出された西側730㎡を本調査した。下層（旧石器時代）の遺物は、確認できなかった。

調査区東端の道路沿いは、すでに深い攪乱をうけていた。現表土は40cm～50cmと薄く、全面的にゴボウの耕作の影響が大きいいため、遺構の残りは悪かった。



図1 周辺地形図（S=1/5,000）

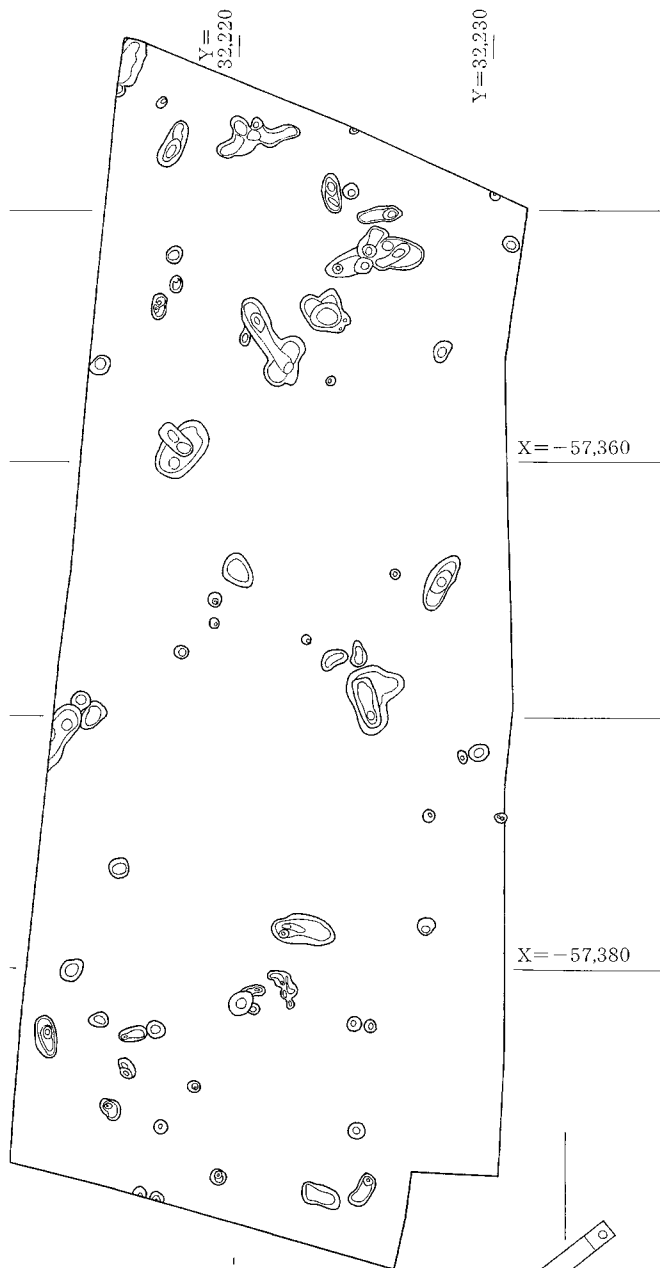
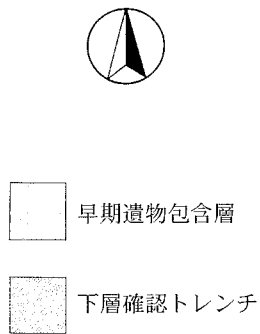


図2 本調査範囲全体図
(S=1/300)



本調査によって、縄文時代早期の炉穴が21基、同土坑46基、および同包含層を調査した。遺物をみると条痕文系の土器であるが、ほとんど文様はなく、時期を特定できるものは少ない。ただ、一部に鶉ガ島台式の特徴である竹管文をもつ遺物がみられたため、その時期前後であろうと考えられる。

炉穴は、典型的な不整楕円形のものである。調査区北側では、何基かが切り合っているものが多くあり、南側では個別に単独で検出された。これは炉穴が使用された時期の差を表すものかもしれない。南側の包含層として調査した部分には、性格不明の土坑もしくはピットが多くあり、組み合わせによっては住居跡にもなり得るかもしれないが、難しい。遺構の分布は、さらに西側および北側にひろがるものと予想される。
(牧野光隆)



図3 確認トレンチ配置図 (S=1/1,000)

21. 椎津茶ノ木遺跡（第2次） しいづちやのき

事業名 不特定遺跡発掘調査

所在地 市原市椎津字茶ノ木545-1ほか

調査期間 平成10年5月13日～平成10年6月11日

調査面積 470m²（本調査）

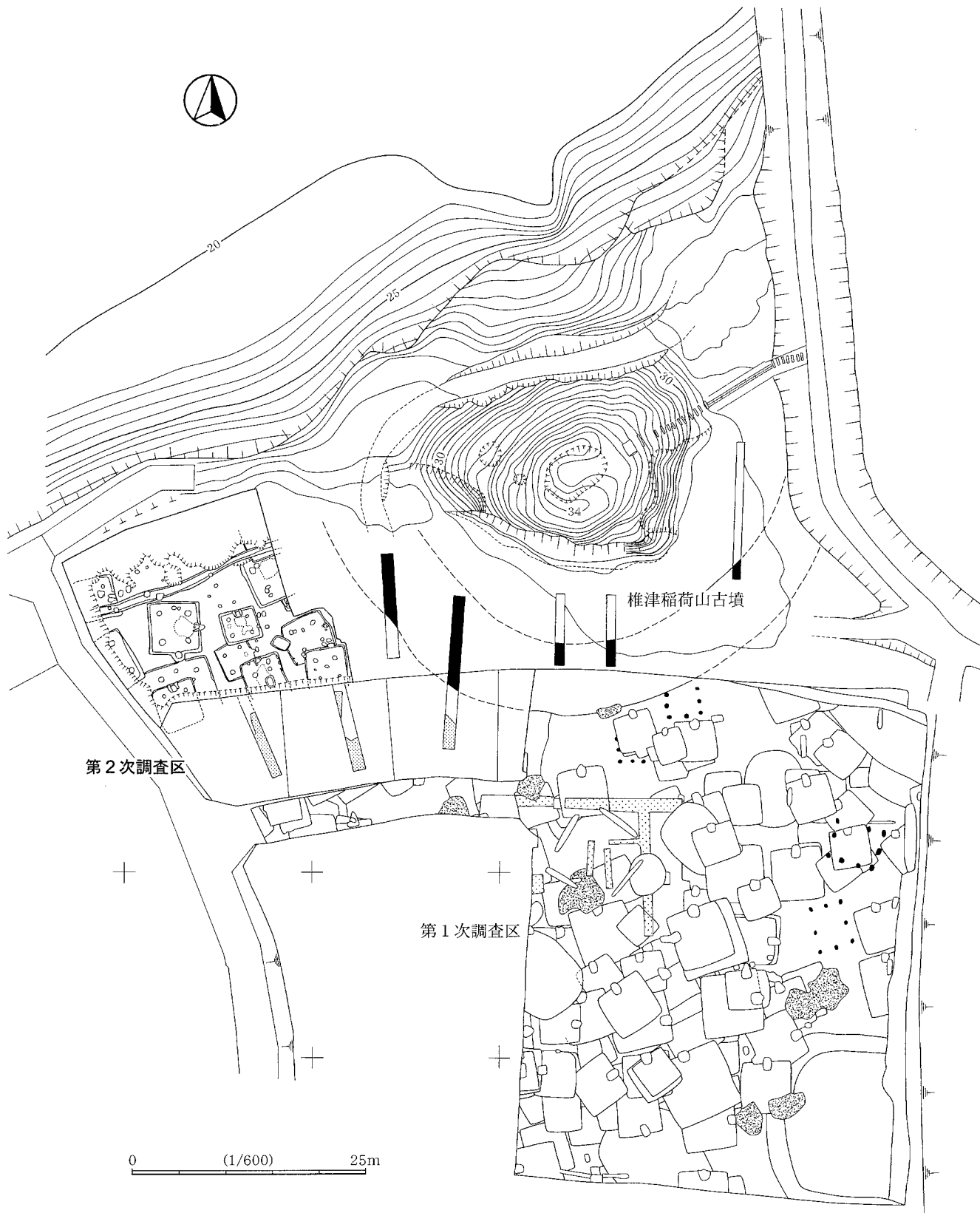
調査概要 椎津茶ノ木遺跡は、椎津川最下流左岸の標高30m前後の姉崎台地突端に位置している。遺跡の北側正面には、東京湾を一望することができ、当時の生活環境を垣間見ることができる好適地に所在する。また、遺跡の東側隣接には石枕が出土したとの伝承のある椎津稻荷山古墳や椎津城跡と関連のある正坊山城跡等が所在し、姉崎地域の中でも歴史的に重要な地域となっている。また、前回の平成2年に行なった宅地造成に伴う1次調査では、縄文時代から奈良・平安時代にわたる総数200基を越える各種遺構・遺物が発見されるなど、多くの成果を上げている。なかでも、古墳時代後期を中心とした竪穴住居跡は約100軒発見されており、この地域における古墳時代から奈良時代の集落の変遷を考えるうえで重要な遺跡となっている。

今回の調査は、宅地開発に伴うもので、前回調査した部分の北側隣接地で、約470m²についての発掘調査を行なった。調査の結果、竪穴住居跡12軒（立替えを含めると15軒）、溝跡1条、土坑3基が発見された。竪穴住居跡は、炉を持つ古墳時代中期のもの1軒、かまどを持つ古墳時代中期後半から後期にかけてのもの11軒である。かまどを持つ住居跡については、かまどの方向により建てられた時期に差があり、東向きのかまどを持つ住居が古く、北向きになる住居が新しいものとしてとらえることができる。また、住居跡のなかには何度かの立替えにより拡張・縮小していったものがある（SI-2 2回、SI-11 3回）。今後の検討により、より細かな時期区分ができることと思われる。

住居跡以外の遺構としては、古墳時代後期の住居跡内（SI-6）より発見された土坑（SK-3）が目玉される。住居内の硬化した床の下より検出したもので、長径1.3m、短径1mの楕円形で1.4mの深さを持っている。土坑の埋め土は、ローム土を主体に、焼土や炭が多く含まれており、さらに床直下の覆土上部には、50cm程度の焼土の塊がみられた。SI-6住居跡とは直接関連がないと考えているが、どのような性格の遺構なのか、今後の調査例を待ちたい。

調査前の予想では、1次調査の検出状況と同様に住居跡が何層にも渡って重なりあった状況と考えていたが、単一の住居の重なり状況であった。最近の宅地造成により一部削平されてはいるものの、台地最突端という立地条件での住居占地要件を示すものである。また、今回もSI-3住居跡等から土玉が多く発見されており、1次調査でも指摘している様に漁撈に関連した集落と言えよう。いずれにしても、椎津茶ノ木遺跡は姉崎・椎津地域において古墳時代から奈良時代にわたってほぼ継続的な変遷をおえる集落遺跡として、また漁撈を生活の基盤とした拠点的な集落遺跡として位置付けられることと思われる。

（小出紳夫）



椎津茶ノ木遺跡調査区位置図

いちほらじょうりせい
22. 市原条里制遺跡（八幡・砂田地区）

事業名 若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託

所在地 市原市八幡280-2番地ほか

調査期間 平成10年9月8日～平成10年9月25日（確認調査）

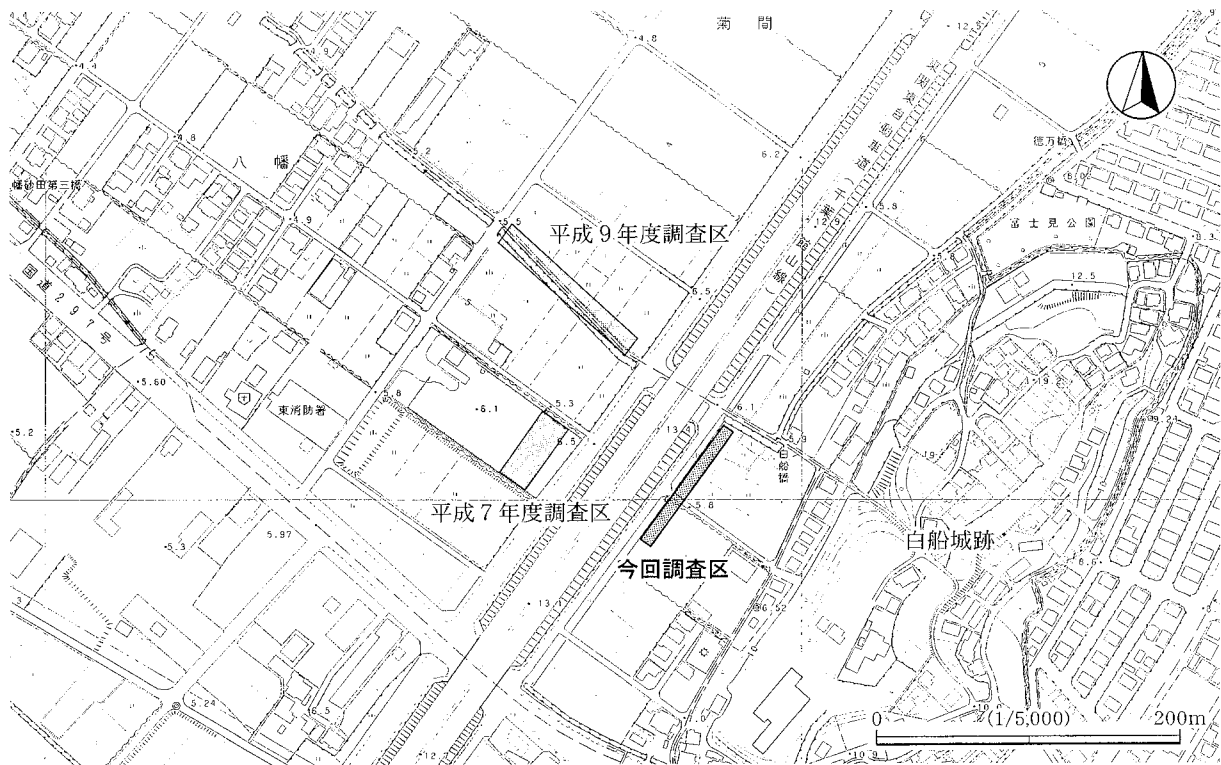
平成10年9月28日～平成10年10月12日（本調査）

調査面積 860㎡のうち86㎡（確認調査）・860㎡（本調査）

調査概要 市原条里制遺跡は市原市の北西部に位置し、村田川と養老川に挟まれた標高約5mを測る沖積低地に立地する。遺跡周辺は、東関東自動車道（千葉・館山線）の延伸による調査が行われたほか、近年は小規模な調査も数ヶ所で行われており、古代から中近世にかけての条里地割りによる畦畔跡や水路跡などの水田遺構が検出されている。今回の調査地点は、直線連郭式の構造を持つ白船城跡の位置する台地に近く、東関東自動車道の南側隣接地にあたる。

調査は、対象区域860㎡について確認調査を実施したのち、全域について引き続き本調査に移行した。なお、調査に際して著しい湧水が予想されたため、臨時仮設電源を設置し、水中ポンプによる24時間の排水を行っている。今回の調査区における標準土層は図に示すとおりである。このうちⅡ層については、平成9年度に実施された自然科学分析の際に、上部に含まれるテフラ粒子が富士宝永テフラ（1707年）に由来する可能性が示されている褐灰色粘質土に相当するものと考えられる。また、Ⅳ層は上部に浅間Bテフラ（1108年）を含むとされる暗灰色土に、Ⅴ層は榛名二ツ岳渋川テフラ（6世紀初頭）を含むとされる黒灰色泥炭層に相当するものと考えられる（1）。

調査の結果、平安時代と思われる疑似畦畔5ヶ所、中世以降と思われる疑似畦畔2ヶ所とこれに伴

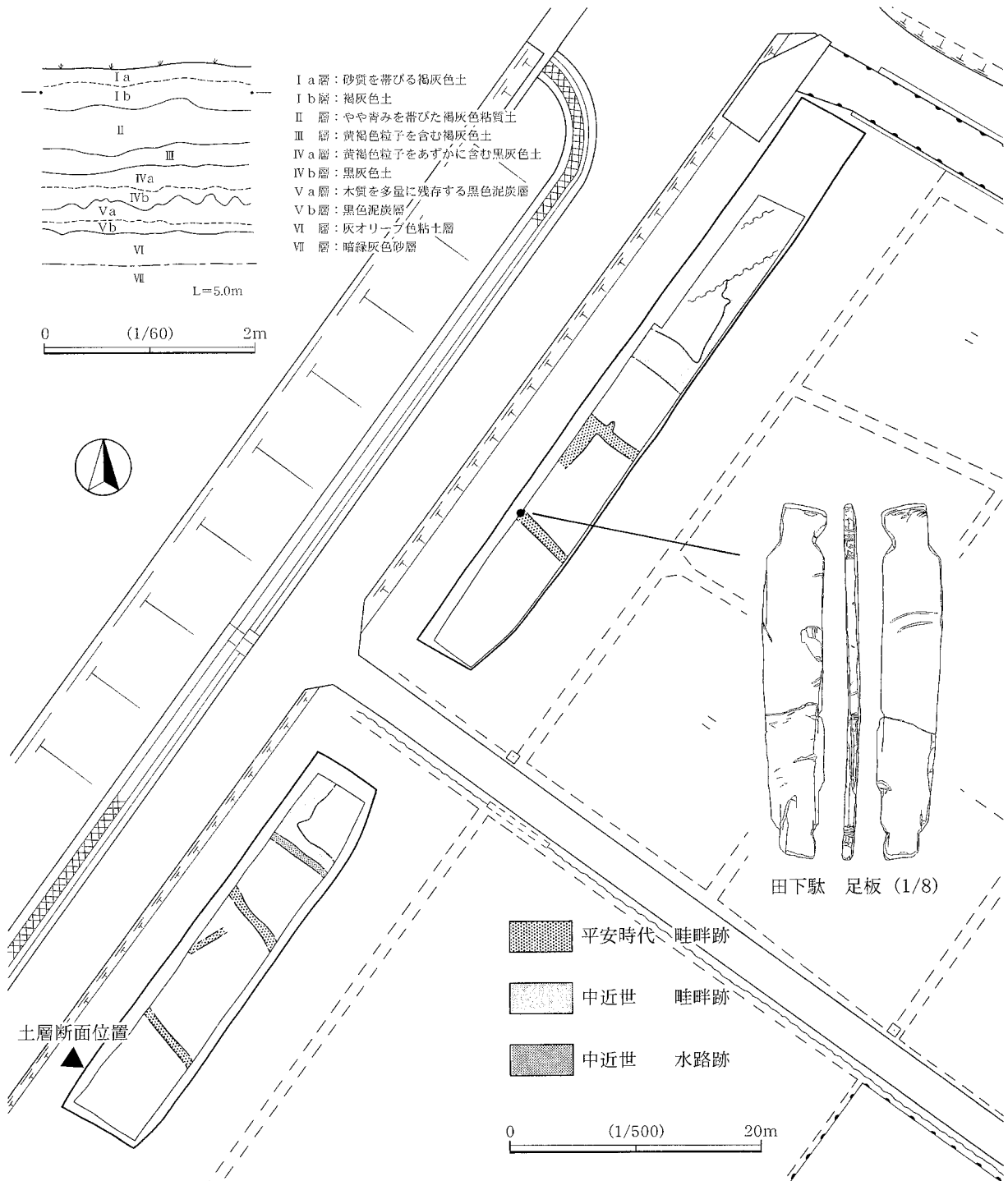


市原条里制遺跡周辺地形図

う水路跡 1ヶ所が検出された。平安時代と思われる畦畔跡についてはIV b層の基底から検出されたが、その痕跡は不明瞭で、遺構の認定は困難であった。中世以降と思われる2ヶ所の畦畔跡は灰色土の堆積する水田跡部分との境が比較的明瞭に認められ、Ⅲ層中から掘り込まれる水路跡には水流の痕跡を示すと考えられる砂の堆積が見られた。遺物は、調査区北側を中心として土師器片・須恵器片・布目瓦片などが検出されたほか、田下駄と思われる木製加工品1点も出土している。(鶴岡英一)

(1) 株式会社古環境研究所 「市原市、市原条里(菊間徳万地区A)の自然科学分析」

『市原市文化財センター年報 平成9年度』 2000 財団法人市原市文化財センター



23. 鶴舞遺跡

事業名 一般県道鶴舞牛久線交差点改良に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

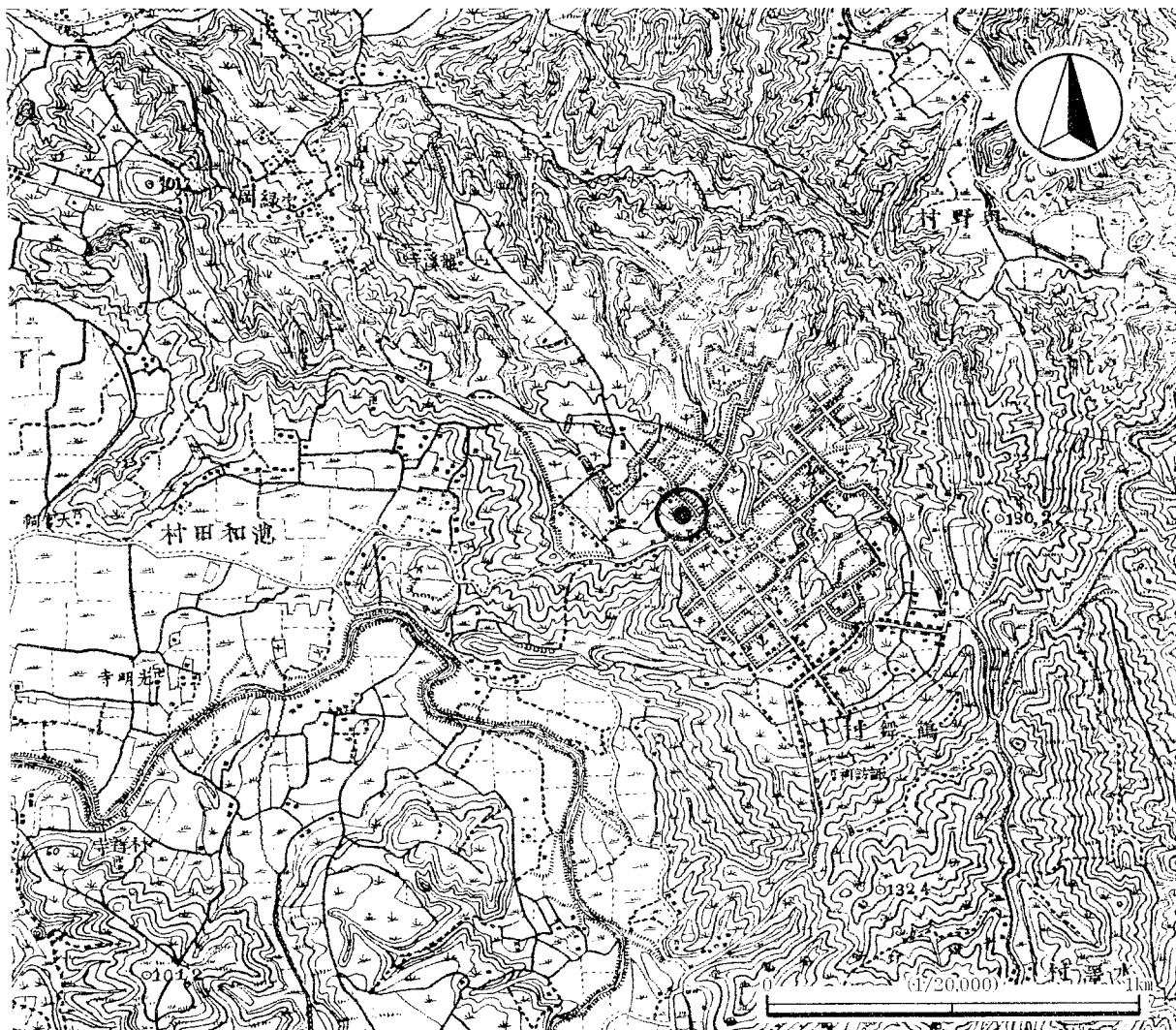
所在地 市原市鶴舞620他

調査期間 平成10年5月19日～平成10年5月21日

調査面積 132㎡のうち12㎡（確認調査）

調査概要 鶴舞遺跡は市原市の南部に位置し、養老川の支流である平蔵川の右岸、標高104mを測る台地上に立地する。縄文土器・土師器の包蔵地として周知されるこの遺跡内には、鶴舞城跡が含まれている。鶴舞城は、明治元年（1868）に浜松から鶴舞へ転封となった井上氏によって開発がなされたもので、明治3年には藩庁・知事邸宅・藩士の家屋等が完成している。調査は、県道の交差点改良に伴い、交差点拡張部分にあたる132㎡の調査対象区域のうち、12㎡について確認調査を実施した。

調査の結果、近代以降と考えられる井戸跡2基が検出された。なお、詳細については附編を参照されたい。
(鶴岡英一)



※迅速測図 鶴舞村より転載

鶴舞遺跡周辺地形図

つるまいねごろ
24. 鶴舞子来遺跡

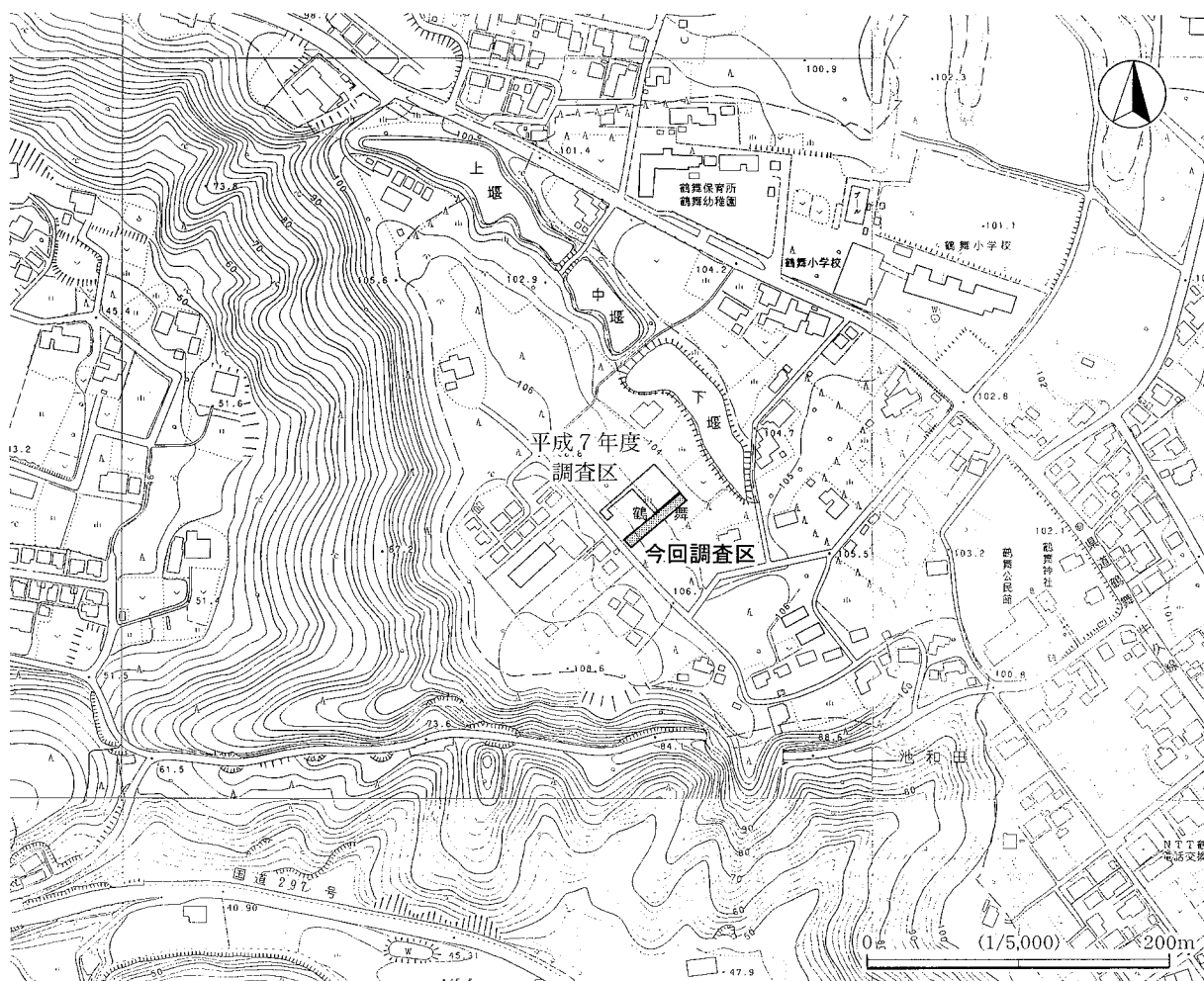
事業名 第1種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市鶴舞661-2の一部

調査期間 平成10年6月8日～平成10年6月12日

調査面積 300㎡のうち33㎡（確認調査）

調査概要 鶴舞子来遺跡は市原市の南部に位置し、養老川の支流である平蔵川の右岸、標高103～105mを測る台地上に立地する。遺跡は、明治元年（1868）に浜松から鶴舞へ転封となった井上氏による開発がなされた鶴舞城跡に含まれる。平成7年度には、移動通信基地局の建設に伴う確認調査が西側隣接地で実施され、縄文時代中期後半と思われる小竪穴状遺構1基が検出されている。今回の調査も、隣接地と同様に電気通信無線基地局の建設に伴うもので、300㎡の調査対象区域のうち、33㎡について確認調査を実施した。調査の結果、縄文時代の土坑1基と時期不明の溝状遺構1条が検出され、遺物は縄文時代中期後半から後期にかけての土器片が多数出土した。なお、詳細については付編を参照されたい。（鶴岡英一）



鶴舞子来遺跡周辺地形図

いりやまずかたまたぎ
25. 不入斗片又木遺跡

事業名 第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

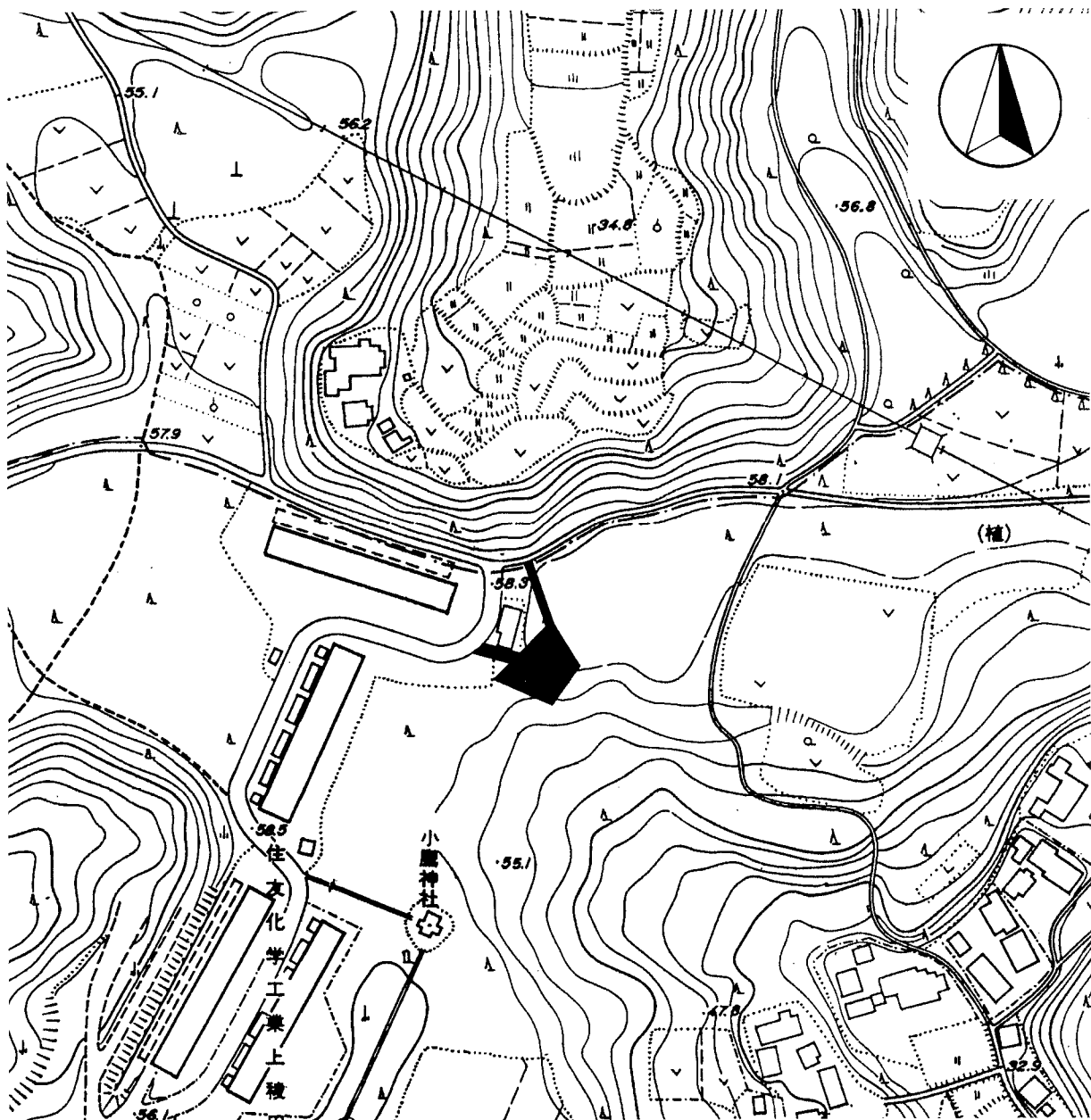
所在地 市原市不入斗字北宮ノ台186番

調査期間 平成11年3月16日～平成11年3月18日

調査面積 679.32㎡のうち67.9㎡（確認調査）

調査概要 前回調査地(1)から若干離れてはいるものの、同じ台地上ということで、縄文早期・古墳前期・古代の遺構が予想された。8ヶ所確認トレンチを設定し、調査を進めたところ、古墳時代前期を中心とする竪穴建物跡10棟・古代溝跡1条・中世溝跡1条が検出された。（小橋健司）

(1) 寺島 博 『千葉県市原市- 片又木遺跡』 1984 財団法人市原市文化財センター



周辺地形図 (1/2500)

きたのはら 26. 北野原遺跡

事業名 宅地開発に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）

所在地 市原市国分寺台中央6-10-1～7

調査期間 平成10年11月24日～平成10年12月25日（確認調査）

平成11年1月25日～平成11年3月18日（本調査）

調査面積 11,829.37㎡のうち1,183㎡（確認調査）・2,340㎡（本調査）

調査概要 北野原遺跡は、「国分寺台」と名付けられた台地上に位置する。養老川水系によって樹枝状に開析されたこの台地上では、土地区画整理事業に伴い、これまでに数多くの遺跡の調査が行われてきた。周辺には市原市を代表する遺跡が数多く所在し、大規模貝塚である根田祇園原貝塚や西広貝塚、いわゆる出現期の古墳として注目された神門古墳群、「王賜」銘鉄剣の出土した稻荷台1号墳、国指定史跡である上総国分僧寺跡・尼寺跡などはあまりにも有名である。

調査の結果、縄文時代後期前半の竪穴住居跡6軒・土坑12基・地点貝塚、古墳時代後期の竪穴住居跡5軒、平安時代の方形周溝状遺構1基・有天井土坑1基などが検出された。今回の調査で特に注目される点としては、縄文時代の腕輪状土製品の出土と平安時代の地下式墳を伴う方形周溝状遺構の検出があげられる。腕輪状土製品はイノシシの牙製装飾品と形態が類似し、ブレスレットとしての利用が想定される。また、方形周溝状遺構の内部施設においては、玄室内から木質を伴う鉄製釘や木棺を担ぐ横木を渡した門と考えられる鉄製品が出土している。なお、詳細については下記報告書を参照されたい。

（小川浩一）

『市原市北野原遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第68集 2000 財団法人市原市文化財センター



北野原遺跡周辺地形図

IV 遺跡情報管理システムについて

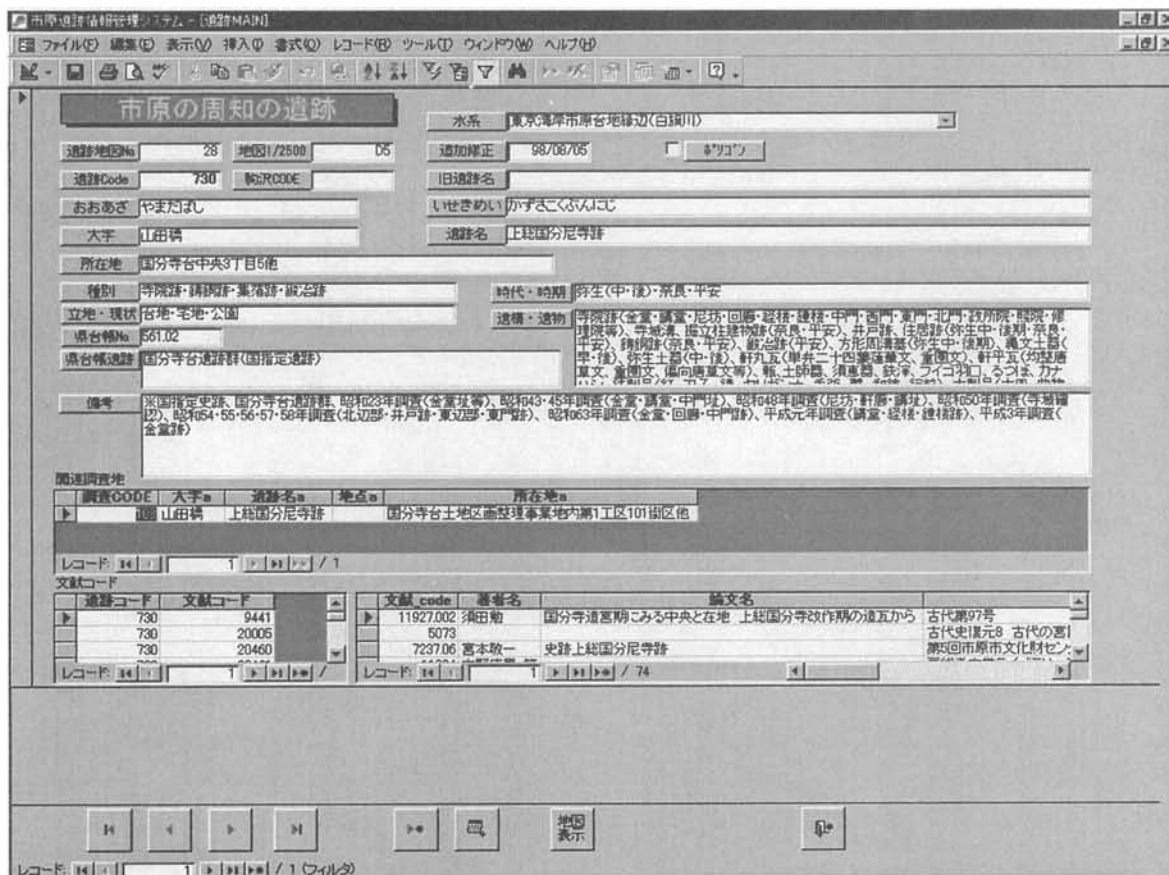
今年度は、データ入力中心の作業を行った。

まず、昭和62年に刊行された「千葉県埋蔵文化財分布地図(3)―市原・君津・長生地区―」の改訂作業を県教育委員会から依頼されたことを機に、すでに文字情報として入力されている内容について、現地踏査・発掘調査記録の資料を元に再検討した。このとき、出土遺物については、報告書に当たって、より詳細に記した。また、遺跡の所在する河川流域を、上・中・下流、左岸・右岸に分類し入力した。さらに、昭和62年以降新たに発見された遺跡の追加や、遺跡範囲の拡大・統合についても検討した結果、周知の遺跡は約1000個所増え、3121個所となった。

これらの作業と平行して、収蔵されている図書から、市内の各遺跡に関連する報告書と引用されている文献を拾い出して、論文単位で遺跡データとリンクさせる作業も行った(未入手のものもできる限り対象にした)。現在、約700冊・5000件の文献が結びつけられている。

図形情報の入力は、平成9年度に、所在する遺跡の約10%に当たる300個所について、外部委託で行ったのに引き続き、今年度はさらに500個所について、同様に追加した。これにより、全体の約26%に当たる800個所の入力が済んだことになる。

視察に訪れた機関 平成11年 2月 大阪府文化財調査研究センター



V 平成10年度 受贈図書一覧

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-----------------------------------|---------------------------|----------|
| それからの飛鳥 | 飛鳥資料館 | 19980420 |
| 市ヶ尾第二地区18街区(大場第二地区21街区)横穴墓群発掘調査報告 | 財横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター | " |
| 京都府遺跡調査概要第78冊 | 財京都府埋蔵文化財調査研究センター | 19980421 |
| 京都府遺跡調査概報第79冊 | 同上 | " |
| 平成9年度富津市内遺跡発掘調査報告書 | 富津市教育委員会 | " |
| 千葉県富津市萩ノ作遺跡発掘調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| 三川倉橋前遺跡 | 財東総文化財センター | " |
| 東金市内遺跡発掘調査報告書 | 東金市教育委員会 | " |
| 第3回特別展仏のすまう空間 | 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 | " |
| 石橋南遺跡 | 土浦市教育委員会 | " |
| 武蔵大学人文学会雑誌第29巻第3・4号 | 武蔵大学人文学会 | " |
| 東京都調布市埋蔵文化財年報平成3年度(1991) | 調布市教育委員会 | " |
| 東京都調布市埋蔵文化財年報平成5年度(1993) | 同上 | " |
| 調布市上石原遺跡第10、13地点の調査 | 同上 | " |
| 調布市下布田遺跡第26、32、33、35地点の調査 | 同上 | " |
| 寺山遺跡第2地点、上石原遺跡第16・17地点 | 同上 | " |
| 土井ヶ浜遺跡と弥生人 | 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム | " |
| 土井ヶ浜遺跡第13次発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 土井ヶ浜遺跡第15次発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 都とむらのくらし | 財千葉県文化財センター | 19980506 |
| 東京考古1 | 浅利幸一 | 19980522 |
| 東京考古3 | 同上 | " |
| 千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成9年度 | 八千代市教育委員会 | 19980529 |
| トール遺跡の発掘調査概報1996年度 | 蜂屋孝之 | " |
| 平成9年度流山市市内遺跡発掘調査報告書 | 流山市教育委員会 | " |
| 宮崎県埋蔵文化財センター年報創刊号平成8年度 | 宮崎県埋蔵文化財センター | " |
| 千葉県立房総風土記の丘年報20 | 千葉県立房総風土記の丘 | " |
| 千葉県重要古墳群測量調査報告書 | 千葉県教育委員会 | " |
| 高野山南遺跡・西大久保遺跡・西野場遺跡 | 我孫子市教育委員会 | " |
| チアミ遺跡 | 同上 | " |
| 郡山遺跡 | 仙台市教育委員会 | " |
| 郡山遺跡ⅩⅧ | 同上 | " |
| 仙台平野の遺跡群ⅩⅦ | 同上 | " |
| 一宮市博物館年報(5)平成7・8年度 | 一宮市博物館 | " |
| 筑波大学先史学・考古学研究第9号 | 筑波大学歴史・人類学系 | " |
| 下総国府台Ⅱ | 学校法人和洋学園 | " |
| 写真集「千葉天夢の写した世界」 | 千葉県立総南博物館 | " |
| 地蔵作遺跡発掘調査報告書 | 千葉市教育委員会 | " |
| 小中台(2)遺跡 | 同上 | " |
| 埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書平成9年度 | 同上 | " |
| 土浦市立博物館紀要第8号 | 土浦市立博物館 | " |
| 東京大学考古学研究室研究紀要第15号 | 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室 | 19980601 |
| 嶋上遺跡群22 | 高槻市立埋蔵文化財調査センター | " |
| 高槻市文化財年報平成8年度 | 同上 | " |
| 史館第30号 | 小橋健司 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-----------------------|--------------------------|----------|
| 二又遺跡・壑岩遺跡・ガラハギ遺跡 | 朝日村教育委員会 | 19980601 |
| 上向い遺跡・黒淵遺跡 | 同上 | 〃 |
| 国立歴史民俗博物館研究報告第76集 | 国立歴史民俗博物館 | 〃 |
| 島根大学構内遺跡第3次調査（深町地区1） | 島根大学埋蔵文化財調査研究センター | 〃 |
| 長岡京市埋蔵文化財センター年報平成8年度 | 長岡京市埋蔵文化財センター | 〃 |
| 平安京左京六条三坊七町 | 京都文化博物館 | 〃 |
| 貝塚博物館紀要第25号 | 千葉市立加曽利貝塚博物館 | 〃 |
| 平成8年度年報 | 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 | 〃 |
| 粟堀南B遺跡 | 東庄町教育委員会 | 〃 |
| 藤沢市文化財調査報告書第33集 | 藤沢市教育委員会 | 〃 |
| 落合橋南遺跡Ⅱ | （財）瀬戸市埋蔵文化財センター | 〃 |
| 八床9・10号窯跡 | 同上 | 〃 |
| 平成9年度印西市内遺跡発掘調査報告書 | 印西市教育委員会 | 〃 |
| 立善寺跡遺跡 | （財）徳島県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 長浜 いにしへ巡礼 | 安土城考古博物館 | 〃 |
| 平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書 | 船橋市教育委員会 | 〃 |
| 古代第104号 | 早稲田大学考古学会 | 〃 |
| 袋低地遺跡Ⅱ | 東京都北区教育委員会 | 〃 |
| 天満本願寺跡発掘調査報告Ⅲ | （財）大阪市文化財協会 | 〃 |
| 天満本願寺跡発掘調査報告Ⅳ | 同上 | 〃 |
| 長原・瓜破遺跡発掘調査報告ⅩⅠ | 同上 | 〃 |
| 長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅰ | 同上 | 〃 |
| 白老町虎杖浜遺跡群発掘調査概要報告書Ⅰ | 白老町教育委員会 | 〃 |
| 木之内明神貝塚の土器 | 南山大学人類学博物館 | 〃 |
| 梶原瓦窯跡発掘調査報告書 | 名神高速道路内遺跡調査会 | 〃 |
| 榛原町内遺跡発掘調査概要報告書1995年度 | 榛原町教育委員会 | 〃 |
| 南多摩窯跡群 | 八王子市教育委員会 | 〃 |
| キウス5遺跡における考古学的調査 | 千歳市教育委員会教育部埋蔵文化財センター | 〃 |
| MOUSEION43 | 立教大学 学校・社会教育講座 | 〃 |
| 岡山理科大学自然科学研究所研究報告第23号 | 岡山理科大学自然科学研究所 | 〃 |
| 福知山市文化財調査報告書第35集 | 福知山市教育委員会 | 〃 |
| 福知山市文化財調査報告書第36集 | 同上 | 〃 |
| 汐留遺跡 | （財）東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | 〃 |
| 尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅵ | 同上 | 〃 |
| 資料目録10 | 同上 | 〃 |
| 大道筋遺跡 | （財）東総文化財センター | 〃 |
| 寒風城跡 | 同上 | 〃 |
| 傍示戸遺跡・城ノ台遺跡・新城跡 | 同上 | 〃 |
| 長者台遺跡 | 八日市場市教育委員会 | 〃 |
| 平成9年度成田市内遺跡発掘調査報告書 | 成田市教育委員会 | 19980602 |
| 昌明寺遺跡 | えびの市教育委員会 | 〃 |
| 久保田城跡 | 秋田市教育委員会 | 〃 |
| 国府台8 | 和洋女子大学文化資料館 | 〃 |
| 平成9年度鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報 | 鎌ヶ谷市教育委員会 | 〃 |
| 千葉県中近世城跡研究調査報告書第18集 | 千葉県教育委員会 | 〃 |
| 東条地区遺跡群発掘調査概報 | 鴨川市教育委員会 | 〃 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------|------------------------|----------|
| 千葉県鴨川市茱萸ノ木田遺跡発掘調査報告書 | 鴨川市教育委員会 | 19980602 |
| 市原市西野遺跡第2次発掘調査報告書 | 勸千葉県文化財センター | " |
| 五村遺跡 | 小橋健司 | " |
| 有本遺跡 男戸嶋古墳 上遠戸嶋遺跡 | 津山市教育委員会 | " |
| 日上畷山古墳群 | 同上 | " |
| 年報津山弥生の里第5号(平成8年度) | 同上 | " |
| 千葉県野田市平成9年度野田市内遺跡発掘調査報告 | 野田市教育委員会 | " |
| 平成9年度芝山町内遺跡発掘調査報告書 | 芝山町教育委員会 | " |
| 房総文化第20号 | 和洋女子大学博物館学研究室 | " |
| 須多田古墳群 | 津屋崎町教育委員会 | " |
| 宿ノ後遺跡 | 柏市遺跡調査会 | " |
| 武蔵国府関連遺跡調査報告20 | 府中市教育委員会 | " |
| 佐原市内遺跡発掘調査概報平成8年度 | 佐原市教育委員会 | " |
| 平成8年度市内遺跡発掘調査報告書 | 柏市教育委員会 | " |
| 上品野蟹川遺跡 | 勸瀬戸市埋蔵文化財センター | " |
| 駒前第1号墳 | 同上 | " |
| 市内遺跡調査報告I | 同上 | " |
| 千葉県文化財センター年報No.22 | 勸千葉県文化財センター | " |
| 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区) | 勸新潟県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 萩清水遺跡・三本木新田B遺跡 | 同上 | " |
| 中ノ沢遺跡 | 同上 | " |
| 上郷遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 境大塚遺跡 | 中井町境大塚遺跡調査団 | " |
| 名古屋大学文学部研究論集131 | 名古屋大学文学部考古学研究室 | " |
| 平成9年度市原市内遺跡発掘調査報告 | 市原市教育委員会 | 19980611 |
| ノ沢団地遺跡(市立市沢小学校地区)発掘調査報告 | 横浜市歴史博物館 | " |
| 収蔵資料展Ⅱ | 同上 | " |
| 海からの江戸時代 | 同上 | " |
| 千葉県史研究第6号 | 勸千葉県史料研究財団 | 19980612 |
| 山武町内遺跡発掘調査報告書 | 山武町教育委員会 | " |
| 平成9年度四街道市内遺跡発掘調査報告書 | 四街道市教育委員会 | " |
| 京都府埋蔵文化財情報第67号 | 勸京都府埋蔵文化財調査研究センター | " |
| 平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告書 | 松戸市教育委員会 | " |
| 小野遺跡第12地点発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 八ヶ崎遺跡第5地点発掘調査報告書 | 松戸市遺跡調査会 | " |
| 池ノ台遺跡 | 同上 | " |
| 勸群馬県埋蔵文化財調査事業団年報16 | 勸群馬県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 研究紀要14 | 同上 | " |
| 矢田遺跡Ⅶ | 同上 | " |
| 田道町遺跡 | 石巻市教育委員会 | " |
| 陶磁器の文化史 | 国立歴史民俗博物館 | " |
| 尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅲ | 勸東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 史跡鉢形城跡保存整備基本計画・概要版 | 寄居町教育委員会 | " |
| 露梨子遺跡 | 同上 | " |
| 灰田原遺跡 | 同上 | " |
| 中小前田2遺跡 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------------------|-----------------------------|----------|
| 町内遺跡5 | 寄居町教育委員会 | 19980612 |
| 県指定天然記念物「ミミカキグサとモウセンゴケ自生地」保護増殖事業報告書 | 同上 | 〃 |
| 世田谷区史料叢書第十三巻 | 世田谷区立郷土資料館 | 〃 |
| 岡山市埋蔵文化財調査の概要1996（平成8）年度 | 岡山市教育委員会 | 〃 |
| 史跡保存整備事業史跡岡山城跡本丸中の段発掘調査報告 | 同上 | 〃 |
| 岡山城内堀 本丸西側内堀の構造調査・石関町内堀跡の発掘調査 | 同上 | 〃 |
| すくも山遺跡 | 同上 | 〃 |
| 造山第4号古墳 | 同上 | 〃 |
| 八幡沖遺跡 | 多賀城市埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 留ヶ谷遺跡 | 同上 | 〃 |
| 大日北遺跡 | 同上 | 〃 |
| 西沢遺跡 | 同上 | 〃 |
| 高崎遺跡 | 同上 | 〃 |
| 多賀城市埋蔵文化財調査センター年報平成8年度 | 同上 | 〃 |
| 嶋部・川田遺跡Ⅰ（第1分冊・第2分冊・第3分冊・付図） | （財）香川県埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 藤ヶ谷遺跡・大平台遺跡・中ノ台遺跡・馬場A遺跡 | （財）山武都市文化財センター | 〃 |
| 上吹入城跡 | 同上 | 〃 |
| 森台遺跡群（北野支群） | 同上 | 〃 |
| 大網山田台遺跡群Ⅳ（第1分冊・第2分冊） | 同上 | 〃 |
| 稲荷谷Ⅱ遺跡 | 同上 | 〃 |
| 鷲山入遺跡218-1地点 | 同上 | 〃 |
| 油井古塚原遺跡（丑子台1,028地点） | 同上 | 〃 |
| 大阪府立近つ飛鳥博物館館報3 | 大阪府立近つ飛鳥博物館 | 〃 |
| こふんなぜなにブック | 同上 | 〃 |
| 開館10周年記念特別展 | 大分市歴史資料館 | 〃 |
| 大分市歴史資料館年報1996 | 同上 | 〃 |
| 府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報Ⅳ | 同上 | 〃 |
| 能見堂遺跡 | （財）横浜市ふるさと歴史財団 | 〃 |
| 鍛冶山遺跡 | 同上 | 〃 |
| 聖武天皇と国分寺 | 関東古瓦研究会 | 19980618 |
| 躍動する造形 西群馬の縄文土器 | かみつけの里博物館 | 〃 |
| 発掘された日本列島'98新発見考古速報 | 近藤敏 | 〃 |
| 小島田八日市遺跡 | （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 多比良追部野遺跡第1分冊・第2分冊・第3分冊 | 同上 | 〃 |
| 筑井中屋敷遺跡 | 同上 | 〃 |
| 日本情報考古学会第1回（1995年度）大会発表要旨 | 小橋健司 | 〃 |
| 情報考古学Vol.1（1） | 同上 | 〃 |
| 情報考古学Vol.3 No.1 1997 | 同上 | 〃 |
| 福岡市埋蔵文化財センター年報第16号 | 福岡市埋蔵文化財センター | 〃 |
| 池子遺跡群Ⅴ | （財）かながわ考古学財団 | 19980619 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター年報16 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 東海大学校地内遺跡調査団報告8 | 東海大学校地内遺跡調査委員会・東海大学校地内遺跡調査団 | 〃 |
| 注口土器の美 | 東海大学校地内遺跡調査団 | 〃 |
| 平成8年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 | 佐倉市教育委員会 | 〃 |
| 梶原古墳群発掘調査報告書 | 名神高速道路内遺跡調査会 | 〃 |
| 高柳遺跡 本文・写真編 | 仙台市教育委員会 | 〃 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|------------------------------|----------------------------|----------|
| 四郎丸館跡 | 仙台市教育委員会 | 19980619 |
| 安久遺跡 | 同上 | " |
| 調査年報9 | (財)北海道埋蔵文化財センター | " |
| 美々・美沢 | 同上 | " |
| 滝里遺跡群Ⅶ 芦別市滝里9遺跡・滝里19遺跡 | 同上 | " |
| 七飯町鳴川右岸遺跡・桜町遺跡 | 同上 | " |
| 美沢川流域の遺跡群Ⅸ 美々4遺跡 第1分冊・第2分冊 | 同上 | " |
| 美沢川流域の遺跡群Ⅹ 第1分冊・第2分冊・付図 | 同上 | " |
| 千歳市キウス5遺跡 (3) | 同上 | " |
| キウス5遺跡 (4) B地区・C地区 | 同上 | " |
| 千歳市キウス7遺跡 (4) | 同上 | " |
| 恵庭市ルルマップ15遺跡 | 同上 | " |
| 千歳市キウス4遺跡 | 同上 | " |
| 古代寺院の成立と展開 日本古代国家の成立を探る・Ⅴ | 泉南市教育委員会 | 19980710 |
| 泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅳ | 同上 | " |
| 泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅴ | 同上 | " |
| 京都府遺跡調査報告書第24冊 | (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター | 19980717 |
| 京都府遺跡調査概報第80冊 | 同上 | " |
| 京都府遺跡調査概報第81冊 | 同上 | " |
| 美山町赤根遺跡 | 八王子市教育委員会 | " |
| 東大阪市所在 巨摩・若江北遺跡発掘調査報告書第5次 | (財)大阪府文化財調査研究センター | " |
| 木曾森野遺跡Ⅳ 旧石器・縄文時代編2 | 町田木曾森野地区遺跡調査会 | " |
| 木曾森野遺跡Ⅴ 旧石器・縄文・歴史時代編3 | 同上 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡 | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 藤原鎌足とその時代 | 鹿嶋市教育委員会・(財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 | " |
| 原山塚発掘調査報告書 | 鹿嶋市教育委員会 | " |
| 明地野館址遺跡 | 同上 | " |
| 文太長者屋敷跡調査報告書 | 同上 | " |
| 前野遺跡 (1次) 前野3号墳 (2次) 発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 堀ノ内遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 棚木遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 鹿島湖岸北部条里遺跡Ⅶ | 同上 | " |
| 鹿島町内遺跡発掘調査報告ⅩⅡ | 同上 | " |
| 鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅴ | 同上 | " |
| 鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告ⅩⅡ | 同上 | " |
| 国神古墳群隣地地区・春内遺跡 | 同上 | " |
| 大塚古墳周辺地区発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 鹿島町内遺跡発掘調査報告ⅩⅥ | 同上 | " |
| 片岡遺跡発掘調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| マツサキ遺跡 | 同上 | " |
| 鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告17 | 同上 | " |
| 大塚古墳周辺地区発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 片岡遺跡発掘調査報告書Ⅲ | 同上 | " |
| 国神古墳発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書18 | 同上 | " |
| 御園生遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|------------------|----------|
| 厨台No.3遺跡発掘調査報告書 | 鹿嶋市教育委員会 | 19980717 |
| 大杉沢遺跡 | 同上 | " |
| 群馬県立歴史博物館紀要第19号 | 群馬県立歴史博物館 | " |
| 八王子市滝山高燥遺跡 | 八王子市教育委員会 | " |
| 東京都八王子市尾崎遺跡 | 同上 | " |
| 長岡京跡右京第580次・今里遺跡発掘調査報告書 | (財)長岡京市埋蔵文化財センター | " |
| 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第39集 | 宇治市歴史資料館 | " |
| 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第41集 | 同上 | " |
| 袖ヶ浦市史研究第6号 | 袖ヶ浦市教育委員会 | " |
| 袖ヶ浦市史資料編2近世 | 同上 | " |
| 袖ヶ浦市史資料編3近現代 | 同上 | " |
| 長根安坪遺跡 本文編・写真図版編 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 天引狐崎遺跡Ⅱ A本文編・B写真図版編・C資料編 | 同上 | " |
| 神保植松遺跡 本文編Ⅰ・本文編Ⅱ・写真図版編・付図 | 同上 | " |
| 緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡 | 同上 | " |
| 矢田遺跡Ⅷ 中近世編(併古代以前非竪穴遺構) | 同上 | " |
| 白井遺跡群 古墳時代(白井二位屋遺跡・白井南中道遺跡・白井丸岩遺跡・白井北中道遺跡) | 同上 | " |
| 荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ 歴史時代後半期の調査(本文・図版編・遺物観察表編) | 同上 | " |
| 年報4 平成8年度 | (財)かながわ考古学財団 | 19980722 |
| かながわの考古学 | 同上 | " |
| 宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅠ | 同上 | " |
| 池子遺跡群 第1分冊・第2分冊・第3分冊 | 同上 | " |
| 大古里遺跡、井沼方遺跡、井沼方南遺跡 | 浦和市教育委員会 | " |
| 千葉県立総南博物館年報5 | 千葉県立総南博物館 | " |
| 館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書Ⅱ | 館山市教育委員会 | " |
| 千葉県指定有形文化財 絹本着色僧形八幡神像修理報告書 | 同上 | " |
| 立命館大学文学部学芸員課程研究報告第4冊 | 立命館大学文学部 | " |
| 久米田貝吹山古墳 第1～4次調査概報 | 同上 | " |
| 千葉県立中央博物館研究報告人文科学第5巻第2号 | 千葉県立中央博物館 | " |
| 港区文化財調査集録第4集 | 東京都港区教育委員会 | " |
| 旗本田中家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 名古屋市博物館研究紀要第21巻 | 名古屋市博物館 | " |
| 灰塚山古墳群発掘調査報告書 | 滋賀県教育委員会 | " |
| 松尾遺跡・浄土寺遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 田部古墳群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 今市遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 下五反田遺跡 | 同上 | " |
| 大戌亥遺跡Ⅱ・鴨田遺跡Ⅳ | 同上 | " |
| 粟津湖底遺跡第3貝塚 本文編・図版編・付表 | 同上 | " |
| 鴨田遺跡他・在土北遺跡 | 同上 | " |
| 中屋遺跡 | 同上 | " |
| 今川東遺跡 | 同上 | " |
| 北郷里小遺跡 上寺地遺跡 中町田遺跡 | 同上 | " |
| 南小足遺跡・鴨田遺跡 | 同上 | " |
| 北代遺跡 上出B遺跡 | 同上 | " |
| 堀南遺跡・神ノ木遺跡 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|---|-----------------------|----------|
| 木村古墳群 I | 滋賀県教育委員会 | 19980722 |
| 中兵庫遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 北郷里小遺跡 上寺地遺跡 | 同上 | " |
| 金剛寺遺跡・後川遺跡 | 同上 | " |
| 南小足遺跡 | 同上 | " |
| 中屋遺跡 | 同上 | " |
| 建部城遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 建部下野遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 中兵庫遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 中兵庫遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 槻ノ木 (1) 遺跡 | 青森県埋蔵文化財調査センター | " |
| 松山・羽黒平 (1) 遺跡 | 同上 | " |
| 津山遺跡 | 同上 | " |
| 平野・今須 (4) 遺跡 | 同上 | " |
| 岡町 (2) 遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 西張 (2) 遺跡 | 同上 | " |
| 野尻 (1) 遺跡 I | 同上 | " |
| 大和田遺跡・寺山 (3) 遺跡・平窪 (1) 遺跡・平窪 (2) 遺跡・伝法寺館跡 | 同上 | " |
| 幸畑 (4) 遺跡・幸畑 (1) 遺跡 | 同上 | " |
| 隈無 (1) 遺跡・隈無 (2) 遺跡・隈無 (6) 遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 小奥戸 (2) 遺跡・小奥戸 (4) 遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 長谷遺跡 | 同上 | " |
| 外馬屋前田 (1) 遺跡 | 同上 | " |
| 宮の前遺跡・螢池東遺跡・螢池遺跡・螢池西遺跡1992・1993年度発掘調査報告書 | 財大阪府文化財調査研究センター | " |
| 西大井遺跡 本文編・図版編・付図 | 同上 | " |
| 河内平野遺跡群の動態III 本文編・図版編・付図 | 同上 | " |
| 大阪文化財研究第12号 | 同上 | " |
| 地底の森ミュージアム平成10年度特別企画展 アクセサリーの考古学 | 財仙台市歴史文化事業団仙台市富沢遺跡保存館 | 19980805 |
| 千葉県地域史料現況調査報告書第4集鴨川市平野仁右衛門家文書 | 財千葉県史料研究財団 | " |
| 松戸市二ツ木向台貝塚資料調査報告書 | 同上 | " |
| 最新情報展 出土した古代の土器 展示レポート | 財群馬県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 縄文文化の十字路・群馬 土器文様の交流 | 同上 | " |
| 枚方市文化財年報19 | 財枚方市文化財研究調査会 | " |
| 千葉県文化財センター研究紀要18 | 財千葉県文化財センター | " |
| 千葉県文化財センター年報No.22 | 同上 | " |
| 研究連絡誌第49号 | 同上 | " |
| 研究連絡誌第50号 | 同上 | " |
| 研究連絡誌第51号 | 同上 | " |
| 研究連絡誌第52号 | 同上 | " |
| 流山市花山東遺跡 | 同上 | " |
| 千原台ニュータウン7-草刈1号墳一 | 同上 | " |
| 流山市若宮第II遺跡 | 同上 | " |
| 矢那川ダム埋蔵文化財調査報告書1 | 同上 | " |
| 一般国道296号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書3 | 同上 | " |
| 佐倉市弥勒東台遺跡 | 同上 | " |
| 県道山田台大綱白里線埋蔵文化財調査報告書1 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------|
| 東金市大関城跡 | 財千葉県文化財センター | 19980805 |
| 成田国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書1 | 同上 | 〃 |
| 主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書3 | 同上 | 〃 |
| 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X | 同上 | 〃 |
| 多古町一鉄田甚兵衛山遺跡 | 同上 | 〃 |
| 土木保守管理センター等埋蔵文化財調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 八日市場市借当川沼田泥炭遺跡 | 同上 | 〃 |
| 千葉市武石遺跡 | 同上 | 〃 |
| 村上遺跡群埋蔵文化財調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 君津市常代遺跡 | 同上 | 〃 |
| 袖ヶ浦市大塚台遺跡 | 同上 | 〃 |
| 佐倉市下勝田台畑遺跡 | 同上 | 〃 |
| 本埜村大門遺跡 | 同上 | 〃 |
| 浜寺元町遺跡 | 財大阪府文化財調査研究センター | 〃 |
| 大阪府文化財調査研究センター年報2 | 同上 | 〃 |
| 第37回大阪府埋蔵文化財研究会資料集 | 同上 | 〃 |
| 武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編(第1分冊・第2分冊) | 財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社・ひたちなか市教育委員会 | 〃 |
| 船窪 I | 財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 | 〃 |
| 四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書X II | 財愛媛県埋蔵文化財調査センター | 19980806 |
| 登畑遺跡 | 同上 | 〃 |
| 小淵山下北遺跡2次 | 春日部市遺跡調査会 | 〃 |
| 市内遺跡調査 I 平成8・9年度所在確認調査 | 春日部市教育委員会 | 〃 |
| 木更津市内遺跡発掘調査報告書 | 木更津市教育委員会 | 〃 |
| 塚原22号墳・62号墳・塚原遺跡(22号墳墳丘下区域) | 同上 | 〃 |
| 桜井市内埋蔵文化財1992年度発掘調査報告書2 | 桜井市立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 桜井市内埋蔵文化財1993年度発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 桜井市大福遺跡調査報告大福小学校第三・四次発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 桜井市平成7年度国庫補助による発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 平成7年度滋賀県埋蔵文化財調査年報 | 滋賀県教育委員会 | 〃 |
| 平成8年度滋賀県埋蔵文化財調査年報 | 同上 | 〃 |
| 国立歴史民俗博物館研究年報5(1996年度) | 国立歴史民俗博物館 | 〃 |
| 更埴糸里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) 弥生・古墳時代編 | 財長野県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 浜松市博物館館報X | 浜松市博物館 | 〃 |
| 千人塚古墳, 千人塚平・宇藤坂古墳群 | 同上 | 〃 |
| 文字の文化史 | 同上 | 〃 |
| 古慈喜城跡発掘調査報告書 | 財東広島市教育文化振興事業団 | 〃 |
| 下上戸遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 後迫1号遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 小越遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 上溝上3号遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書14 中野市内その3・豊田村内 | 財長野県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2 上田市内・坂城町内 | 同上 | 〃 |
| 北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書3 更埴市内 | 同上 | 〃 |
| 清水製鉄遺跡・大穴遺跡 | 同上 | 〃 |
| 北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書1 | 同上 | 〃 |
| 北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書4 長野市内その1 | 同上 | 〃 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|--------------------------|----------|
| 北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書5 長野市内その2 | (財)長野県埋蔵文化財センター | 19980806 |
| 平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要 | (財)京都市埋蔵文化財研究所 | " |
| 研究紀要第4号 | 同上 | " |
| 農耕開始期の石器組成3 北海道・東北・関東 | 国立歴史民俗博物館 | " |
| 農耕開始期の石器組成4 中部・近畿(三重・滋賀・京都・奈良・和歌山) | 同上 | " |
| 国立歴史民俗博物館研究報告第75集 | 同上 | 19980812 |
| 二之宮宮下東遺跡 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 下芝五反田遺跡 古墳時代編 | 同上 | " |
| 芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡・餅井貝戸遺跡・西下井出遺跡 | 同上 | " |
| 東町関下遺跡 | 同上 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡№72・795・796遺跡(1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・付図) | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 取手市都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ | (財)茨城県教育財団 | " |
| 主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| 主要地方道取手東線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 | 同上 | " |
| 一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書 | 同上 | " |
| 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3(上巻・下巻) | 同上 | " |
| 一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ(上巻・下巻) | 同上 | " |
| 茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書(上巻・下巻) | 同上 | " |
| 北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ | 同上 | " |
| 主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 | 同上 | " |
| (仮称)菅丸地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| (仮称)島名・福田町地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ(上巻・中巻・下巻) | 同上 | " |
| (仮称)葛城地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| 北関東自動車道(友部～水戸)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ | 同上 | " |
| 北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| 阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 函館市中野B遺跡(Ⅲ) 第1分冊・第2分冊・第3分冊 | (財)北海道埋蔵文化財センター | " |
| 調査年報10平成9年度 | 同上 | " |
| 江戸駿河台の旗本屋敷跡 | 明治大学考古学博物館 | " |
| いわき市教育文化事業団年報8 | (財)いわき市教育文化事業団 | " |
| いわき市教育文化事業団研究紀要9 | 同上 | " |
| 根岸遺跡 | 同上 | " |
| 上ノ内遺跡・湯長谷館跡 | 同上 | " |
| 折返A遺跡 | 同上 | " |
| 赤野井湾遺跡 第1・2・3・4・5・6分冊 | 滋賀県教育委員会 | " |
| 蛙股遺跡 | 高松市教育委員会 | " |
| 居石遺跡 | 同上 | " |
| 泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | " |
| 白井坂Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 下尿前Ⅱ遺跡 | 同上 | " |
| 上甲子遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 松本館跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 板倉遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 和当地Ⅰ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 田代遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 権の木遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|---|---------------------|----------|
| 市場遺跡・市杵島神社古墓群・牟呂王塚古墳 | 豊橋市教育委員会 | 19980813 |
| 磯辺王塚古墳 | 同上 | " |
| 水神貝塚(第2貝塚) | 同上 | " |
| 市道遺跡(Ⅲ) | 同上 | " |
| 築根遺跡・大海津遺跡(Ⅰ) | 同上 | " |
| 小屋敷遺跡 | 長坂町教育委員会 | " |
| 別当西遺跡 | 同上 | " |
| 坪松B・引谷ヶ谷戸・俣上・天王沢 | あきる野市秋川南岸道路関連遺跡調査会 | " |
| 寺原遺跡発掘調査報告書 | 津久井町教育委員会 | " |
| 川原川右岸地区遺跡群 | 前原市教育委員会 | " |
| 荻浦 古墳編 | 同上 | " |
| 平原周辺遺跡(6) | 同上 | " |
| 平原周辺遺跡(7) | 同上 | " |
| 三雲・井原遺跡群調査概要(1) | 同上 | " |
| 三雲・井原遺跡群Ⅰ | 同上 | " |
| 西堂・井原の文化財1 | 同上 | " |
| 西堂・井原の文化財2 | 同上 | " |
| 上罐子遺跡 | 同上 | " |
| 東福寺遺跡 本文・別冊(肥前國長嶋莊領関係史料集) | 佐賀県教育委員会 | 19980814 |
| 吉岡遺跡群の発掘成果から | (財)かながわ考古学財団 | " |
| 吉岡遺跡群Ⅲ | 同上 | " |
| 吉岡遺跡群Ⅳ 旧石器時代2 縄文時代1 | 同上 | " |
| 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15(第1分冊・第2分冊・第3分冊) 長野市内その3 | (財)長野県埋蔵文化財センター | " |
| 大橋遺跡(上巻・下巻・付図) | 目黒区大橋遺跡調査会 | " |
| 京都府遺跡調査概報第82冊 | (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター | " |
| 京都府遺跡調査概報第83冊 | 同上 | " |
| 浅川扇状地遺跡群三輪遺跡(5)・小島柳原遺跡群上中島遺跡 | 長野市教育委員会 | " |
| 浅川扇状地遺跡群二ツ宮遺跡(2)・浅川扇状地遺跡群吉田町東遺跡 | 同上 | " |
| 布施塚1号古墳・2号古墳 | 同上 | " |
| 柏尾南遺跡 | 同上 | " |
| 小島・柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 浅川扇状地遺跡群松ノ木田遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 大海津遺跡(Ⅱ) | 同上 | " |
| 若宮遺跡 | 同上 | " |
| 大西貝塚(Ⅲ) | 同上 | " |
| 市道遺跡(Ⅱ) | 同上 | " |
| 中村遺跡・作神遺跡 | 同上 | " |
| 久宝寺遺跡 | (財)八尾市文化財調査研究会 | " |
| 中田遺跡 | 同上 | " |
| 財団法人八尾市文化財調査研究会報告57 | 同上 | " |
| 財団法人八尾市文化財調査研究会報告58 | 同上 | " |
| 咳止橋遺跡 | 伊勢原市No.128遺跡調査団 | " |
| 郡山東部18 | 郡山市教育委員会 | " |
| 郡山東部19 | 同上 | " |
| 郡山東部20 | 同上 | " |
| 郡山東部21 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|---------------------------------|----------------|----------|
| 郡山東部22 | 郡山市教育委員会 | 19980814 |
| 安子島城跡 | 同上 | " |
| 正直B遺跡 | 同上 | " |
| 夢田遺跡(第4次)・山田C遺跡(第1次)・岩ヶ作遺跡(第2次) | 同上 | " |
| 下羽広遺跡 | 同上 | " |
| 清水内遺跡1・2・3区調査報告 | 同上 | " |
| 清水内遺跡4区調査報告 | 同上 | " |
| 阿良久遺跡1区調査報告 | 同上 | " |
| 阿良久遺跡 | 同上 | " |
| 音路瓦窯跡 | 同上 | " |
| 西原遺跡群大島地区調査報告 | 同上 | " |
| 大安場古墳群 | 同上 | " |
| 咲田遺跡 赤城地区第5次調査報告 | 同上 | " |
| 清水台遺跡 第18・19・20次調査報告 | 同上 | " |
| 鳴神・柿内戸遺跡 第3次調査報告 | 同上 | " |
| 郡山市埋蔵文化財分布調査報告3 | 同上 | " |
| 郡山市埋蔵文化財分布調査報告4 | 同上 | " |
| 八幡裏遺跡Ⅰ | 上田市教育委員会 | " |
| 市内遺跡Ⅳ | 同上 | " |
| 上田原遺跡・塚原古墳群・下之条条里水田遺跡 | 同上 | " |
| 藤之木遺跡 | 同上 | " |
| 大畑遺跡 | 同上 | " |
| 市内遺跡Ⅴ | 同上 | " |
| 史跡上田城跡 | 同上 | " |
| 八幡裏遺跡Ⅱ 本文編・図版編・写真図版編 | 同上 | " |
| 下町田遺跡 | 同上 | " |
| 古城遺跡 | 同上 | " |
| 金井裏遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 市内遺跡Ⅵ | 同上 | " |
| 浦田A・宮脇遺跡 | 同上 | " |
| 八幡裏遺跡Ⅲ | 同上 | " |
| 金鉾遺跡 | 同上 | " |
| 西之手遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 宮原遺跡緊急発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 平成9年度市内遺跡 | 同上 | " |
| 日本考古学協会 研究発表要旨 | 近藤敏 | 19980819 |
| 神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨 | 同上 | " |
| 遺跡発掘調査報告会発表要旨 | 同上 | " |
| 東京都遺跡調査・研究発表会発表要旨 | 同上 | " |
| 近江はトンボの宝庫 | 滋賀県立琵琶湖博物館 | 19980820 |
| 相模国府とその世界 | 田所真 | " |
| 研究紀要第3号 | 青森県埋蔵文化財調査センター | " |
| 見立山(1)遺跡・弥次郎窪遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 新町野遺跡・野木遺跡 | 同上 | " |
| 高屋敷館遺跡 | 同上 | " |
| 隠川(4)遺跡 隠川(12)遺跡Ⅰ 発掘調査報告書 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|---|--------------------------|----------|
| 水吉遺跡 | 青森県埋蔵文化財調査センター | 19980820 |
| 諏訪山・諏訪山北遺跡 | 栃木県教育委員会 | " |
| 寺野東遺跡Ⅴ(縄文時代・環状盛土遺構・水場の遺構 編Ⅰ、縄文時代・環状盛土遺構・水場の遺構 編Ⅱ) | 同上 | " |
| 寺野東遺跡Ⅵ (古墳時代集落編) | 同上 | " |
| 中林遺跡・鷺久根遺跡・西久保Ⅱ遺跡 | 同上 | " |
| 栃木県埋蔵文化財保護行政年報20 平成8年度(1996) | 同上 | " |
| 才田遺跡・東才田遺跡 | 福岡県教育委員会 | 19980821 |
| 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告49 | 同上 | " |
| 中妙見遺跡・原の東遺跡Ⅰ | 同上 | " |
| 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告51 | 同上 | " |
| 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告52 | 同上 | " |
| 上桑野遺跡・宇野代遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 大塚本遺跡 | 同上 | " |
| 郷ヶ原遺跡 | 同上 | " |
| 諸田仮塚遺跡 | 同上 | " |
| 以来尺遺跡Ⅱ(本文・付図) | 同上 | " |
| 鷹取五反田遺跡Ⅰ 稲崎A・B遺跡(上巻・下巻) | 同上 | " |
| 下高橋馬屋元遺跡(2) | 同上 | " |
| 下唐原宮園遺跡 | 同上 | " |
| 貝元遺跡Ⅰ | 同上 | " |
| 鈴ヶ山遺跡・広ミ遺跡 | 同上 | " |
| 穴田古墳群・覗山城跡 | 同上 | " |
| 福岡県埋蔵文化財発掘調査年報平成7年度 | 同上 | " |
| 山内清男考古資料9縄文後期加曽利B式・中国地方の陶棺・下総国分寺・尼寺資料 | 奈良国立文化財研究所 | 19980827 |
| 平成9年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報 | (財)瀬戸市埋蔵文化財センター | 19980828 |
| (財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第6輯 | 同上 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡 | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報12 | 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 | " |
| 太鼓塚遺跡発掘調査報告書(本文編・図版編) | 大津市教育委員会 | " |
| ふるさと資料天津小湊の歴史(上巻・下巻) | 天津小湊町 | " |
| ヌタブ遺跡・川向1遺跡 | 平取町教育委員会 | " |
| 二風谷3遺跡 | 同上 | " |
| 津田若宮遺跡発掘調査報告書 | ひたちなか市教育委員会 | " |
| 原の寺瓦窯跡発掘調査報告書第四次 | 同上 | " |
| 新平埜古墳発掘調査報告書 | 同上 | " |
| ひたちなか市中区古墳発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 平成9年度市内遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| ひたちなか市埋蔵文化財調査センター年報第3号 | 同上 | " |
| 國學院大學考古学資料館紀要第14輯 | 國學院大學考古学資料館 | " |
| 大阪市立博物館報No.37 | 大阪市立博物館 | " |
| 大原遺跡第3次発掘調査報告書 | 塩沢町教育委員会 | " |
| 原遺跡 | 同上 | " |
| 水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊 | (財)京都市埋蔵文化財研究所 | " |
| 横須賀市博物館報第44号 | 横須賀市自然博物館 横須賀市人文博物館 | " |
| 横須賀市博物館資料集第22号 | 同上 | " |
| 横須賀市博物館資料集第23号 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|--------------------------|----------|
| 横須賀市博物館研究報告(人文科学)第41号 | 横須賀市自然博物館 横須賀市人文博物館 | 19980828 |
| 横須賀市博物館研究報告(人文科学)第42号 | 同上 | " |
| 考古資料図録Ⅱ | 同上 | " |
| 考古資料図録Ⅲ | 同上 | " |
| 富沢・泉崎浦・山口遺跡(11) | 仙台市教育委員会 | " |
| 南小泉遺跡 | 同上 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡 | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 西屋敷遺跡 | (財)岐阜県文化財保護センター | " |
| 城ヶ谷7号墳・片山城跡 | 同上 | " |
| 長野県松本市境窪遺跡・川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ緊急発掘調査報告書 | 松本市教育委員会 | " |
| 長野県松本市今井北耕地Ⅱ緊急発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 松本城下町跡本町3・4次伊勢町14~17次試掘調査報告書 | 同上 | " |
| 向原遺跡緊急発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 長野県松本市蟻ヶ崎遺跡緊急発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 三好ヶ丘中央土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書 | 三好町教育委員会 | " |
| 南部畑総地内埋蔵文化財発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 房総の古墳を歩く | 芝山町教育委員会 | 19980831 |
| 宮ヶ久保遺跡 | 阿東町教育委員会 | " |
| 向日市埋蔵文化財調査報告書第46集 | (財)向日市埋蔵文化財センター | " |
| 史跡長岡宮大極殿跡 | 同上 | " |
| 久保遺跡発掘調査報告 | 馬込宿舎遺跡発掘調査団 | " |
| 相模の歴史 | 堺市博物館 | " |
| 大田区立郷土博物館紀要第8号1997年度 | 大田区立郷土博物館 | " |
| 特別展「製作工程の考古学」図録 | 同上 | " |
| 弥生時代の土笛づくり | (財)広島市文化財団 | " |
| 第20回文化財展「味な考古学」 | 同上 | " |
| 巢取遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 梨ヶ谷遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 栃木県立なす風土記の丘資料館年報第6号(平成9年度版) | 栃木県立なす風土記の丘資料館 | " |
| 特別史跡安土城跡発掘調査報告7 | 滋賀県教育委員会 | " |
| 特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書Ⅲ | 同上 | " |
| 特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書Ⅳ | 同上 | " |
| 滋賀県安土城郭調査研究所年報1995年度 | 同上 | " |
| 滋賀県安土城郭調査研究所年報1996年度 | 同上 | " |
| 多古町栗山川流域遺跡群・島八幡下遺跡・島ノ間遺跡 | 多古町教育委員会 | " |
| 中村日本寺の文化財 | 同上 | " |
| 東新山遺跡D地点 | 市川市教育委員会 | " |
| 史跡吉川氏城館跡 吉川元春館跡 | 広島県教育委員会 | " |
| 明治大学博物館研究報告第3号 | 明治大学博物館 | " |
| 財団法人山武郡市文化財センター年報No.13 | (財)山武郡市文化財センター | 19980907 |
| 千葉県八日市場市新城跡 | (財)東総文化財センター | " |
| 財団法人東総文化財センター年報3(平成7・8年度) | 同上 | " |
| 江戸の文人交友録 | 世田谷区立郷土資料館 | " |
| 埋蔵文化財発掘調査概報集6 和田山やぐら群(法福寺山門地点)吉井磯穴群 大町谷東遺跡 | 横須賀市教育委員会 | " |
| 米の台遺跡 | 同上 | " |
| 角田郡山遺跡Ⅵ | 角田市教育委員会 | " |
| 多摩蘭坂遺跡Ⅱ | 国分寺市教育委員会 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------------------|---------------------------|----------|
| 一本松遺跡展 | 鎌ヶ谷市郷土資料館 | 19980907 |
| 国立歴史民俗博物館研究報告第72集 | 国立歴史民俗博物館 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡No.27遺跡（Ⅰ・Ⅱ） | 財団法人東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 芝ヶ原古墳 | 城陽市教育委員会 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第21集（1991） | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第26集（1994） | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第28集（1995） | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第29集（1995） | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第30集 | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第32集 | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第33集 | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第34集 | 同上 | " |
| 城陽市埋蔵文化財調査報告書第35集 | 同上 | " |
| 愛知県埋蔵文化財情報13 | 財団法人愛知県埋蔵文化財センター | " |
| 財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報平成9年度 | 同上 | " |
| 根崎遺跡・寺ノ上遺跡 | 財団法人君津郡市文化財センター | " |
| 椿古墳群 | 同上 | " |
| 美生遺跡群Ⅳ第2地点 | 同上 | " |
| 姥田遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 君津郡市文化財センター年報No.14 | 同上 | " |
| 君津郡市文化財センター年報No.15 | 同上 | " |
| 君津郡市文化財センター研究紀要Ⅶ | 同上 | " |
| 京都市内遺跡発掘調査概報平成9年度 | 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 | " |
| 京都市内遺跡立会調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 京都市内遺跡試掘調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 大栄町内遺跡発掘調査報告書平成9年度(奈土貝塚遺跡・久井崎Ⅱ遺跡) | 大栄町教育委員会 | " |
| 大柿遺跡 | 三好町教育委員会 | " |
| 大知波峠廃寺跡 | 湖西市教育委員会 | " |
| 平成8年度財団法人向日市埋蔵文化財センター年報都城9 | 財団法人向日市埋蔵文化財センター | " |
| 鶏冠井遺跡 | 同上 | " |
| 県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 原中村遺跡 | 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター | " |
| 県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 旧練兵場遺跡 | 同上 | " |
| 国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 都市計画道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度 松並・中所遺跡 | 同上 | " |
| 高松港頭上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 空港跡地遺跡発掘調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成9年度 | 同上 | " |
| 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅵ | 同上 | " |
| 「遺跡・遺物から何を讀みとるか（Ⅰ）」資料集 | 帝京大学山梨文化財研究所 | " |
| 西田町遺跡調査報告書 | 財団法人山梨文化財研究所 | " |
| 南西田遺跡調査報告書 | 同上 | " |
| 文化財調査報告書 | 同上 | " |
| 塩川下河原堤防遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 湾戸7号墳 | 倉敷埋蔵文化財センター | " |
| 倉敷埋蔵文化財センター年報4 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------------|-------------------|----------|
| 四日市市文化財保護年報8平成8年度 | 四日市市教育委員会 | 19980907 |
| 一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ | 同上 | " |
| 公事出古墳群 公事出遺跡 | 同上 | " |
| 北中寺遺跡3 | 同上 | " |
| 財団法人東総文化財センター年報2(平成5・6年度) | 財東総文化財センター | " |
| 姥久保遺跡Ⅰ | 日野新町一丁目住宅遺跡調査会 | 19980908 |
| 高知県埋蔵文化財センター年報5 | 財高知県文化財団埋蔵文化財センター | " |
| 高知県埋蔵文化財センター年報6 | 同上 | " |
| 高知県埋蔵文化財センター年報第7号 | 同上 | " |
| 具同中山遺跡群Ⅰ(本文・付図) | 同上 | " |
| 具同中山遺跡群Ⅱ-1 | 同上 | " |
| 具同中山遺跡群Ⅳ | 同上 | " |
| 小竈遺跡Ⅲ | 同上 | " |
| 陣山遺跡、陣山北三区遺跡 | 同上 | " |
| 八田神母谷遺跡 | 同上 | " |
| 山田三ツ又遺跡 | 同上 | " |
| 飛田坂本遺跡 | 同上 | " |
| 南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 栄エ田遺跡 | 同上 | " |
| 尾立遺跡 | 同上 | " |
| 船戸遺跡 | 同上 | " |
| 介良遺跡 | 同上 | " |
| 新田町の遺跡 | 新田町教育委員会 | " |
| 平成7年度葛飾区埋蔵文化財調査年報 | 葛飾区教育委員会 | 19980916 |
| 平成8年度葛飾区埋蔵文化財調査年報 | 同上 | " |
| 本郷遺跡Ⅶ | 同上 | " |
| 柴又河川敷遺跡Ⅳ | 同上 | " |
| 上臼井日古古墳 | 福岡大学考古学研究室 | " |
| 国史跡五郎山古墳本文・付図 | 同上 | " |
| 西と東の縄文土器 | 北九州市立考古博物館 | 19980917 |
| 中荻野成井田遺跡 | 国道412号線遺跡発掘調査団 | " |
| 下荻野山中遺跡 | 同上 | " |
| 企画展地名・文字・記号 | 財印旛郡市文化財センター | " |
| 上土棚南遺跡第3次調査 | 綾瀬市教育委員会 | " |
| 社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報9平成9年度 | 財石川県埋蔵文化財センター | " |
| 18年のあゆみ | 同上 | " |
| 藤井サンジョガリ遺跡高島テラダ遺跡高島カンジダ遺跡 | 同上 | " |
| 荻市遺跡 | 同上 | " |
| 八幡遺跡Ⅰ | 同上 | " |
| 丹上遺跡(その9) 観音寺遺跡(その4) | 財大阪府文化財調査研究センター | " |
| 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅦ | 同上 | " |
| 史跡池上曾根96 | 同上 | " |
| 志紀遺跡(その4) | 同上 | " |
| 財大阪府文化財調査研究センター研究調査報告第1集 | 同上 | " |
| 大阪文化財研究第13号 | 同上 | " |
| 出雲神庭荒神谷遺跡第1冊・第2冊・第3冊(1・2)・第4冊 | 島根県教育庁文化課 | " |
| 大分県埋蔵文化財6平成8年(1996)年度版 | 大分県教育委員会 | 19980918 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--------------------------------|-------------------|----------|
| 一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(5) | 大分県教育委員会 | 19980918 |
| 日田市高瀬遺跡群の調査2 | 同上 | " |
| かわじ池遺跡 | 同上 | " |
| 佐寺原遺跡尾漕遺跡群有田塚ヶ原古墳群 | 同上 | " |
| 二本木遺跡 | 同上 | " |
| 大分の前方後円墳 | 同上 | " |
| 大阪市文化財協会研究紀要創刊号 | 勲大阪市文化財協会 | " |
| 南住吉遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 桑津遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 山之内遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 住友銅吹所跡発掘調査報告本文・図面・図版・付図 | 同上 | " |
| 関東学院大学小田原校地内遺跡立野遺跡・駒形遺跡発掘調査報告書 | 玉川文化財研究所 | " |
| 木曾森野南遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 津久井町No.62遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 下古沢駒飼遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 沢狭遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 財団法人山武都市文化財センター年報No.12 | 勲山武都市文化財センター | " |
| 八王子市埋蔵文化財年報平成9年度 | 八王子市教育委員会 | " |
| 八王子市宮の前遺跡 | 同上 | " |
| 平成9年度沼南町内遺跡発掘調査報告書 | 沼南町教育委員会 | " |
| 京都府埋蔵文化財情報第68号 | 勲京都府埋蔵文化財調査研究センター | " |
| 加茂野宮遺跡 | 三野町教育委員会 | " |
| 須衛天狗谷古墳群・天狗谷窯址群発掘調査報告書 | 各務原市埋蔵文化財調査センター | " |
| 年報17平成9年度 | 勲茨城県教育財団 | " |
| 研究ノート7号 | 同上 | " |
| 勝浦北部丘陵遺跡群 | 津屋崎町教育委員会 | " |
| 生家釘ヶ裏遺跡 | 同上 | " |
| 遺跡出土の動物遺存体に関する基礎的研究 | 山崎京美 | " |
| 館報第4号 | 近藤敏 | 19980929 |
| 広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅰ | 同上 | " |
| 広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅱ | 同上 | " |
| 広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅲ | 同上 | " |
| 松江考古第3号 | 同上 | " |
| 中田遺跡 | 同上 | " |
| 仲仙寺古墳群 | 同上 | " |
| 史跡仲仙寺古墳群 | 同上 | " |
| 遮光器復刻(創刊号~5号) | 同上 | " |
| 宗高尾城跡・丹渡尾城跡 | 六甲山麓遺跡調査会 | " |
| 玉里村権現山古墳発掘調査概報 | 玉里村立史料館 | " |
| 玉里村立史料館報第3号 | 同上 | " |
| 筑後国府跡第146次調査 | 久留米市教育委員会 | " |
| 久留米城下町京隈小路遺跡第2次調査 | 同上 | " |
| 旗原遺跡 | 同上 | " |
| 筑後国府跡第148次調査 | 同上 | " |
| 筑後国府跡第149次調査 | 同上 | " |
| 筑後国府跡第151次調査 | 同上 | " |
| 大善寺遺跡Ⅱ | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|-------------------------|----------|
| 鎌水古墳群第2次調査 | 久留米市教育委員会 | 19980929 |
| 筑後国府跡・国分寺跡 | 同上 | " |
| 平成9年度久留米市内遺跡群 | 同上 | " |
| 野津田上の原遺跡 | 野津田上の原遺跡調査会 | " |
| 東京都埋蔵文化財センター年報18 | 財東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 石籠第3遺跡-森末地区・操り地区-石籠3・9号墳寺戸第1遺跡寺戸第2遺跡石籠第1遺跡 | 財鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター | " |
| 小浜ワラ畑遺跡小浜小谷遺跡池ノ谷第2遺跡 | 同上 | " |
| 米子城跡21遺跡 | 同上 | " |
| 福成早里遺跡 | 同上 | " |
| 御内谷遺跡群 | 同上 | " |
| 金沢大学考古学紀要第24号 | 金沢大学文学部考古学研究室 | 19980930 |
| 事業報告Ⅶ平成8年度 | 財香取郡市文化財センター | 19981001 |
| 村田居山遺跡 | 同上 | " |
| 小見川城跡 | 同上 | " |
| 城山3号墳 | 同上 | " |
| 西大須賀コモ田古墳群 | 同上 | " |
| 中ノ台遺跡C地区 | 同上 | " |
| 向仲野遺跡 | 同上 | " |
| 松山市埋蔵文化財調査年報Ⅹ平成9年度 | 財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター | " |
| 大峰ヶ台遺跡Ⅱ本文・付図 | 同上 | " |
| 朝日谷2号墳本文・付図 | 同上 | " |
| 和気・堀江の遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 石井・浮穴の遺跡 | 同上 | " |
| 福音寺地区の遺跡Ⅱ | 同上 | " |
| 斎院・古照(遺物編・遺構編・図版編・付図) | 財愛媛県埋蔵文化財調査センター | " |
| 火内遺跡・臥間遺跡 | 同上 | " |
| 四村日本遺跡 | 同上 | " |
| 西野春日谷遺跡通谷池2号墳 | 同上 | " |
| 上野忍岡遺跡群 | 東京国立文化財研究所 | " |
| さんまい貝塚 | 豊橋市教育委員会 | " |
| 水神古窯灰原 | 同上 | " |
| 水神遺跡 | 同上 | " |
| 三田の文化財 | 三田市教育委員会 | 19981002 |
| 平成9年度さんのいせき37~42・企画展28~35 | 同上 | " |
| 足立区北部の遺跡群 | 足立区伊興遺跡調査会 | " |
| 清水・山城遺跡 | 妙見山麓遺跡調査会 | " |
| 灘・八幡遺跡 | 同上 | " |
| 小山市文化財保護調査年報3 | 小山市教育委員会 | " |
| 長野県埋蔵文化財センター紀要5 1996 | 財長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター | " |
| 長野県埋蔵文化財センター紀要6 1997 | 同上 | " |
| 長野県埋蔵文化財センター年報13 1996 | 同上 | " |
| 長野県埋蔵文化財センター年報14 1997 | 同上 | " |
| 埋文センターの16年間 | 同上 | " |
| H37遺跡栄町地点 | 札幌市市民局 | " |
| N30遺跡(本文・実測図編・図版編・付図) | 同上 | " |
| K39遺跡緑化地点 | 同上 | " |
| 物見処遺跡1998 | 國學院大學文学部考古学研究室 | 19981012 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|----------------------------------|-------------------------|----------|
| 第6回企画展図録ムラ・まつり・古墳 埋めて願う | 栃木県立なす風土記の丘資料館 | 19981012 |
| 日本考古学1997 | 八千代市歴史民俗資料館 | " |
| 古代第105号 | 明治大学考古学博物館友の会 | " |
| UTAMAKURA | 早稲田大学考古学会 | " |
| 研究紀要第1号 | 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 | " |
| 研究紀要第2号 | 千葉県立郷土博物館 | " |
| 研究紀要第3号 | 同上 | " |
| 館報平成8年3月 | 同上 | " |
| 館報平成9年3月 | 同上 | " |
| 館報平成10年3月 | 同上 | " |
| 財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター年報8平成9年度 | (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター | " |
| 長岡京市文化財調査報告書第38冊 | (財)長岡京市埋蔵文化財センター | " |
| 千葉県の歴史資料編考古3(奈良・平安時代) | 千葉県文書館 | " |
| 千葉県の歴史資料編中世1考古資料 | 同上 | " |
| 千葉県の歴史資料編近現代7(社会・教育・文化1) | 同上 | " |
| 篠籠田字篠塚495-6地先野馬除土手 | 柏市教育委員会 | " |
| 国府南部遺跡群発掘調査概報 | 群馬町教育委員会 | " |
| 国分境IV遺跡 | 同上 | " |
| 東国分中道南遺跡 | 同上 | " |
| 町内遺跡VI | 同上 | " |
| 府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報V | 大分市歴史資料館 | " |
| 府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報VI | 同上 | " |
| 平成9年度村内遺跡発掘調査報告書 | 豊富村教育委員会 | " |
| 横畑遺跡 | 同上 | " |
| 富沢・泉崎浦・山口遺跡(12) | 仙台市教育委員会 | " |
| 神明社窯跡ほか発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 平成9年度年報19 | 同上 | " |
| 袋尻遺跡群発掘調査報告書 | (財)松江市教育文化振興事業団 | " |
| 埋蔵文化財課年報II | 同上 | " |
| 神奈川県厚木市下依知寺ノ前遺跡 | 林原利明 | " |
| 神奈川県厚木市愛甲宮前遺跡第3地区 | 同上 | " |
| 神奈川県厚木市関口山ノ神戸遺跡 | 同上 | " |
| 神奈川県川崎麻生区市上麻生大ヶ谷戸遺跡 | 同上 | " |
| 杉崎廃寺跡発掘調査報告書 | 吉川町教育委員会 | " |
| 長岡京市文化財調査報告書第39冊 | (財)長岡京市埋蔵文化財センター | " |
| 石見国分寺跡第I期調査概報 | 浜田市教育委員会 | 19981013 |
| 下府廃寺跡 | 同上 | " |
| 横路遺跡(土器土地区) | 同上 | " |
| 横路遺跡(原井ヶ市地区) | 同上 | " |
| 資料館報No.29 | 埼玉県立さきたま資料館 | " |
| 調査研究報告第11号 | 同上 | " |
| 将軍山古墳 確認調査編・付編・保存・整備工事編 | 同上 | " |
| 一般国道(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書 | (財)長野県埋蔵文化財センター | " |
| 茂別遺跡 第1分冊・第2分冊・第3分冊 | (財)北海道埋蔵文化財センター | " |
| 紀要XVIII | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | " |
| 小幅遺跡第5次・第7次発掘調査報告書 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|--------------------------|----------|
| 沢田Ⅱ遺跡調査報告書 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 19981013 |
| 下尿前Ⅳ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 大鳥Ⅱ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 本内Ⅱ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 北野Ⅳ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 麦生Ⅸ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 本内遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 浜岩泉Ⅰ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 才津沢遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 唐戸崎・唐戸崎Ⅱ遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 小森林館跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 大宮北遺跡・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成9年度) | 同上 | " |
| いわき市教育文化事業団年報7平成7年度 | (財)いわき市教育文化事業団 | " |
| 上ノ原経塚 | 同上 | " |
| 文化財講座記録集5 | (財)八尾市文化財調査研究会 | " |
| 平成9年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告 | 同上 | " |
| 財団法人八尾市文化財調査研究会報告5 | 同上 | " |
| 財団法人八尾市文化財調査研究会報告60 | 同上 | " |
| 財団法人八尾市文化財調査研究会報告61 | 同上 | " |
| 下馬下遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書 | 小田原市教育委員会 | " |
| 平成7年度小田原市緊急調査報告書 | 同上 | " |
| 小田原城下欄干橋町遺跡第Ⅳ地点 | 同上 | " |
| 今井陣場跡・酒井陣場跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 千代南原遺跡第Ⅶ地点試掘調査報告書 | 同上 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡 No.245・341遺跡Ⅰ・No.245・341遺跡Ⅱ | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 白滝遺跡群を掘るⅠ | (財)北海道埋蔵文化財センター | " |
| 函館市西桔梗1遺跡(2) | 同上 | " |
| 滝里遺跡群ⅦⅧⅨ別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡(3) | 同上 | " |
| 千歳市キウス4遺跡(2) | 同上 | " |
| 千歳市キウス5遺跡(5) A-2地区 第1分冊・第2分冊・第3分冊 | 同上 | " |
| 千歳市キウス5遺跡(6) B地区・C地区 | 同上 | " |
| 千歳市キウス7遺跡(5) | 同上 | " |
| 千歳市ユカンボシC15遺跡(1) | 同上 | " |
| 恵庭市ユカンボシE10遺跡 | 同上 | " |
| 山ノ内道周辺遺跡発掘調査報告書 | 鎌倉市教育委員会 | " |
| 史跡建長寺境内発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 東勝寺跡 | 同上 | " |
| 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊・第2分冊) | 同上 | " |
| 浄土庭園と寺院 | 同上 | " |
| 亀ヶ谷坂周辺詳細分布調査報告書 | 同上 | " |
| 北出西井出Ⅱ・東下井出Ⅲ・村東Ⅱ・三ツ折街道Ⅰ・八幡街道・西原道南・深渡田橋栗跡・中里前遺跡 | 群馬町教育委員会 | " |
| 西国分六ツ割遺跡 | 同上 | " |
| 町内遺跡Ⅴ | 同上 | " |
| 大化の薄葬台 古墳のおわり | 大阪府立近つ飛鳥博物館 | 19981021 |
| 武蔵大学人文学会雑誌第30巻第1号 | 武蔵大学人文学会 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------------|-----------------|----------|
| 特別展芹沢?介作品展図録 | 大田区立郷土博物館 | 19981021 |
| 尼子南遺跡 | 滋賀県教育委員会 | " |
| 上寺地遺跡・北郷里小遺跡・法性寺遺跡・墓立遺跡 | 同上 | " |
| 金剛寺遺跡・川ノ口遺跡 | 同上 | " |
| 北代遺跡 | 同上 | " |
| 尼子西遺跡2 | 同上 | " |
| 松尾寺遺跡・浄土寺遺跡 | 同上 | " |
| 屋中寺廃寺遺跡 | 同上 | " |
| 草津市柳差遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 日置前遺跡 | 同上 | " |
| 出路遺跡・彦富城遺跡 | 同上 | " |
| 野洲川左岸遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 長畑遺跡 | 同上 | " |
| 法養寺遺跡・尼子南遺跡 | 同上 | " |
| 南小足遺跡・常昌寺遺跡・大塚遺跡 | 同上 | " |
| 桐生辻遺跡 | 同上 | " |
| 宮前遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 金森西遺跡 | 同上 | " |
| 千代田流通団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅱ) | 勸広島県埋蔵文化財調査センター | " |
| 山の神遺跡群・池ノ迫遺跡群 | 同上 | " |
| 研究輯録Ⅷ | 同上 | " |
| 北区史通史編原始古代 | 東京都北区役所 | " |
| 龍角寺五斗葺瓦窯跡 | 勸印旛郡市文化財センター | " |
| 曲輪ノ内遺跡(第二次)発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 本佐倉外宿遺跡 | 同上 | " |
| 石川館址発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 墨新山遺跡 | 同上 | " |
| 南羽鳥遺跡群Ⅱ | 同上 | " |
| 城次郎丸遺跡(第3次調査) | 同上 | " |
| 公津東遺跡群Ⅲ大袋腰巻遺跡(本文篇1・本文篇2・図版篇) | 同上 | " |
| 馬場扇作遺跡 | 同上 | " |
| 千代田流通団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅲ) | 勸広島県埋蔵文化財調査センター | " |
| 中屋遺跡B地点発掘調査報告Ⅰ | 同上 | " |
| 俵崎城跡 | 同上 | " |
| 浅谷山東B地点遺跡清水3号遺跡 | 同上 | " |
| 法成寺サコ遺跡・法成寺本谷古墳 | 同上 | " |
| 雨連古墳発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 東ノ木遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 住吉免・足谷 | 同上 | " |
| 一の谷第6・7号古墳 | 同上 | " |
| 寺之下遺跡 | 同上 | " |
| 大將軍遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 宮ヶ森第1～5号古墓 | 同上 | " |
| 原田遺跡 | 同上 | " |
| 下野谷遺跡Ⅰ縄文時代中期(1) | 早稲田大学文化財整理室 | " |
| 宇藤坂古墳群 | 勸浜松市文化協会 | 19981021 |
| 掘った見つけたみんなのふるさと 君津地方の弥生文化 | 勸君津郡市文化財センター | 19981022 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|------------------------|----------|
| 五社遺跡発掘調査報告第1分冊・第2分冊 | (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 | 19981022 |
| 埋蔵文化財年報(9) | 同上 | " |
| 埋蔵文化財調査概報平成9年度 | 同上 | " |
| 富山考古学研究紀要創刊号 | 同上 | " |
| 円通寺古墓・NA335号窯Ⅰ・Ⅱ | (財)愛知県埋蔵文化財センター | " |
| 東新規道遺跡 | 同上 | " |
| 東苅安賀道遺跡 | 同上 | " |
| 吉田城遺跡Ⅲ | 同上 | " |
| 一色青海遺跡(考古編・自然科学・考察編) | 同上 | " |
| 本柰遺跡発掘調査報告書 | 浦和市遺跡調査会 | " |
| 玄蕃新田本田遺跡(第3次)・鶴巻西遺跡(第1次)・大崎東新井遺跡(第1次)発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 本村遺跡発掘調査報告書(第XⅠ地点) | 同上 | " |
| 真鳥山城遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 下大久保新田遺跡発掘調査報告書(第2次) | 同上 | " |
| 大久保領家片町遺跡発掘調査報告書(第6地点) | 同上 | " |
| 松木遺跡発掘調査報告書(第19次) | 同上 | " |
| 櫛谷遺跡(第3次)・南方遺跡(第1次)発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 櫛谷遺跡(第4次)・南方遺跡(第2次)発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 本柰遺跡発掘調査報告書(第7地点) | 同上 | " |
| 井沼方遺跡発掘調査報告書(第16次) | 同上 | " |
| 大久保領家片町遺跡発掘調査報告書(第7地点) | 同上 | " |
| 中尾中丸遺跡発掘調査報告書(第2次) | 同上 | " |
| 山崎貝塚発掘調査報告書(第4次) | 同上 | " |
| 不動谷南遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 櫛谷遺跡発掘調査報告書(第6次) | 同上 | " |
| 櫛谷遺跡発掘調査報告書(第5次) | 同上 | " |
| 井沼方遺跡(第13・14・15次)・井沼方南遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 上木崎足立遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 別所遺跡発掘調査報告書(第3次) | 同上 | " |
| 日向北遺跡発掘調査報告書(第3次) | 同上 | " |
| 和田南遺跡 | 同上 | " |
| 道祖土後原遺跡発掘調査報告書(第2次) | 同上 | " |
| 北神馬土手遺跡他Ⅰ(遺構編本文・遺構編図版) | (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 | " |
| 川田・藤蔵淵遺跡 | 同上 | " |
| 北神馬土手遺跡他Ⅱ(遺物編) | 同上 | " |
| 葦山城跡・葦山城内遺跡 | 同上 | " |
| 小笠山総合運動公園内遺跡群 | 同上 | " |
| 中峯遺跡 | 同上 | " |
| 長平衡平遺跡 | 同上 | " |
| 徳倉B遺跡 | 同上 | " |
| 檜林A遺跡 | 同上 | " |
| 平田前田遺跡 | 同上 | " |
| 小池遺跡 | 同上 | " |
| 高見丘Ⅲ・Ⅳ遺跡 | 同上 | " |
| 静岡県埋蔵文化財調査研究所年報XⅣ(平成9年度事業概要) | 同上 | " |
| 千駄ヶ谷五丁目遺跡2次調査報告書 | 千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会 | " |
| 千葉県自然誌本編4千葉県の植物1 | 千葉県文書館 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--------------------------------------|------------------|----------|
| 富士見一丁目遺跡 | (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 | 19981022 |
| 中堀遺跡(第1分冊・第2分冊・第3分冊・第4分冊・第5分冊) | 同上 | " |
| 今井川越田遺跡Ⅲ(第1分冊・第2分冊) | 同上 | " |
| 今井条里遺跡 | 同上 | " |
| 地神ノ塔頭 | 同上 | " |
| 新屋敷遺跡D区(第1分冊・第2分冊・第3分冊) | 同上 | " |
| 北島遺跡Ⅳ(第1分冊・第2分冊) | 同上 | " |
| 末野遺跡Ⅰ | 同上 | " |
| 宿東遺跡(第1分冊・第2分冊) | 同上 | " |
| 砂田前遺跡 | 同上 | " |
| 築道下遺跡Ⅱ(第1分冊・第2分冊) | 同上 | " |
| 薬師堂根遺跡 | 同上 | " |
| 南久我原遺跡 | 同上 | " |
| 中台遺跡 | 同上 | " |
| 大杉遺跡 | 同上 | " |
| 耕地遺跡 | 同上 | " |
| 樋の上ノ皇山遺跡 | 同上 | " |
| 研究紀要第14号 | 同上 | " |
| 埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報18 | 同上 | " |
| 若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 | 鎌倉考古学研究所 | 19981027 |
| 横小路周辺遺跡二階堂字横小路110番3地点 | 同上 | " |
| 台山藤源治遺跡第2次調査報告 | 同上 | " |
| 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書(第1分冊・古代編) | 同上 | " |
| 若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 北条時房・顕時邸跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 長谷小路周辺遺跡由比ヶ浜三丁目228番2他地点 | 同上 | " |
| 長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 下馬周辺遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 根の山遺跡 | 青森県教育委員会 | 19981028 |
| 白砂・大沢遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 青森県遺跡詳細分布調査報告書X | 同上 | " |
| 十三湊遺跡Ⅲ | 同上 | " |
| 青森県遺跡地図 | 同上 | " |
| 埋蔵文化財調査室年報14平成8年度 | (財)北九州市教育文化事業団 | " |
| 研究紀要第12号 | 同上 | " |
| 小倉城跡2(第1分冊本文編・第2分冊遺構編・第3分冊遺物編・遺構編付図) | 同上 | " |
| 大島遺跡 | 同上 | " |
| 金丸遺跡2 | 同上 | " |
| 塚町遺跡2 | 同上 | " |
| 金山遺跡O・Ⅳ区 | 同上 | " |
| 徳力土地区画整理事業関係調査報告11 | 同上 | " |
| 潤崎遺跡6(第8地点) | 同上 | " |
| 金田遺跡 | 同上 | " |
| 永犬丸遺跡群2(八反田遺跡・松本遺跡・永犬丸遺跡) | 同上 | " |
| 峠遺跡 | 同上 | " |
| 森山西遺跡Ⅲ区 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--------------------------------|------------------------|----------|
| 乙丸宮ノ下遺跡 | 財北九州市教育文化事業団 | 19981028 |
| 上貫遺跡(C)1 | 同上 | " |
| 上貫遺跡(C)2 2区 | 同上 | " |
| 小倉城下屋敷跡 | 同上 | " |
| 特別展図録女性はにわ~その装いとしぐさ | 埼玉県立博物館 | " |
| 第22回特別展図録ブリキのおもちゃ | 大宮市立博物館・大宮市立漫画会館 | " |
| 財団法人千葉市文化財調査協会年報8平成6年度 | 財千葉市文化財調査協会 | " |
| 財団法人千葉市文化財調査協会年報9平成7年度 | 同上 | " |
| 財団法人千葉市文化財調査協会年報10平成8年度 | 同上 | " |
| 千葉市新田遺跡 | 同上 | " |
| 千葉市仁戸名遺跡 | 同上 | " |
| 直道遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅰ | 同上 | " |
| 土気南遺跡群Ⅶ | 同上 | " |
| 土気南遺跡群Ⅴ | 同上 | " |
| 千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅱ | 同上 | " |
| 千葉市染谷津遺跡・大森第1遺跡 | 同上 | " |
| 千葉市芳賀輪遺跡 | 同上 | " |
| 千葉市園生貝塚 | 同上 | " |
| 千葉市海老遺跡 | 同上 | " |
| 千葉市小中台A遺跡・牛尾舩遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅲ | 同上 | " |
| 千葉市高品城跡Ⅰ | 同上 | " |
| 日本の三彩と緑釉 天平に咲いた華 | 財五島美術館 | " |
| 紀要第10号 | 財滋賀県文化財保護協会 | " |
| 紀要第11号 | 同上 | " |
| レトロ・レトロの展覧会 | 同上 | " |
| 美沢東遺跡群(本文・図版編) | 苫小牧市埋蔵文化財調査センター | " |
| 西田遺跡(本文編・図版編・土器・石器観察表編) | 財岐阜県文化財保護センター | " |
| 土浦城二の丸・本丸試掘調査発掘調査報告書 | 土浦市教育委員会 | " |
| 上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第3号1996(平成8年度) | 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 | " |
| 上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第4号1997(平成9年度) | 同上 | " |
| 柏原27・ニナルカ・静川5・6遺跡 | 苫小牧市埋蔵文化財調査センター | " |
| 狐原遺跡 | 山梨県埋蔵文化財センター | " |
| 音羽遺跡 | 同上 | " |
| 酒呑場遺跡(第1・2次)遺構編 | 同上 | " |
| 年報14 | 同上 | " |
| 研究紀要14 | 同上 | " |
| 山梨県指定史跡甲府城跡Ⅴ | 同上 | " |
| 三ヶ所遺跡調査報告書 | 同上 | " |
| 新居道下遺跡 | 同上 | " |
| 鯉沢河岸跡 | 同上 | " |
| 八田畑遺跡 | 同上 | " |
| 多摩ニュータウン遺跡 | 財東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 笹山遺跡発掘調査報告書 | 十日町市教育委員会 | " |
| 日倉円勝寺太子堂解体報告書 | 富里町教育委員会 | " |
| 八千代市の歴史資料編自然Ⅱ | 八千代市 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|---|---------------------------|----------|
| 桜井古墳保存整備計画書 | 原町市教育委員会 | 19981028 |
| 広木野遺跡・神殿遺跡A地区 | 宮崎県埋蔵文化財センター | " |
| 尾平・楢原遺跡 楢原遺跡 | 同上 | " |
| 前田遺跡 | 同上 | " |
| 市位遺跡 | 同上 | " |
| 荒迫遺跡 | 同上 | " |
| 平成9年度東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ | 同上 | " |
| 平成9年度年報 | 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 | " |
| 長津田遺跡群Ⅲ | (財)かながわ考古学財団 | " |
| 宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅡ | 同上 | " |
| 宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅣ | 同上 | " |
| 研究紀要3かながわの考古学 | 同上 | " |
| 先人たちの軌跡 | 同上 | " |
| 公開セミナー記録集「用田バイパス関連遺跡群ローム層中出土の炭化材」「旧石器時代の住居遺構を探る」 | 同上 | " |
| 神奈川県遺跡範囲確認調査報告2 | 神奈川県教育委員会 | " |
| 千葉県習志野市埋蔵文化財分布地図(改訂版) | 習志野市教育委員会 | 19981029 |
| 本大久保5丁目遺跡 | 同上 | " |
| 東向遺跡 (No.33) | (財)かながわ考古学財団 | " |
| 不弓引遺跡鶴巻大橋遺跡鶴巻上ノ窪遺跡北矢名南蛇久保遺跡北矢名矢野遺跡 | 同上 | " |
| 舞臺原遺跡第3地点 (No.1) 第4地点 (No.2) 第5地点 (No.4) 高森一ノ橋遺跡 (No.37) 高森・窪谷遺跡 (No.3) 第1分冊・第2分冊 | 同上 | " |
| 東富岡・杉戸遺跡 (No.38) 東富岡・北三間遺跡 (No.4) 上柳屋・川上遺跡 (No.5・6) 上柳屋・三本松遺跡 (No.7) 上柳屋・川上戸 | 同上 | " |
| 下大槻峯遺跡 (No.30)Ⅱ 本文編・遺物観察表・写真図版編 | 同上 | " |
| 平成9年度かながわ考古学財団遺跡調査成果発表会公開セミナー古代の大型建物跡発表要旨 役所が塚宅か | 同上 | " |
| 旧得法寺跡 | (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 屋敷田Ⅲ遺跡 | 同上 | " |
| 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成9年度 | 同上 | " |
| 企画展展示図録旅は世につれ | 千葉県立総南博物館 | 19981111 |
| 京都府埋蔵文化財情報第69号 | (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター | " |
| 第16回小さな展覧会 | 同上 | " |
| 相ノ原遺跡第Ⅴ地点第4次調査 | 大和市教育委員会 | " |
| 下鶴間城山 | 同上 | " |
| 田代遺跡 | 寄居町教育委員会 | " |
| むじな塚遺跡 (5次) | 同上 | " |
| 用土北沢遺跡 (2次) 用土台遺跡用土柿林遺跡 | 同上 | " |
| 町内遺跡6 | 同上 | " |
| 歴史散歩「上総国分寺とその周辺」 | 市原市地方史研究連絡協議会 | " |
| 伊都国発掘'98秋季企画展王がいた証 | 伊都歴史資料館 | " |
| 埼玉県立埋蔵文化財センター年報8平成9年度 | 埼玉県立埋蔵文化財センター | " |
| 小野 | 松戸市遺跡調査会 | " |
| 岐阜県各務原市遺跡詳細分布調査報告書 | 各務原市教育委員会 | " |
| 岐阜県各務原市遺跡地図 | 同上 | " |
| 柳坪南遺跡境原遺跡 | 長坂町教育委員会 | " |
| 小屋敷遺跡 (C区東) 写真図版編 | 同上 | " |
| 埋蔵文化財調査報告13平成9年度 (1997年度) | 練馬区教育委員会 | " |
| 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5長野市内その3 | (財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター | " |
| 多摩ニュータウン遺跡 | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | 19981112 |
| 総南文化財センター年報No.10平成7年度・8年度 | (財)総南文化財センター | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|---------------------------|------------------------|----------|
| 千葉県館山市九ノ坪横穴墓群 | （勲）総南文化財センター | 19981112 |
| 千葉県長生郡長南町久原B横穴墓 | 同上 | 〃 |
| 千葉県長生郡長柄町下手Ⅱ遺跡 | 同上 | 〃 |
| 千葉県夷隅郡大原町小箱台遺跡・畑合遺跡確認調査概報 | 同上 | 〃 |
| 北海道釧路市東釧路第3遺跡 | 釧路市埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 釧路市幣舞遺跡調査報告書Ⅲ | 同上 | 〃 |
| 釧路市鶴ヶ岱4遺跡 | 同上 | 〃 |
| 釧路市武佐川1遺跡調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 塚遺跡 | （勲）岐阜県文化財保護センター | 〃 |
| 今宿遺跡（第1分冊・第2分冊・付図） | 同上 | 〃 |
| 高見遺跡 | 同上 | 〃 |
| 阿多粕遺跡 | 同上 | 〃 |
| 湯屋遺跡 | 同上 | 〃 |
| 沖田遺跡 | 同上 | 〃 |
| たのもと遺跡 | 同上 | 〃 |
| 関川谷内遺跡Ⅰ | （勲）新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 19981116 |
| 研究紀要第2号1998 | 同上 | 〃 |
| 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター年報第8号 | （勲）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 〃 |
| 叶堂城跡 | 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 | 19981117 |
| 伊丹郷町発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅲ | 同上 | 〃 |
| 岩井城跡 | 同上 | 〃 |
| 与呂木遺跡 | 同上 | 〃 |
| 玉津田中遺跡第5分冊〔本文編・写真図版編・図版編〕 | 同上 | 〃 |
| 玉津田中遺跡第6分冊 | 同上 | 〃 |
| 東武庫遺跡 | 同上 | 〃 |
| 西ヶ原遺跡 | 同上 | 〃 |
| 飾東2号墳 | 同上 | 〃 |
| 奥遺跡宮ノ沢城跡淡河上中遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 田井野遺跡 | 同上 | 〃 |
| 下内膳遺跡 | 同上 | 〃 |
| 大釜瓦窯跡 | 同上 | 〃 |
| 小名田窯跡 | 同上 | 〃 |
| 塩壺西遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 小戸遺跡 | 同上 | 〃 |
| 有岡城跡・伊丹郷町Ⅱ | 同上 | 〃 |
| 田能高田遺跡 | 同上 | 〃 |
| 久野々遺跡 | 同上 | 〃 |
| 三条九ノ坪遺跡 | 同上 | 〃 |
| 音谷窯跡 | 同上 | 〃 |
| 山本北垣内遺跡 | 同上 | 〃 |
| 神出窯跡群 | 同上 | 〃 |
| 山宮遺跡 | 同上 | 〃 |
| 八多中遺跡・清水廻り遺跡 | 同上 | 〃 |
| まるやま遺跡 | 同上 | 〃 |
| 八反田遺跡 | 同上 | 〃 |
| 人類誌集報1998 | 東京都立大学考古学研究室 | 19981127 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|-------------------------|---------------------|----------|
| 明治大学考古学博物館友の会創立10周年記念文集 | 明治大学考古学博物館友の会 | 19981127 |
| 港郷土資料館館報16平成9年度版 | 東京都港区立港郷土資料館 | " |
| 挙母城跡 | 豊田市教育委員会 | " |
| 月見野遺跡群上野遺跡第11地点発掘調査報告書 | 玉川文化財研究所 | " |
| 県営羽沢東団地内遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 上今泉横穴墓群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 諏訪町A遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 塚場遺跡第2次発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 森上遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ地点発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 大宮の板石塔婆Ⅲ | 大宮市教育委員会 | " |
| 市内遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 峰岸北遺跡 | 大宮市遺跡調査会 | " |
| 八雲貝塚第2次調査 | 同上 | " |
| B-3号遺跡 | 同上 | " |
| A-61号遺跡第2次調査 | 同上 | " |
| 中川貝塚第3次調査 | 同上 | " |
| 大和田本村北遺跡第2次調査 | 同上 | " |
| 史叢第58号 | 日本大学史学会 | 19981130 |
| 史叢第59号 | 同上 | " |
| 大蔵司遺跡・真上遺跡発掘調査報告書 | 名神高速道路内遺跡調査会 | " |
| 土室古墳群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 秋田県埋蔵文化財センター年報16(平成9年度) | 秋田県埋蔵文化財センター | " |
| 秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第13号 | 同上 | " |
| 湯ノ沢遺跡 | 同上 | " |
| 虫内Ⅰ遺跡(本文編・図版・写真編・付図) | 同上 | " |
| 家の下遺跡(2) | 同上 | " |
| 寄騎館遺跡 | 同上 | " |
| 法泉坊沢Ⅱ遺跡 | 同上 | " |
| 石鳥谷館跡 | 同上 | " |
| 払田柵跡第110~112次調査概要 | 同上 | " |
| 遺跡詳細分布調査報告書 | 同上 | " |
| 日暮・松林遺跡(本文・付図) | 高松市教育委員会 | " |
| 境目・下西原遺跡(本文・付図) | 同上 | " |
| 竹之下遺跡(本文・付図) | 春日部市遺跡調査会 | 19981201 |
| 考古学からみた三重の木の文化 | 三重県埋蔵文化財センター | 19981222 |
| 六古窯の時代 | (財)瀬戸市埋蔵文化財センター | " |
| 総社市埋蔵文化財調査年報8 | 総社市教育委員会 | " |
| 明治大学博物館年報1997年 | 明治大学博物館 | " |
| 京都府遺跡調査概報第84冊 | (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター | 19981224 |
| 浜松市博物館報第11号 | 浜松市博物館 | " |
| 青山史学第十六号 | 青山学院大学文学部史学研究室 | " |
| 神奈川県埋蔵文化財調査報告40 | 神奈川県教育委員会 | " |
| 井戸山遺跡確認調査報告書 | 土浦市教育委員会 | " |
| 根鹿北遺跡・栗山窯跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 神明遺跡(第1次・第2次調査) | 同上 | " |
| 琵琶湖博物館研究調査報告9号 | 滋賀県立琵琶湖博物館 | " |
| 琵琶湖博物館研究調査報告10号 | 同上 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|------------------------|----------|
| 千葉県立現代産業科学館常設展示解説書 | 千葉県立現代産業科学館 | 19981224 |
| 大久保山VI | 早稲田大学本庄校地文化財調査室 | " |
| 土浦市立博物館紀要第7号 | 土浦市立博物館 | " |
| 西本6号遺跡(本文編・図版編) | 財広島県埋蔵文化財調査センター | " |
| 灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(II)(本文編・図版編) | 同上 | " |
| 灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(III) | 同上 | " |
| 由比が浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書(第一次調査)(第1分冊・第2分冊)(第二次調査) | 鎌倉考古学研究所 | " |
| 長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 永福寺跡 | 同上 | " |
| 多宝寺跡 | 同上 | " |
| 第2部発掘庭園一覧 | 奈良国立文化財研究所 | 19981225 |
| 奈良国立文化財研究所年報1998-I・II・III | 同上 | " |
| 龍川五条遺跡II・飯野東分山崎南遺跡(第1分冊・第2分冊) | 財香川県埋蔵文化財センター | " |
| 川津一ノ又遺跡II | 同上 | " |
| 空港跡地遺跡III | 同上 | " |
| 多田羅遺跡 | 栃木県教育委員会 | " |
| 金山遺跡VI | 同上 | " |
| 滝田本郷遺跡 | 同上 | " |
| 那須官衙関連遺跡V | 同上 | " |
| 下野国分寺跡VII遺物編 | 同上 | " |
| 寺野東遺跡VII(古墳時代墳墓編) | 同上 | " |
| 間々田地区遺跡群II | 同上 | " |
| 八木岡I遺跡 | 同上 | " |
| 鮎田橋北遺跡 | 同上 | " |
| 西山遺跡 | 同上 | " |
| 西統橋遺跡 | 同上 | " |
| 研究紀要第6号 | 同上 | " |
| 寺沢出戸遺跡 | 君津市教育委員会 | " |
| 富吉遺跡群確認調査報告書III | 同上 | " |
| 平成9年度千葉県君津市内遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 君津市内仏像彫刻所在調査報告書 | 同上 | " |
| 20年のあゆみ | 財群馬県埋蔵文化財調査事業団 | " |
| 南蛇井増光寺遺跡V(本文編・写真図版編・観察表編) | 同上 | " |
| 柴崎熊野前遺跡 | 同上 | " |
| 白井遺跡群中世・近世編(白井丸岩遺跡・白井北中道遺跡) | 同上 | " |
| 長野原久々戸遺跡(本文・付図) | 同上 | " |
| 古代学研究所研究紀要第7輯 | 財古代学協會 | 19990104 |
| 島屋敷遺跡 | 財東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | " |
| 古代シナノの武器と馬具 古墳時代の武人のすがた | 長野県立歴史館 | 19990129 |
| 特別展図録貝塚人の暮らす海 | 玉里村立史料館 | " |
| 耳原遺跡・五日市遺跡発掘調査報告書 | 名神高速道路内遺跡調査会 | " |
| 20年のあゆみ | 財枚方市文化財研究調査会 | " |
| 新版図録・枚方の遺跡 | 同上 | " |
| 継体大王と渡来人 | 同上 | " |
| 大崎台遺跡発掘調査報告IV | 佐倉市教育委員会 | " |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--------------------------------------|----------------------------|----------|
| 豊沢貝塚第2地点発掘調査報告書 | 豊沢貝塚遺跡調査会 | 19990129 |
| 胆沢城跡平成8年度発掘調査概報 | (財)水沢市文化振興財団水沢市埋蔵文化財調査センター | 19990201 |
| 水沢遺跡群範囲確認調査平成8年度発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 水沢遺跡群範囲確認調査平成9年度発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 杉の堂遺跡群 | 同上 | 〃 |
| 杉の堂遺跡 | 同上 | 〃 |
| 鹿野遺跡 | 同上 | 〃 |
| 千葉県君津市外箕輪遺跡Ⅱ | (財)君津郡市文化財センター | 〃 |
| 百々目木B・C・清水頭・清水沢遺跡 | 同上 | 〃 |
| 谷ノ台遺跡発掘調査報告書 | 同上 | 〃 |
| 常代遺跡Ⅱ | 同上 | 〃 |
| 山谷遺跡(2) | 同上 | 〃 |
| 上泉遺跡群上ノ山遺跡 | 同上 | 〃 |
| 京都府埋蔵文化財情報第70号 | (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター | 〃 |
| 平窪諸荷遺跡 | (財)いわき市教育文化事業団 | 〃 |
| いわき市教育文化事業団研究紀要第10号 | 同上 | 〃 |
| いわき市教育文化事業団年報9平成9年度 | 同上 | 〃 |
| 鷺ノ森遺跡第3次発掘調査概報 | 和歌山市教育委員会・財和歌山市文化体育振興事業団 | 〃 |
| 中野遺跡第2次発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 木ノ本Ⅲ遺跡第9次発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 友田町遺跡第2・3次発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 秋月遺跡第6次発掘調査概報 | 同上 | 〃 |
| 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報5平成7(1995)年度 | 同上 | 〃 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター年報17 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 池子遺跡群Ⅵ | (財)かながわ考古学財団 | 〃 |
| 年報5平成9年度 | 同上 | 〃 |
| 七社神社前遺跡Ⅱ | 東京都北区教育委員会 | 〃 |
| 泊桂木遺跡 | 伊都歴史資料館 | 19990202 |
| 川原川右岸地区遺跡群Ⅱ | 同上 | 〃 |
| 福岡県前原市市内遺跡等分布地図 | 同上 | 〃 |
| 研究連絡誌第53号 | (財)千葉県文化財センター | 〃 |
| 三吉野遺跡群1 | (財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | 〃 |
| 三吉野遺跡群2 | 同上 | 〃 |
| 万祝 | 千葉県立安房博物館 | 〃 |
| 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5 | (財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 神奈川県藤沢市No.393遺跡発掘調査報告書 | 東国歴史考古学研究所 | 〃 |
| 若尾山(藤沢市No.36)遺跡発掘調査報告書(本文編・考察・写真図版編) | 同上 | 〃 |
| 陶邑・大庭寺遺跡Ⅴ(本文編・図版編) | (財)大阪府文化財調査研究センター | 〃 |
| 下田遺跡(第1分冊・第2分冊・第3分冊・付図) | 同上 | 〃 |
| 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅨ | 同上 | 〃 |
| 河内平野遺跡群の動態Ⅳ(本文編・写真図版編・付図) | 同上 | 〃 |
| 雨間地区遺跡群 | 雨間地区遺跡調査会 | 〃 |
| 相ノ原・大貝中・川添東遺跡 | 仙台市教育委員会 | 〃 |
| 原遺跡 | 同上 | 〃 |
| 伊木力遺跡Ⅱ | 長崎県教育庁文化課 | 〃 |
| 稗田原遺跡Ⅰ | 同上 | 〃 |
| 広平遺跡 | 同上 | 〃 |

| 書名 | 寄贈者 | 受入日 |
|--|----------------------|----------|
| 石田城跡 | 長崎県教育庁文化課 | 19990202 |
| 山直中遺跡Ⅲ | 財大阪府文化財調査研究センター | " |
| 貝塚市東山丘陵遺跡群 | 同上 | " |
| 大陸文化へのまなざし発掘速報展大坂 | 同上 | " |
| 大阪府文化財調査研究センター年報平成9年度 | 同上 | " |
| 財団法人大阪文化財センター蔵図書目録 | 同上 | " |
| 大阪文化財論集 | 同上 | " |
| 先客万来のアイディア 広告と景品 | 浜松市博物館 | 19990215 |
| オオヤマトの古墳と王権 | 小橋健司 | " |
| 平成10年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨 | 千葉県文化財法人連絡協議会 | " |
| 千駄ヶ谷五丁目遺跡の諸問題 | 千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会 | " |
| 貴見寺東遺跡 | 浜松市博物館 | " |
| 九州歴史資料館年報平成9年度 | 九州歴史資料館 | " |
| 九州歴史資料館研究論集23 | 同上 | " |
| 大宰府復元 | 同上 | " |
| 寸嵐二号遺跡発掘調査報告書 | 玉川文化財研究所 | " |
| 溝野日影坂上遺跡発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 山王平遺跡発掘調査報告書縄文時代編 | 同上 | " |
| 多摩区No.61遺跡(宿河原縄文時代低地遺跡)発掘調査報告書 | 同上 | " |
| 大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書第6次～第8次調査(第1分冊・第2分冊・第3分冊) | 財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | " |
| 湯築城跡第1分冊(本文・観察表・図版・付図) | 財愛媛県埋蔵文化財調査センター | " |
| 中村分遺跡天台B遺跡台崎C遺跡 | 三島市教育委員会 | " |
| 三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ | 同上 | " |
| 三島市文化財年報第9号 | 同上 | " |
| 飯倉鈴歌遺跡発掘調査報告書 | 飯倉遺跡調査会 | " |
| 一ツ松遺跡 | 郡山市教育委員会 | " |
| 高倉栗遺跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 野中遺跡(第2次)・山田C遺跡(第2次)・仁戸内館跡発掘調査報告 | 同上 | " |
| 清水内遺跡5区調査報告 | 同上 | " |
| 大安場古墳群 | 同上 | " |
| 天神南遺跡 | 同上 | " |
| 山王林遺跡 | 同上 | " |
| 阿良久遺跡2区調査報告 | 同上 | " |
| 阿良久遺跡2.3区調査報告 | 同上 | " |
| 郡山館跡第1次遺構確認調査報告 | 同上 | " |
| 蒲倉古墳群 | 同上 | " |
| 蒲倉古墳群(測量調査・補足調査) | 同上 | " |
| 郡山市埋蔵文化財分布調査報告5 | 同上 | " |
| 荒井猫田遺跡第1次～第6次発掘調査報告(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区) | 同上 | " |
| 第4回市内遺跡発掘調査成果展阿尺歴史紀行 | 財郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 | " |
| 東京都八王子市No.120遺跡 | 八王子市No.120遺跡発掘調査団 | " |
| 東京都八王子市中郷遺跡 | 八王子市中郷遺跡発掘調査団 | " |
| 《シンポジウム》前方後円墳の築造企画発表要旨資料 | 車崎正彦 | 19990224 |
| 青森県立郷土館収蔵資料目録第4集考古編 | 青森県立郷土館 | 19990326 |
| 武蔵大学人文学会雑誌第30巻第2・3号 | 武蔵大学人文学会 | " |
| 宗形神社古墳 | 岡山市教育委員会 | 19990331 |

付編 1. 野毛上境町遺跡発掘調査報告

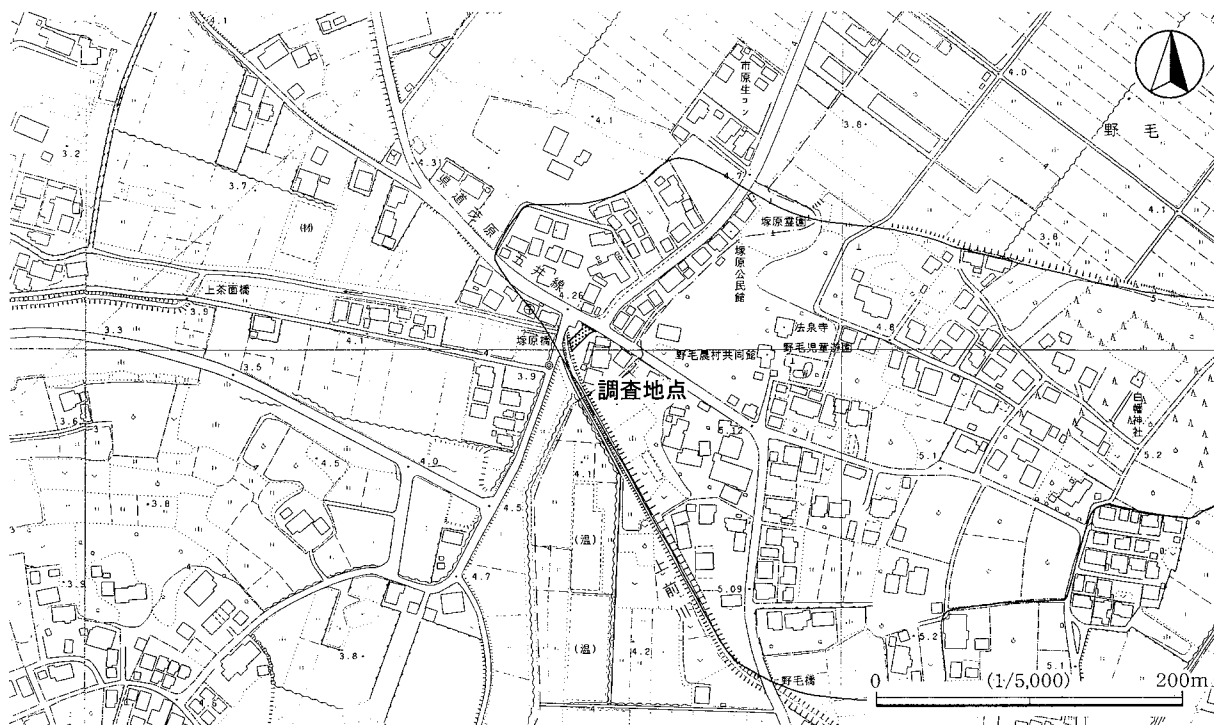
担当 小 川 浩 一

調査の概要 野毛上境町遺跡は市原市の北部に位置し、養老川下流域の標高4～5mを測る微高地上に立地する。養老川下流域には旧河道の痕跡が数多く認められ、遺跡南側には小河川の上前川が流れている。遺跡は古墳時代から平安時代の包蔵地として周知されており、今回の調査地点は遺跡範囲の西端付近にあたる。

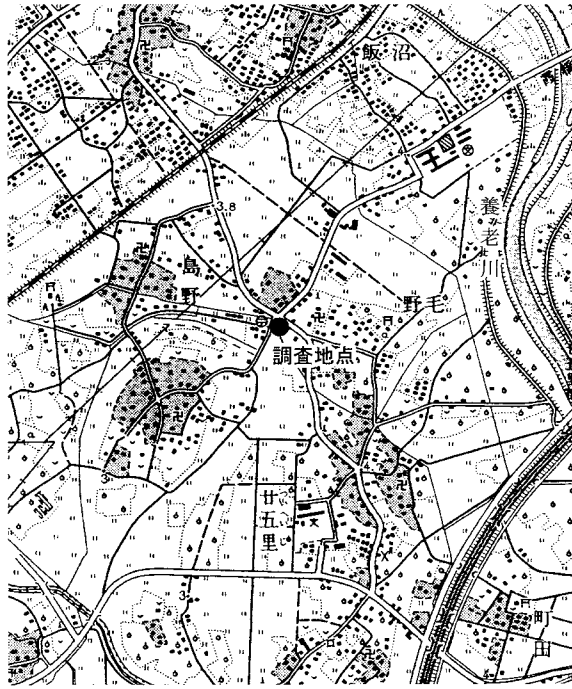
調査は市道2120号線（金川原）建設に伴うもので、調査対象範囲250㎡のうち10%にあたる25㎡について確認調査を実施した。調査にあたっては、排土および排水の処理の関係から、調査区のほぼ中央に3.5m×7m程度の確認トレンチを1ヶ所設定して行った。調査区における層序は図に示すとおりである。なお、10層以下の土層については図示していないが、トレンチ内を一部掘り下げたところ、木片をわずかに含む暗青灰色シルト質砂層、木片をわずかに含む暗青灰色砂層と堆積していることが明らかとなった。

検出された遺構 調査の結果、旧上前川の右岸にあたりと考えられる杭列2条を検出した。また、トレンチ内の土層断面観察から水田跡の床土層2面を検出し、当地において2時期にわたって水田耕作がなされたことが確認された。これらの遺構の時期については、明確な帰属時期を示す遺物を伴わないため不明であるが、周囲の状況からは、いずれも近世以降の可能性が高いものと考えられる。

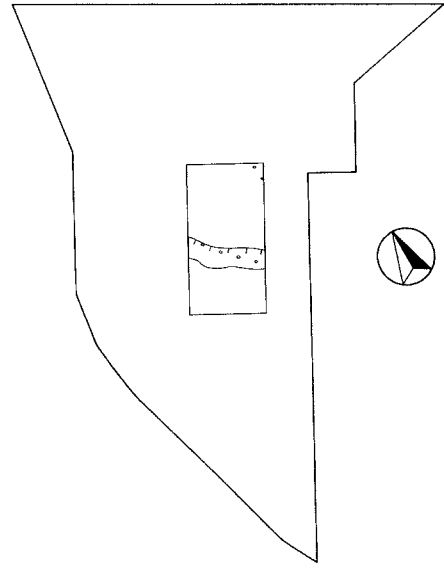
小結 今回の調査では、帰属時期が明確となる遺構を検出することはできなかったが、周辺地域における最初の調査事例であり、当低地の堆積土等の貴重なデータを得ることができた。今後、周辺の調査が進めば、当低地周辺の全体像がより明らかになるものと考えられる。



野毛上境町遺跡周辺地形図

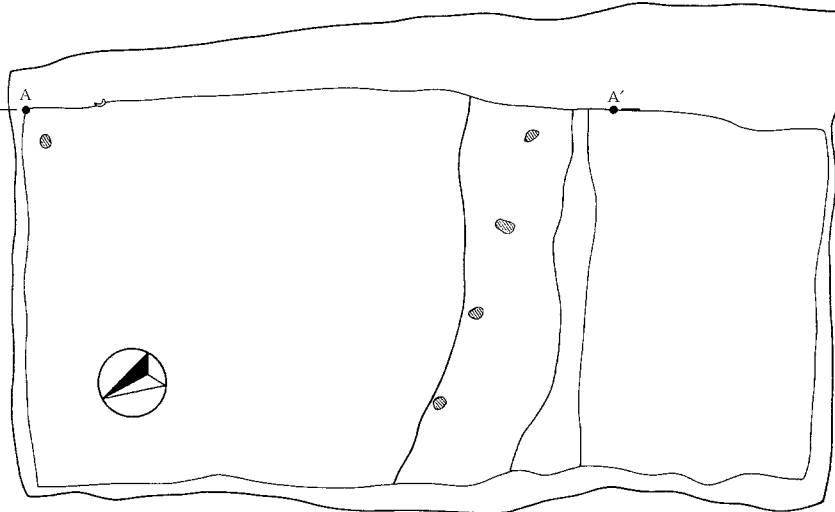


野毛上境町遺跡位置図 (1/25,000)






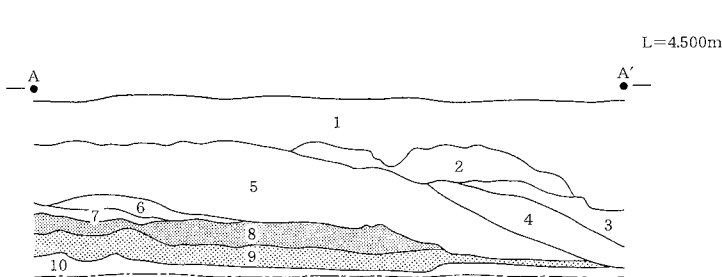
0 (1/400) 10m

調査区全体図



凡 例

-  木 杭
-  水田床土
-  水田床土



- 1層：現表土
- 2層：暗灰褐色粘質土
- 3層：暗黄灰色砂
- 4層：攪乱 (ガラス片等を含む)
- 5層：暗黄褐色砂
- 6層：暗灰褐色粘質土
- 7層：暗黒灰色粘質土
- 8層：暗灰青色粘質土 (旧水田床土)
- 9層：暗灰青色粘質土 (旧水田床土)
- 10層：青灰色砂質シルト

0 (1/60) 2m

グリッド実測図

付編 2. 鶴舞遺跡発掘調査報告

担当 鶴岡 英一

調査の概要 鶴舞遺跡は市原市の南部に位置し、養老川の支流である平蔵川の右岸、標高104mを測る台地上に立地する。遺跡内には幕末～明治維新期に置かれた鶴舞城跡が含まれ、調査地点は字郭内小路に位置する。遺跡周辺はこれまで調査例がほとんどなく、昭和62年度に鶴舞広小路遺跡、平成7年度・10年度に鶴舞子来遺跡の調査が行われたが、いずれも小規模な調査であり、周辺の様相を明らかにするまでには至っていない。今回の調査は、一般県道鶴舞牛久線の交差点の改良に伴うもので、調査対象面積132㎡のうち12㎡について確認調査を実施した。調査は、対象区域が幅約1.2m・長さ約100mという範囲であったため、路線幅に沿って幅1m・長さ2mと1m角の2種類を基本とする確認トレンチを任意に6ヶ所設定して行い、状況に応じて拡張した。調査区における基本層序は、I a・I b層：黒褐色土（盛土）、I c層：硬化する黒褐色土（表土）、II a層：暗褐色土、II c層：黒褐色土、III層：ソフトローム層、IV層：ハードローム層である。

鶴舞藩の概要 明治元年（1868）、江戸城を明け渡し、旧幕府直轄領を新政府に返上した徳川家は、駿府へ移封となり、駿河・遠江・三河の七十万石を新領地とすることとなった。これに伴い、これまで駿河・遠江の二国を所領としていた七諸藩は他への国替えを余儀なくされることとなり、旧幕領が多くあった房総地方へ全て移封された。このうち市原市域へは水野忠敬の沼津藩、井上正直の浜松藩が移封され、それぞれ菊間藩（五万石）・鶴舞藩（六万石）が設置されることとなった。

上総国へ移封された井上藩は、明治2年に長南宿を仮藩庁として、原野であった市原郡内田郷石川村の桐木原を開拓し、陣屋作りに着手する。翌3年には藩庁・知事邸宅・藩士の家屋等が完成移転し、城下町となった桐木原の地には鶴舞の町名が名付けられた。しかし、時代は新政府による中央集権制確立へ向かう激動の段階であり、明治2年には版籍奉還、明治4年には廃藩置県が行われるなど、井上正直の鶴舞での施政期間は大名として9ヶ月、鶴舞藩知事として2年1ヶ月、合わせて2年10ヶ月の短期間で終わっている。

原野であった桐木原を開拓したことからわかるように、現在の鶴舞の基礎は、この段階で整備されたものである。現在、鶴舞城のなごりは、旧知事邸宅跡にあたる鶴舞小学校や藩校克明館跡の鶴舞公民館、市街地に残されている土塁状の高まりなどに見ることができる。



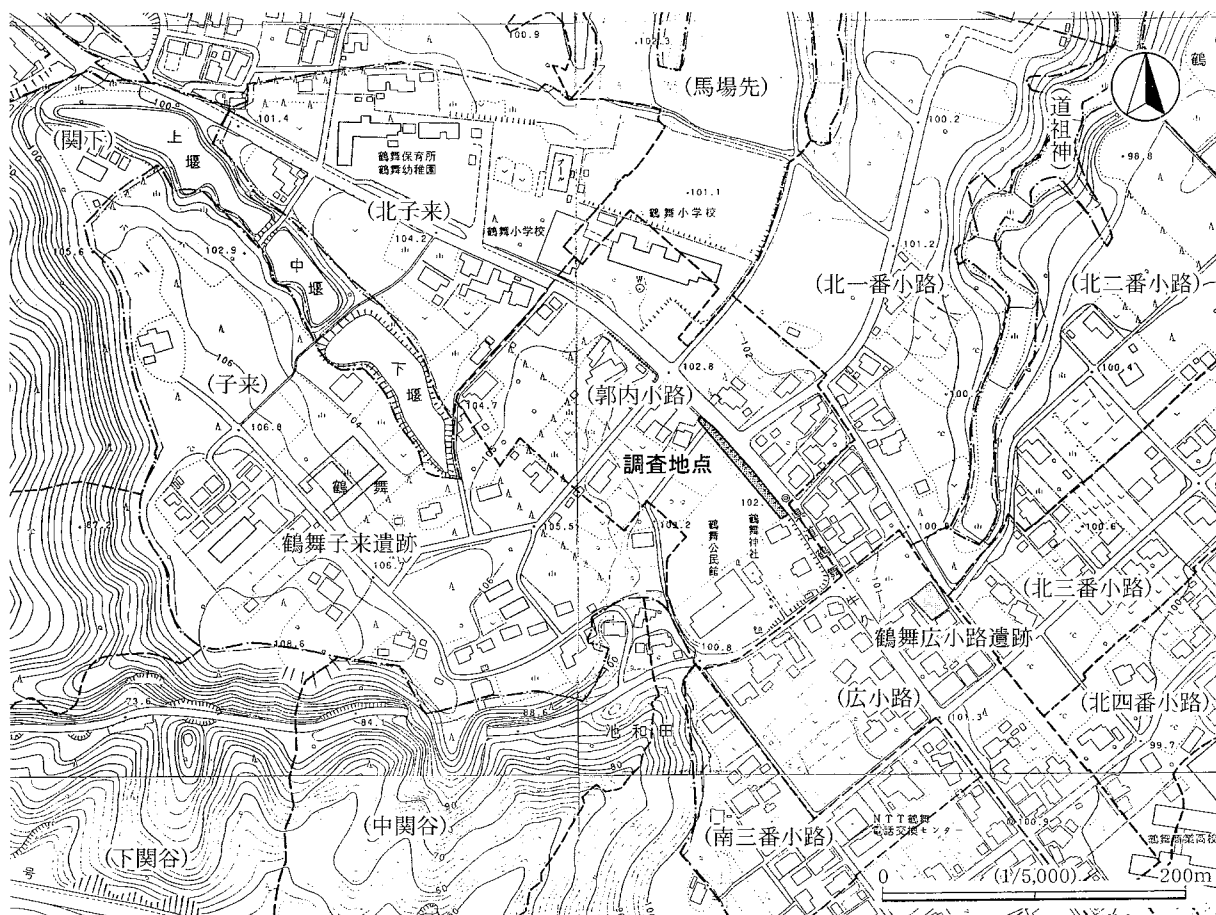
明治元年移封諸藩位置図

遺構と遺物 調査の結果、ごくわずかな量の縄文土器・土師器の細片が出土したほか、県道の敷設時になされたと思われる盛り土の下から井戸跡2基が検出された。

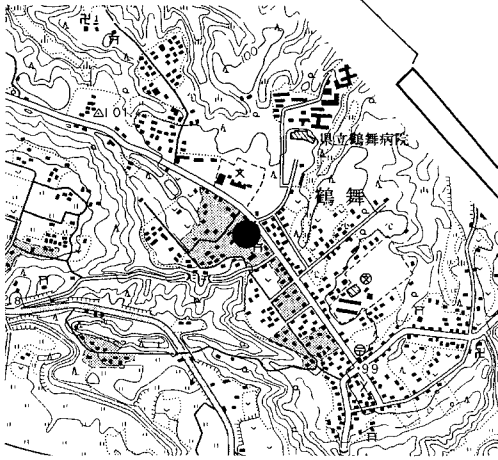
1号井戸跡 調査区南寄りのDトレンチから検出された。軟質砂岩を加工して井戸枠として用いており、内部からは井戸の廃絶に伴い埋め戻された土とともに多量の瓦片と陶磁器が出土している。県道側へのトレンチの拡張が不可能であるため、遺構の規模・深さともに明確ではないが、直径は井戸枠が1m程度、掘り方が1.5m程度を測るものと見られる。これに類する井戸は、鶴舞小学校内をはじめとして調査区周辺に数多く残されており、井戸の口の部分から2m程度に石の枠を用い、そこから下は素掘りのままという形態をとるようである。

2号井戸跡 調査区南寄りのEトレンチから検出された。1号井戸跡とは形態が異なるが、井戸跡と考えられる。上面は方形を呈し、わずかな段を持ってその内側は丸く掘り込まれる。埋め戻された土の中には軟質砂岩の大きな塊が混じるが、これは廃棄された井戸枠の残欠と思われる。規模は一辺1m程度、深さ不明である。遺物は瓦片が出土している。

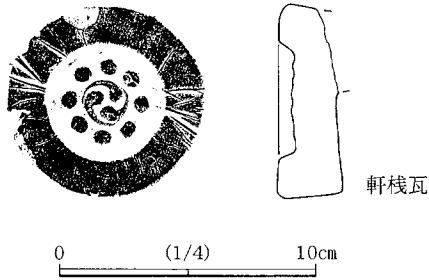
小 結 今回の調査では近代以降と考えられる井戸跡が検出されたが、調査範囲が限られたものであったこともあり、これらの遺構と鶴舞城との関連や、この区域が鶴舞城におけるどのような位置にあたるのかは明らかにならなかった。検出された井戸の廃棄については、覆土中から出土した陶磁器類から現代になされたものと考えられ、これは隣接する県道鶴舞牛久線の敷設時と思われる。しかし、出土した瓦や磁器の一部には幕末～明治期のものが含まれることから（櫻井敦史氏御教示）、付近におけ



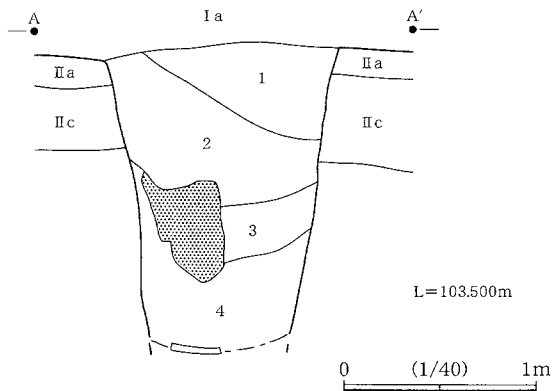
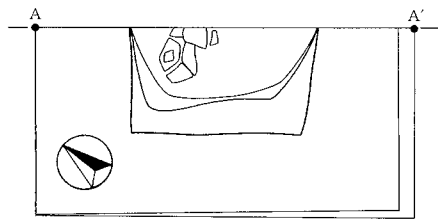
鶴舞遺跡周辺地形図



調査地点位置図 (1/25,000)

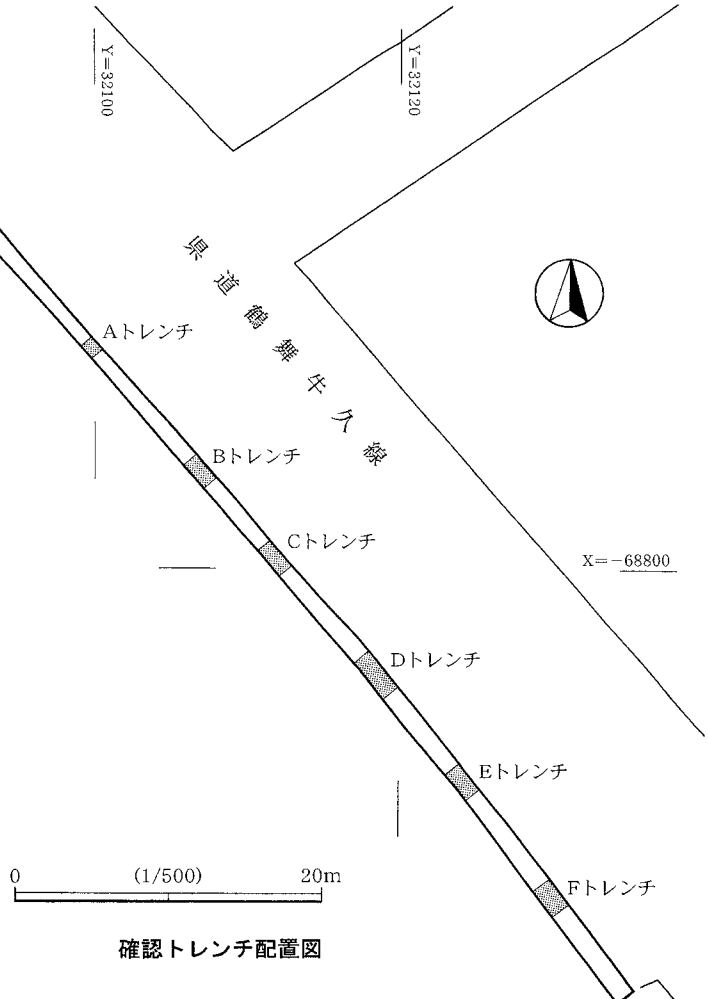


軒棧瓦

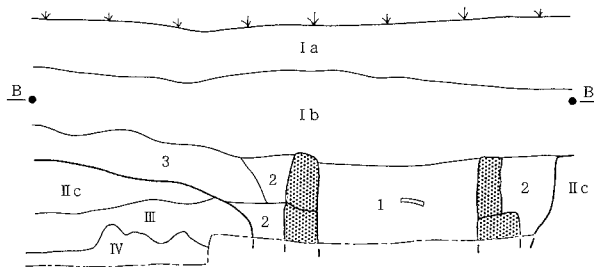
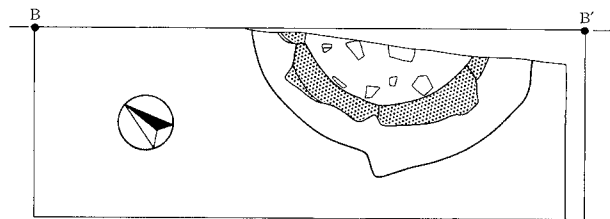


2号井戸跡 (Eトレンチ)

1. 7.5YR 3/4 暗褐：ハードロームブロックをやや多く含む
2. 7.5YR 3/3 暗褐：ハードロームブロック・砂岩小塊を少量含む
3. 7.5YR 3/2 黒褐：ハードロームブロックをわずかに含む
4. 7.5YR 3/4 暗褐：ハードロームブロックを多く含む



確認トレンチ配置図



1号井戸跡 (Dトレンチ)

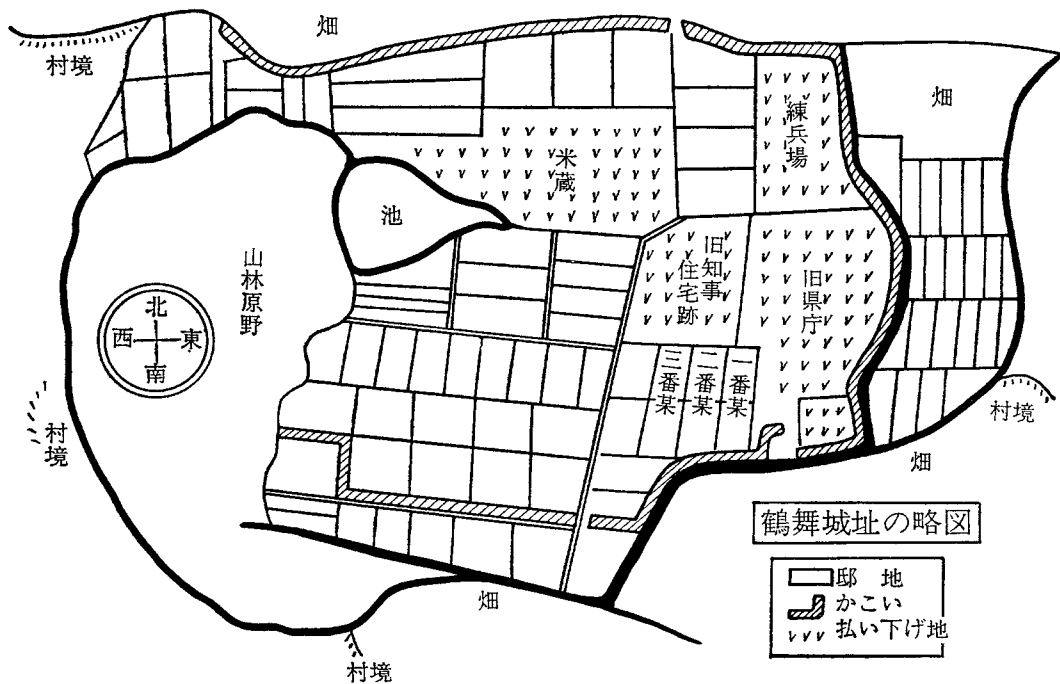
1. 7.5YR 3/2 黒褐：ハードローム粒・山砂をわずかに含む
2. 7.5YR 4/4 褐：ハードロームブロックを多く含む
3. 7.5YR 3/2 黒褐：ハードローム粒・山砂を少量含む

鶴舞遺跡全体図・出土遺物

るこの時期の建物の存在が予想され、井戸跡もこの施設に伴って掘られたものとも考えられる。校地4,636㎡の規模があったとされる藩校克明館跡地の鶴舞公民館に隣接することから、調査地点はこれに関連する場所、あるいは鶴舞城址略図に見える旧県庁付近に相当するのであろうか。存続期間が短く、未だ不明な点の多い鶴舞城の構造を明らかにすることと同時に、遺跡内には縄文土器や土師器を伴う遺構の存在も考えられ、今後の調査に期待が持たれる。

参考文献

市原郡教育会編 「鶴舞町誌」『千葉県市原郡誌 町村誌篇』 1987 国書刊行会
 市原市教育委員会編 「第1章 市原市の黎明」『市原市史（下巻）』 1982 市原市
 海保孝則 「第1章 松尾城と松尾藩」『松尾城跡Ⅱ』 1999 財団法人 山武郡市文化財センター
 櫻井敦史 「Ⅱ 鶴舞子来遺跡」『平成7年度 市原市内遺跡発掘調査報告』 1996 市原市教育委員会
 清藤一順 「第5章 鶴舞広小路遺跡」『昭和62年度 市原市埋蔵文化財緊急調査報告書』 1988 市原市教育委員会



『市原市史 下巻』より転載

付編 3. 鶴舞子来遺跡発掘調査報告

担当 鶴岡 英一

調査の概要 鶴舞子来遺跡は市原市の南部に位置し、養老川の支流である平蔵川の右岸、標高103～105mを測る台地上に立地する。遺跡には幕末～明治維新时期に置かれた鶴舞城跡が含まれる。鶴舞城は、明治元年（1868）に浜松から移封となった井上氏が、原野であったこの地を開拓したもので、鶴舞の地名をはじめ、調査地点の位置する子来という字名もこの時点に付けられたものである。平成7年度には西側隣接地で確認調査が実施されているが、周辺はこれまで調査例がほとんどなく、その様相は未だ明らかになっていない。

今回の調査は第1種電気通信無線基地局建設に伴うもので、調査対象面積300㎡のうち33㎡について確認調査を実施した。調査は、幅6m・長さ50mの調査区域内に、2m×2.5mの5㎡を基本とする確認トレンチを6ヶ所設定して行い、状況に応じて新設・拡張した。調査区における基本層序は、Ⅰ層：黒褐色土（表土）、Ⅱa層：黒褐色土、Ⅱb層：褐色土、Ⅱc層：暗褐色土（縄文時代遺物包含層）、Ⅲ層：ソフトローム層である。調査区の地形は北西に位置する下堰に向かって緩やかに傾斜しており、土層もこれに従い厚く堆積する。Ⅱb層はBトレンチから北側にのみ確認される。

遺構と遺物 調査の結果、縄文時代の土坑1基と時期不明の溝状遺構1条が検出されたほか、Ⅱc層中からは縄文時代中期後半～後期にかけての土器片が多数出土した。

1号土坑 調査区中央のCトレンチから検出された。楕円形を呈するものと思われる。規模は直径1.25m・深さ0.45mを測る。平坦な底面には、不整形を呈し、深さ7cmを測るピットが見られる。遺物は出土していない。

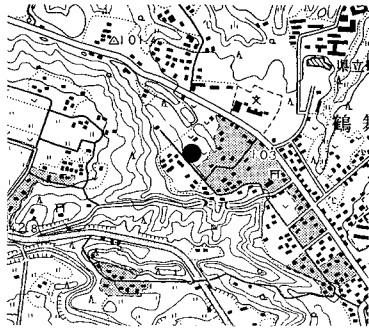
1号溝状遺構 調査区南寄りのEトレンチ、新設したGトレンチから検出された。幅1.7～1.9m・深さ0.4mを測る。主軸方位はN-40°-Wで、調査区域外へと延びる。表土直下から掘り込まれており、底面もローム層まで達していない。遺物は出土していない。

遺構外出土の遺物 遺物はⅡc層中から出土したものである。縄文時代中期後半（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）から後期後葉（安行1式期）にかけての土器片が見られるが、出土量は後期中葉が最も多い。その他、敲打痕のある磨石などが出土している。

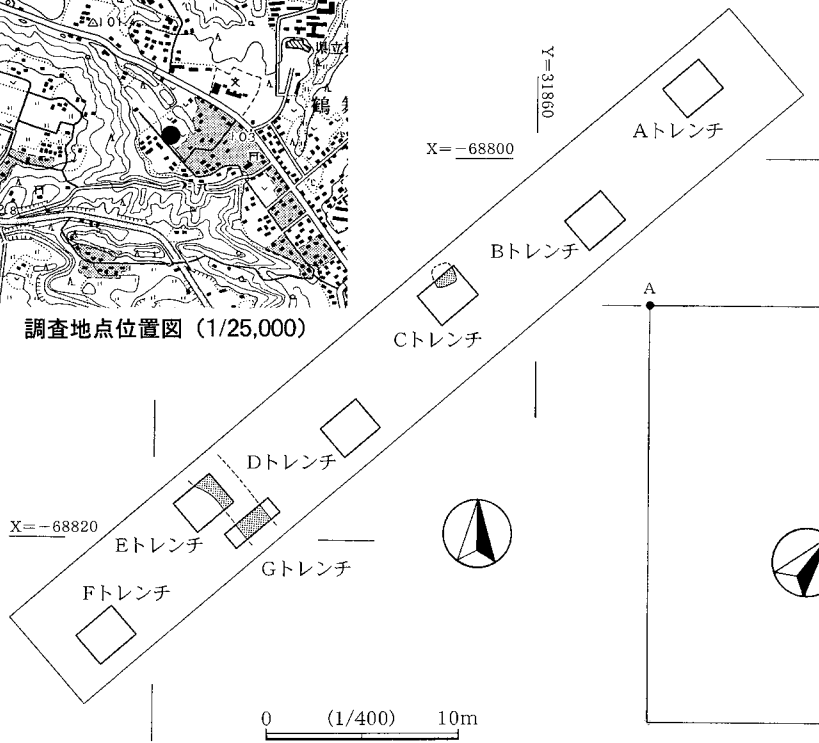
小 結 今回の調査では縄文時代の土坑1基と時期不明の溝状遺構1条が検出されるにとどまり、遺構の密度は薄かった。土坑は、隣接地調査の際に検出されたものに類似し、同時期の縄文時代中期後半頃の遺構と考えられる。出土した土器片は、現地表面にも多量の散布が見られる調査区南西側の台地平坦部から流れ込んだものであろう。ここには当該期の集落の存在が予想されるが、比高差約60mを測る南側の谷は急峻で、平坦部の面積も狭いことから、比較的小規模なものと考えられる。一方、溝状遺構については、ごく新しい時期のものと考えられるが、共伴する遺物もなく、鶴舞城との関連性の有無については不明である。

参考文献

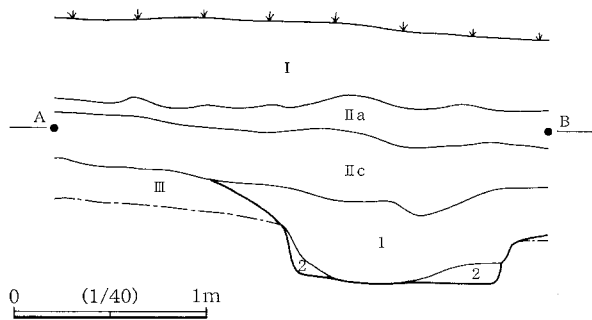
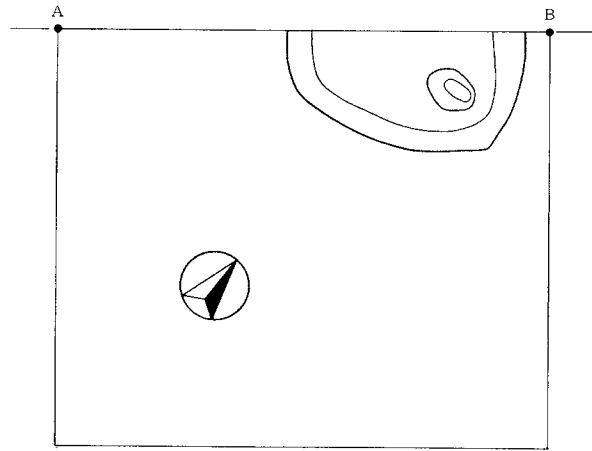
櫻井敦史 「Ⅱ 鶴舞子来遺跡」『平成7年度 市原市内遺跡発掘調査報告』 1996 市原市教育委員会



調査地点位置図 (1/25,000)

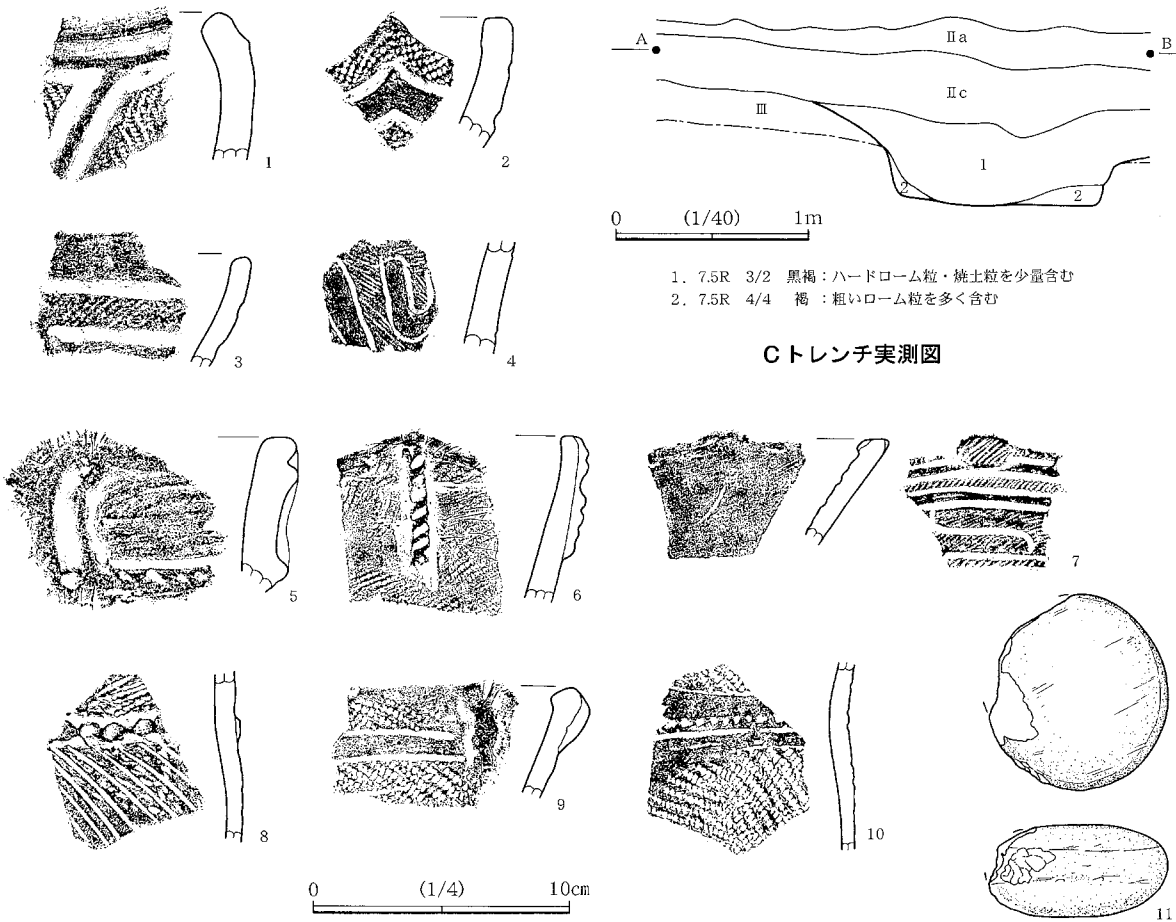


遺構配置図



- 1. 7.5R 3/2 黒褐：ハードローム粒・焼土粒を少量含む
- 2. 7.5R 4/4 褐：粗いローム粒を多く含む

Cトレンチ実測図



鶴舞子来遺跡全体図・出土遺物



野毛上境町遺跡 調査状況



野毛上境町遺跡 調査区全景



鶴舞遺跡 調査状況



鶴舞遺跡 調査状況



鶴舞遺跡 1号井戸跡



鶴舞遺跡 2号井戸跡



鶴舞子来遺跡 調査状況



鶴舞子来遺跡 1号土坑



Dトレンチ



1号井戸跡



1号井戸跡



1号井戸跡

鶴舞遺跡出土遺物



Bトレンチ



表採



Fトレンチ



表採



Dトレンチ



表採



Aトレンチ



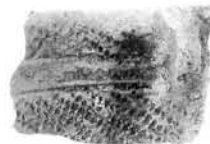
表採



Aトレンチ



Aトレンチ



Bトレンチ

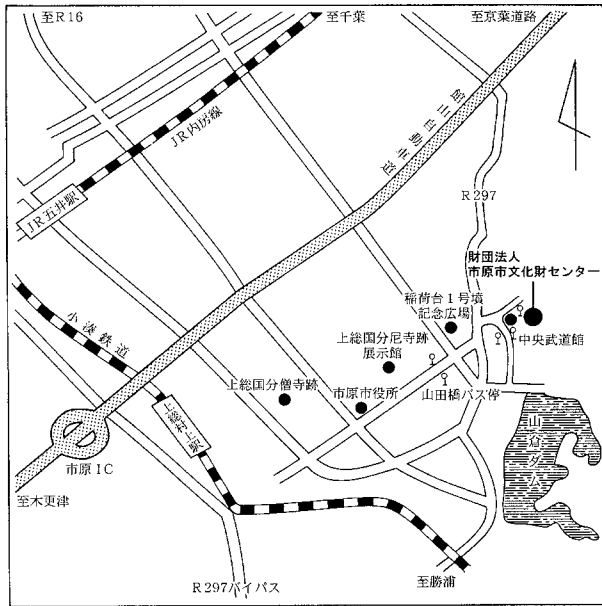


Bトレンチ

鶴舞子来遺跡出土遺物

抄 録

| ふりがな | いちはらしぶんかざいせんたーねんぽう へいせいじゅうねんど | | | | | | | |
|------------------------|---|-------|------|-------------------|--------------------|-------------------------------------|--------------------|--------------------------------------|
| 書名 | 市原市文化財センター年報 平成10年度 | | | | | | | |
| 副書名 | 付編1.野毛上境町遺跡調査報告 2.鶴舞遺跡調査報告 3.鶴舞子来遺跡調査報告 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 市原市文化財センター年報 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 平成10年度 | | | | | | | |
| 編著者名 | 1.小川浩一 2.鶴岡英一 3.鶴岡英一 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 市原市文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地 TEL.0436-41-7300 FAX.0436-42-0133 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2001年3月30日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 経緯度 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| のげかみさがまちいせき 野毛上境町遺跡 | ちばけんいちはらししまの 千葉県市原市島野 568-1, 568-3 | 12219 | セ268 | 35° 29' 46" | 140° 4' 46" | 19980611 ～ 19980615 | 250㎡ のうち 25㎡ | 市道2120号線 建設工事に伴 う埋蔵文化財 調査 |
| つるまいいせき 鶴舞遺跡 | ちばけんいちはらしつるまい 千葉県市原市鶴舞 620他 | 12219 | セ264 | 35° 22' 46" | 140° 11' 12" | 19980519 ～ 19980521 | 132㎡ のうち 12㎡ | 一般県道鶴舞 牛久線交差点 改良に伴う埋 蔵文化財調査 |
| つるまいねごらいせき 鶴舞子来遺跡 | ちばけんいちはらしつるまい 千葉県市原市鶴舞 661-2の一部 | 12219 | セ265 | 35° 22' 45" | 140° 11' 3" | 19980608 ～ 19980612 | 300㎡ のうち 33㎡ | 第1種電気通 信無線基地局 建設に伴う埋 蔵文化財調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 野毛上境町遺跡 | 包蔵地 | 近世末 | 河道跡 | | | | | |
| 鶴舞子来遺跡 | 包蔵地 | 縄文時代 | 土坑 | 縄文中～後期土 器片・磨石 | | 遺跡は幕末～明治維新时期 に置かれた鶴舞城跡が含ま れる。 | | |
| 鶴舞遺跡 | 城郭跡 | 近世末 | 井戸跡 | 近世末～現代陶 磁器片・瓦片 | | 遺跡は幕末～明治維新时期 に置かれた鶴舞城跡が含ま れる。 | | |



〔交通案内〕

- J R 東日本 内房線 五井駅下車
五井駅東口より中央武道館行バス
終点 文化財センター下車徒歩2分
- J R 東日本 内房線 八幡宿駅下車
八幡宿駅西口より市原市役所経由国分寺台行
又は千葉県こどもの国行バス 山田橋下車
徒歩5分 市原中学校入り口に入る
- 館山自動車道市原 I C を降り
市原市役所方向へ車で15分

市原市文化財センター年報 (平成10年度)

平成13年3月30日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地
TEL 0436(41)7300
FAX 0436(42)0133
E-mail ihbc@hkg.odn.ne.jp

印刷 三陽工業株式会社
〒290-0056 千葉県市原市五井5510-1番地
TEL 0436(22)4348